

久留米市

ヤングケアラー支援のための
子どもの生活実態調査

報告書

令和6年3月

久留米市

< 目 次 >

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計及び回収結果	1
3. 調査結果の見方	2
第2章 調査結果（小学生）	3
1. 回答者の属性	3
2. 健康状態	5
3. 欠席状況	6
4. 遅刻・早退状況	7
5. 学校外の活動の参加状況	8
6. 学校生活であてはまるもの	9
7. 悩んでいること	11
8. 悩みについて話を聞いてくれる人がいるか	13
9. 世話をしている家族の有無	14
10. 誰の世話をしているか	15
11. 母親・父親の状態	16
12. 祖母・祖父の状態	17
13. きょうだいの状態	18
14. 世話の内容	19
15. 世話を一緒にしている人	20
16. 世話を始めた年齢	21
17. 世話をしている頻度	22
18. 平日1日あたりの世話に費やす時間	23
19. 世話をしているためにやりたいけれどできないこと	24
20. 世話の大変さ	25
21. 世話について相談した経験	26
22. 世話についての相談相手	27
23. 世話について相談していない理由	28
24. 世話について話を聞いてくれる人の有無	29
25. 学校や大人にしてもらいたいこと	30
26. 希望する相談方法	32
27. 自身の権利が守られていると思うか	33
28. 自由意見	35
第3章 調査結果（中高生）	37
1. 回答者の属性	37
2. 健康状態	39

3.	欠席状況	40
4.	遅刻・早退状況	41
5.	学校外の活動の参加状況	42
6.	学校生活であてはまるもの	43
7.	悩んでいること	45
8.	悩みについて話を聞いてくれる人がいるか	47
9.	進路希望	49
10.	世話をしている家族の有無	51
11.	誰の世話をしているか	53
12.	母親・父親の状態	54
13.	祖母・祖父の状態	55
14.	きょうだいの状態	56
15.	世話の内容	57
16.	世話を一緒にしている人	58
17.	世話を始めた年齢	59
18.	世話をしている頻度	60
19.	平日1日あたりの世話に費やす時間	61
20.	世話をしているためにやりたいけれどできないこと	62
21.	世話の大変さ	64
22.	世話について相談した経験	65
23.	世話についての相談相手	66
24.	世話について相談していない理由	68
25.	世話について話を聞いてくれる人の有無	70
26.	家族の世話をしている人同士で話をしたいか	71
27.	学校や大人にしてもらいたいこと	72
28.	希望する相談方法	74
29.	知っている相談窓口	75
30.	自身の権利が守られていると思うか	77
31.	自由意見	79
第4章 調査結果（学校）		82
1.	回答者の属性	82
2.	S S Wの派遣・配置状況	83
3.	S Cの派遣・配置状況	84
4.	校内で共有している子どものケース	85
5.	情報共有・対応の検討体制	86
6.	学年会の頻度	87
7.	生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度	88
8.	ケース会議の頻度	89
9.	不登校に関する対策会議の頻度	90

10.	その他の会議の頻度	91
11.	情報共有・対応の検討の体制・方法（自由記述）	92
12.	学校以外の関係機関との連携体制（要保護児童対策地域協議会の登録ケース） ...	94
13.	学校以外の関係機関との連携体制（不登校のケース）	96
14.	学校以外の関係機関との連携体制（それ以外のケース）	98
15.	ヤングケアラーという概念の認識	100
16.	ヤングケアラーの実態把握状況	101
17.	ヤングケアラーの把握方法	102
18.	ヤングケアラーの実態把握において工夫・苦慮していること（自由記述）	103
19.	ヤングケアラーと思われる子どもの有無	104
20.	ヤングケアラーと思われる子どもの状況	105
21.	外部の支援につないだケースの有無	106
22.	外部の支援につながなかった理由	107
23.	要保護児童対策地域協議会に通告したケース	108
24.	学校以外の外部の支援につないだケース	110
25.	学校内でできうる支援を行ったケース	112
26.	ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと	114
27.	ヤングケアラーの対応をする上で課題だと思うこと	115
28.	学校で今後取り組み可能なこと	116
29.	「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っているか	118
30.	学校が連携を強化していく必要がある機関	119
31.	自由意見	122
第5章 調査結果（関係機関ヒアリング）		124
1.	ヒアリング調査の実施概要	124
2.	ヤングケアラーとの関わり、把握・支援の状況	125
3.	ヤングケアラー支援上の課題	127
4.	ヤングケアラー支援として必要なこと	130
第6章 調査結果のまとめ		132
1.	児童生徒アンケート	132
2.	学校アンケート	135
3.	関係機関ヒアリング	136
4.	総括	137
参考資料 調査票		138

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は久留米市内のヤングケアラーに関する実態を把握し、その解決に必要な支援策を検討することを目的としている。

2. 調査設計及び回収結果

調査の種類 ・ 調査対象	①児童生徒アンケート調査（小学生）： 市内小学校・特別学校小学部に在籍する6年生 2,919名 ②児童生徒アンケート調査（中学生）： 市内中学校・特別支援学校中学部に在籍する2年生 2,932名 市内高等学校等・特別支援学校高等部に在籍する2年生 2,709名 ③学校アンケート調査： 市内小学校・中学校・高等学校等・特別支援学校 82校 ④関係機関ヒアリング調査： ヤングケアラー関係機関及び学校 10団体
調査方法	①②児童生徒アンケート調査： ・各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人が回答 ・紙の調査票への記入方式とWEBアンケートフォームでの回答方式を併用 ③学校アンケート調査： ・各学校へ調査依頼文を配布し、各学校の担当者が回答 ・WEBアンケートフォームでの回答方式 ④関係機関ヒアリング調査： ・各関係機関及び学校にヒアリングシートを事前配布、回収 ・各機関別に個別ヒアリング（面談）
調査項目	アンケート調査①～③については、国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、本市独自項目の追加等を行った
回収数 ※カッコ内 有効回収率	①児童生徒アンケート調査（小学生） : 841人（28.8%） ②児童生徒アンケート調査（中学生） 中学生 : 524人（17.9%） 高校生 : 333人（12.3%） 学年不明（無回答） : 1人 ③学校アンケート調査 : 75校（91.5%） ④関係機関ヒアリング調査 : 10団体（100.0%）
実施期間	①児童生徒アンケート調査（小学生） : 令和5年11月7日～令和5年11月24日 ②児童生徒アンケート調査（中学生） : 令和5年11月7日～令和5年11月24日 ③学校アンケート調査 : 令和5年10月10日～令和5年11月6日 ④関係機関ヒアリング調査 : 令和5年11月28日～令和5年12月14日

※高等専門学校学生は「児童生徒アンケート調査（中学生）」に含む

3. 調査結果の見方

- 回答は、原則として各質問の調査数を基数（n）とした百分率（%）で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- クロス集計表の表側に使用している「学年別」「性別」等の基本属性では、副問（サブクエスチョン）等の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回収数にならない場合がある。
- 属性別の分析等において、基数（調査数）が少ないものについては、その結果は参考程度に留め、分析コメントを省略する場合がある。
- 本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、コンピュータ入力の都合上、省略して表記している場合があるため、詳細は「参考資料 調査票」を参照のこと。
- 居住地の分類は以下のとおりである。

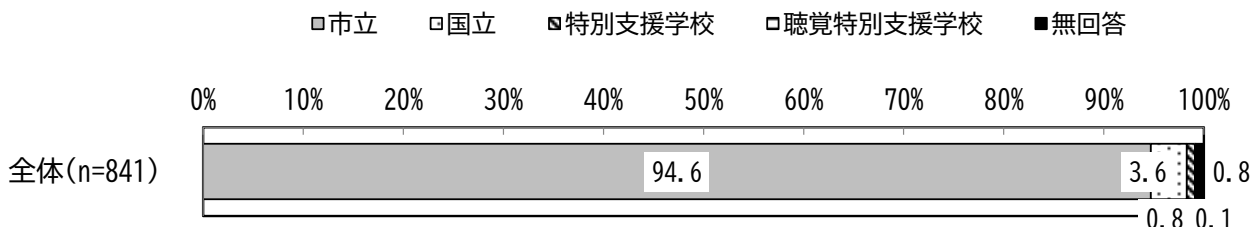
居住地名	該当する地区
東部	山川・山本・草野・善道寺・大橋・船越・水縄・田主丸・水分・竹野・川会・柴刈
西部	安武・荒木・大善寺・城島（下田・浮島など）・江上・青木・西牟田・犬塚・三瀧
南部	南・上津・高良内・青峰・津福
北部	小森野・御井・合川・宮ノ陣・弓削・北野・大城・金島
中央	西国分・荘島・日吉・篠山・京町・南薫・鳥飼・長門石・金丸・東国分

第2章 調査結果（小学生）

1. 回答者の属性

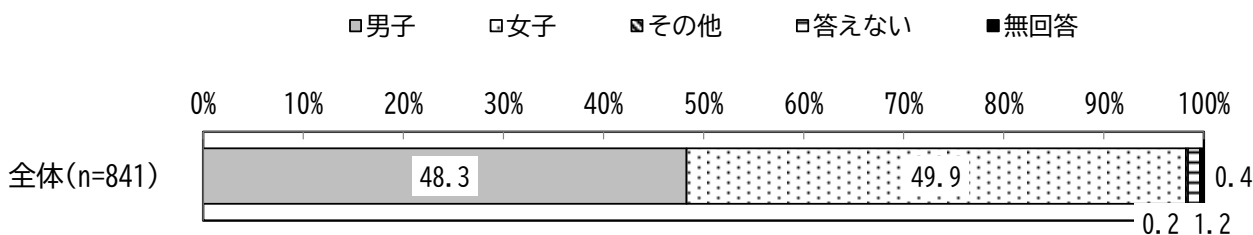
(1) 学校種別

図表－1 学校種別



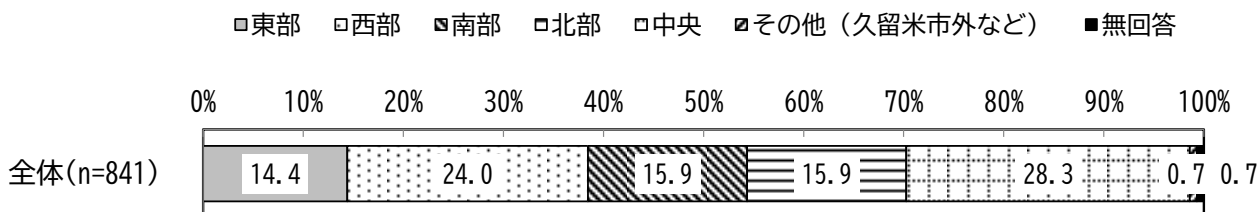
(2) 性別

図表－2 性別



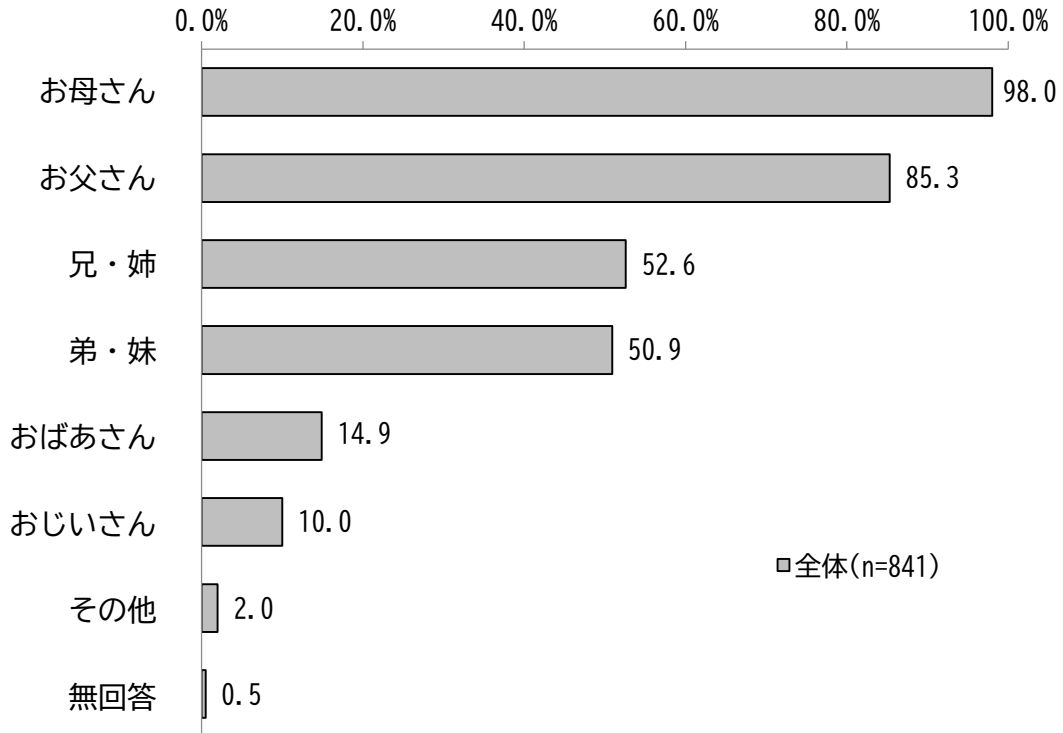
(3) 居住地

図表－3 居住地



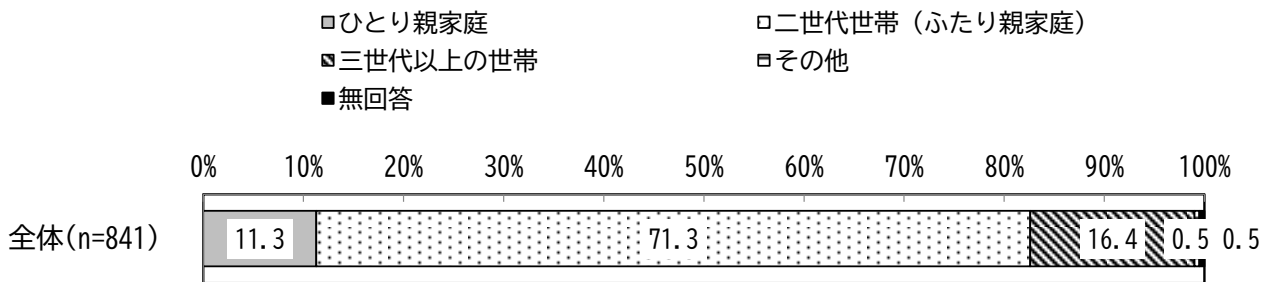
(4) 同居家族

図表-4 同居家族



(5) 家族構成

図表-5 家族構成



2. 健康状態

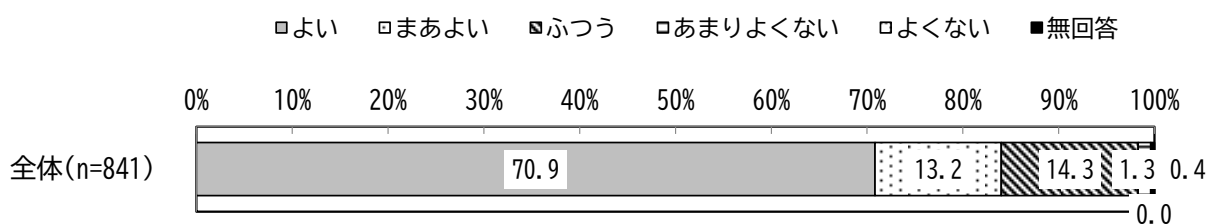
問5 あなたの健康状態について教えてください。

健康状態について聞いたところ、「よい」(70.9%)の割合が最も高く、次いで「ふつう」(14.3%)、「まあよい」(13.2%)となっている。また、「よくない」の割合は0.0%となっている。

性別にみると、女子の方が男子と比べて「よい」(73.6%)の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「よい」(65.2%)の割合が低くなっている。

図表－6 健康状態



図表－7 性別、家族の世話別 健康状態

単位：%

		調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体		841	70.9	13.2	14.3	1.3	-	0.4
性別	男子	406	68.5	17.2	12.8	1.2	-	0.2
	女子	420	73.6	9.0	16.0	1.4	-	-
	その他	2	50.0	50.0	-	-	-	-
	答えない	10	70.0	20.0	10.0	-	-	-
	無回答	3	33.3	-	-	-	-	66.7
家族の世話	している	66	65.2	18.2	15.2	1.5	-	-
	していない	755	71.4	12.7	14.3	1.3	-	0.3
	無回答	20	70.0	15.0	10.0	-	-	5.0

3. 欠席状況

問6(1) あなたは学校を欠席することがありますか(病気の場合を除く)。

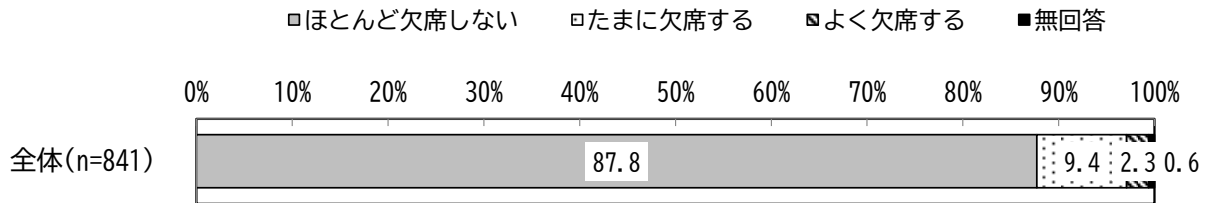
欠席状況について聞いたところ、「ほとんど欠席しない」(87.8%)の割合が最も高く、次いで「たまに欠席する」(9.4%)、「よく欠席する」(2.3%)となっている。

性別にみると、男子の方が女子と比べて欠席する傾向にある。

家族構成別にみると、「ほとんど欠席しない」の割合は二世帯世帯(ふたり親家庭)(89.7%)が最も高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が欠席しない傾向にある。

図表-8 欠席状況



図表-9 性別、家族構成、家族の世話別 欠席状況

単位：%

		調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
全 体		841	87.8	9.4	2.3	0.6
性別	男子	406	86.0	10.6	2.5	1.0
	女子	420	90.5	7.6	1.9	-
	その他	2	-	100.0	-	-
	答えない	10	70.0	20.0	10.0	-
	無回答	3	66.7	-	-	33.3
家族構成	ひとり親家庭	95	83.2	10.5	6.3	-
	二世帯世帯(ふたり親家庭)	600	89.7	8.0	1.7	0.7
	三世帯以上の世帯	138	84.8	13.8	1.4	-
	その他	4	75.0	25.0	-	-
	無回答	4	25.0	25.0	25.0	25.0
世話の家族	している	66	90.9	7.6	1.5	-
	していない	755	87.9	9.4	2.4	0.3
	無回答	20	70.0	15.0	-	15.0

4. 遅刻・早退状況

問6(2) あなたは学校を遅刻や早退することがありますか(病気の場合を除く)。

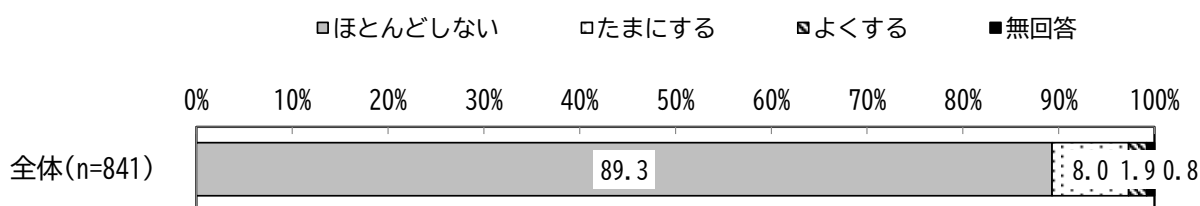
遅刻・早退状況について聞いたところ、「ほとんどしない」(89.3%)の割合が最も高く、次いで「たまにする」(8.0%)、「よくする」(1.9%)となっている。

性別にみると、男子の方が女子と比べて遅刻・早退をする傾向にある。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「ほとんどしない」(83.2%)の割合が低くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が遅刻・早退をする傾向にある。

図表一10 遅刻・早退状況



図表一11 性別、家族構成、家族の世話別 遅刻・早退状況

単位：%

		調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
全 体		841	89.3	8.0	1.9	0.8
性別	男子	406	87.9	9.1	2.2	0.7
	女子	420	91.2	6.4	1.7	0.7
	その他	2	50.0	50.0	-	-
	答えない	10	80.0	20.0	-	-
	無回答	3	66.7	-	-	33.3
家族構成	ひとり親家庭	95	83.2	11.6	5.3	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	600	91.0	6.7	1.3	1.0
	三世帯以上の世帯	138	87.7	10.1	2.2	-
	その他	4	100.0	-	-	-
	無回答	4	25.0	50.0	-	25.0
家族の世話の	している	66	86.4	10.6	3.0	-
	していない	755	90.1	7.5	1.9	0.5
	無回答	20	70.0	15.0	-	15.0

5. 学校外の活動の参加状況

問7 放課後、習い事をしていますか。

学校外の活動の参加状況について聞いたところ、「はい」が76.3%、「いいえ」が23.1%となっている。

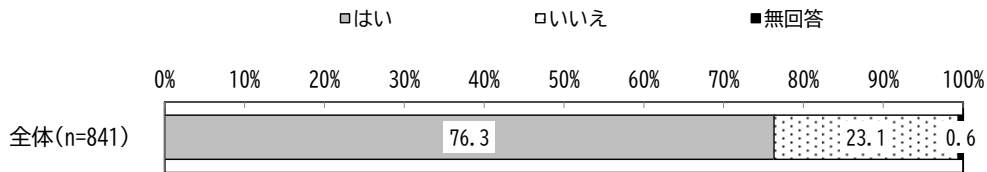
家族構成別にみると、二世帯世帯（ふたり親家庭）において「はい」（79.7%）の割合が高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人の方が「はい」（77.8%）の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、世話をしている人の方が「いいえ」（25.8%）の割合が高くなっている。

性別には、大きな差は見られない。

図表－12 学校外の活動の参加状況



図表－13 性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別 学校外の活動の参加状況

単位：%

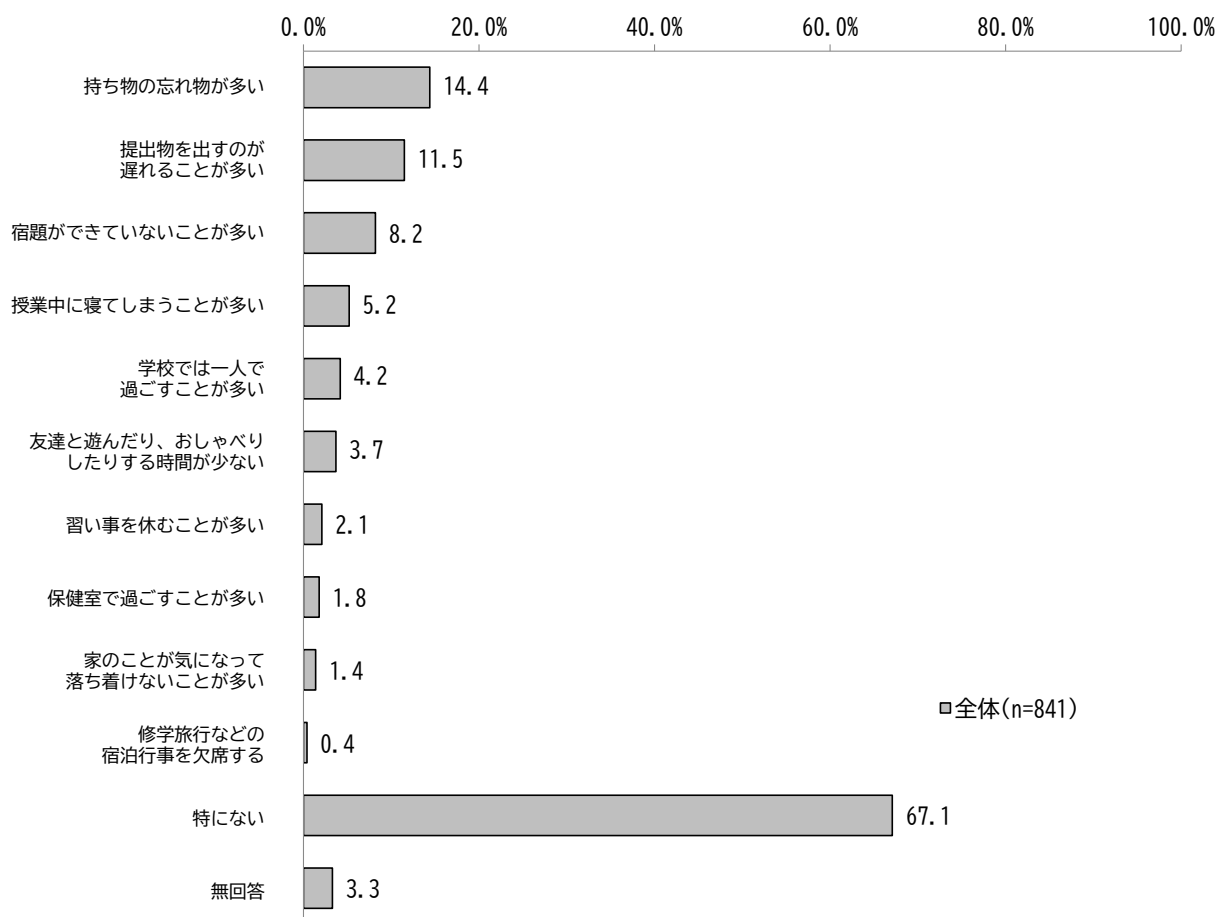
		調査数	はい	いいえ	無回答
全 体		841	76.3	23.1	0.6
性別	男子	406	77.8	21.7	0.5
	女子	420	75.0	24.5	0.5
	その他	2	100.0	-	-
	答えない	10	70.0	30.0	-
	無回答	3	66.7	-	33.3
家族構成	ひとり親家庭	95	67.4	31.6	1.1
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	600	79.7	20.0	0.3
	三世帯以上の世帯	138	71.7	27.5	0.7
	その他	4	-	100.0	-
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
自身の権利	守られている	679	77.8	21.6	0.6
	だいたい守られている	128	68.8	31.3	-
	あまり守られていない	4	100.0	-	-
	守られていない	-	-	-	-
	わからない	18	66.7	33.3	-
無回答	12	83.3	8.3	8.3	
家族の世話	している	66	74.2	25.8	-
	していない	755	77.0	22.8	0.3
	無回答	20	60.0	25.0	15.0

6. 学校生活であてはまるもの

問8 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

学校生活であてはまるものについて聞いたところ、「特にない」(67.1%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「持ち物の忘れ物が多い」(14.4%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(11.5%)、「宿題ができていないことが多い」(8.2%)の順となっている。

図表－14 学校生活であてはまるもの



学校生活であてはまるものについて性別にみると、女子の方が男子と比べて「特にない」(74.0%)の割合が高くなっている。また、男子では「宿題ができていないことが多い」(10.8%)、「持ち物の忘れ物が多い」(19.2%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(17.2%)の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「特にない」(52.6%)の割合が低くなっている。また、ひとり親家庭では「宿題ができていないことが多い」(17.9%)、「持ち物の忘れ物が多い」(22.1%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(21.1%)の割合が高くなっているが、その他に「家のことが気になって落ち着けないことが多い」(7.4%)の割合も高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「特にない」(60.6%)の割合が低くなっている。また、家族の世話をしている人では「宿題ができていないことが多い」(15.2%)、「持ち物の忘れ物が多い」(19.7%)、「提出物を出すのが遅れることが多い」(16.7%)の割合が高くなっているが、その他に「授業中に寝てしまうことが多い」(9.1%)の割合も高くなっている。

図表－15 性別、家族構成、家族の世話別 学校生活であてはまるもの

単位：%

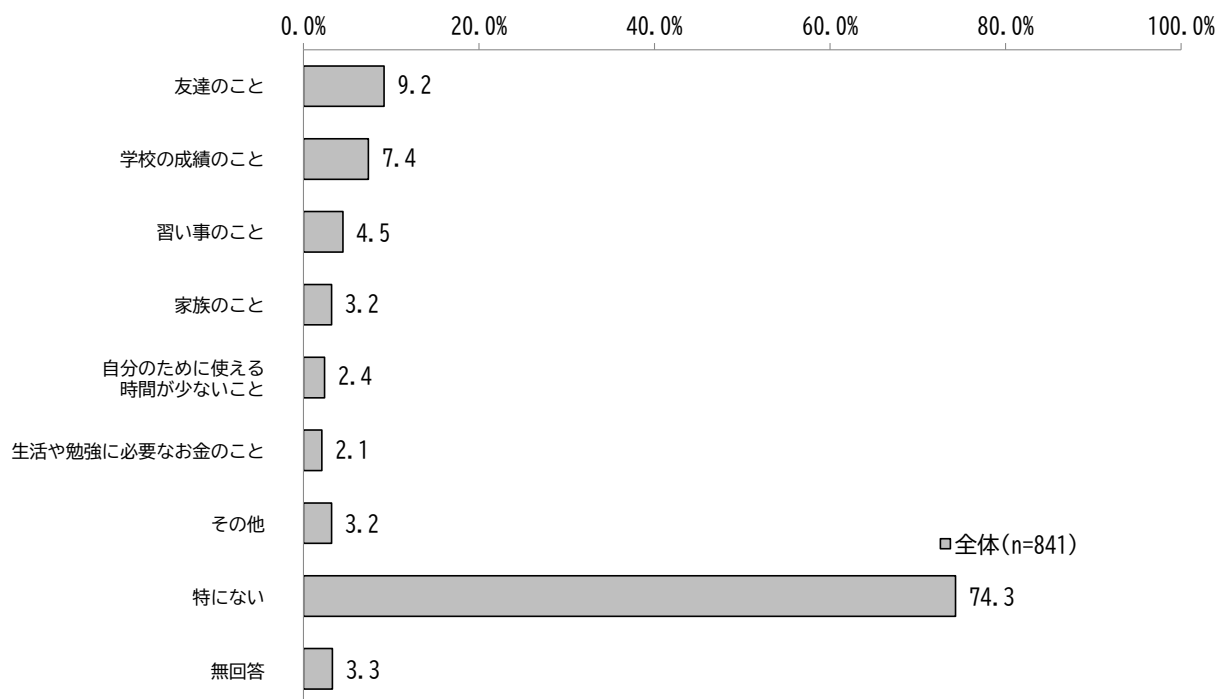
		調査数	多 い	多 い	持 ち 物 の 忘 れ 物 が 多 い	習 い 事 を 休 む こ と が 多 い	提 出 物 を 出 す の が 遅 れ る こ と が 多 い	修 学 旅 行 な ど の 宿 泊 行 事 を 欠 席 す る	保 健 室 で 過 ご す こ と が 多 い	が 学 校 で は 一 人 で 過 ご す こ と が 多 い	り 友 達 と 遊 ん だ り 、 お し ゃ べ す る 時 間 が 少 し な い	家 の こ と が 気 に な っ て 落 ち 着 け な い こ と が 多 い	特 に な い	無 回 答
全 体		841	5.2	8.2	14.4	2.1	11.5	0.4	1.8	4.2	3.7	1.4	67.1	3.3
性別	男子	406	5.2	10.8	19.2	2.7	17.2	0.5	1.0	2.7	3.7	1.0	59.9	3.2
	女子	420	5.5	5.7	10.0	1.7	6.0	0.2	2.4	5.5	3.8	1.9	74.0	3.3
	その他	2	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	答えない	10	-	-	-	-	20.0	-	-	10.0	-	-	70.0	-
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
家族構成	ひとり親家庭	95	7.4	17.9	22.1	4.2	21.1	2.1	4.2	3.2	3.2	7.4	52.6	4.2
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	600	5.5	6.7	13.7	1.8	9.7	0.2	1.7	4.0	3.0	0.8	69.3	3.2
	三世帯以上の世帯	138	2.9	7.2	11.6	2.2	12.3	-	0.7	5.8	7.2	-	68.8	2.2
	その他	4	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	25.0
	無回答	4	-	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	50.0	25.0
家族の世話	している	66	9.1	15.2	19.7	3.0	16.7	-	3.0	6.1	4.5	3.0	60.6	-
	していない	755	4.6	7.7	13.9	2.0	11.3	0.4	1.7	4.1	3.7	1.3	67.9	3.3
	無回答	20	15.0	5.0	15.0	5.0	5.0	-	-	-	-	-	55.0	15.0

7. 悩んでいること

問9 あなたが悩んでいることはありますか。

悩んでいることについて聞いたところ、「特にない」（74.3％）の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「友達のこと」（9.2％）、「学校の成績のこと」（7.4％）、「習い事のこと」（4.5％）の順となっている。

図表－16 悩んでいること



悩んでいることについて性別にみると、男子の方が女子と比べて「特にない」（76.6％）の割合が高くなっている。また、女子では「友達のこと」（13.3％）の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「特にない」（67.4％）の割合が低くなっている。また、ひとり親家庭では「学校の成績のこと」（13.7％）、「家族のこと」（8.4％）、「生活や勉強に必要なお金のこと」（6.3％）の割合が高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人において「特にない」（78.9％）の割合が高くなっている。また、だいたい守られている人では「特にない」を除くすべての項目において守られている人よりも割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「特にない」（51.5％）の割合が低くなっている。また、家族の世話をしている人では「特にない」を除くすべての項目において家族の世話をしていない人よりも割合が高くなっており、特に「友達のこと」（18.2％）、「学校の成績のこと」（15.2％）、「家族のこと」（9.1％）の割合が高くなっている。

図表－17 性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別 悩んでいること

単位：％

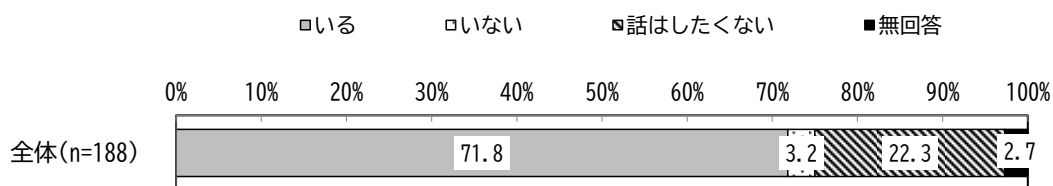
		調査数	友達のこと	学校の成績のこと	習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
全 体		841	9.2	7.4	4.5	3.2	2.1	2.4	3.2	74.3	3.3
性別	男子	406	4.9	6.4	4.2	2.5	3.2	2.5	3.4	76.6	4.7
	女子	420	13.3	8.1	5.0	4.0	1.2	2.4	3.1	72.1	1.7
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	答えない	10	10.0	20.0	-	-	-	-	-	80.0	-
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3
家族構成	ひとり親家庭	95	11.6	13.7	3.2	8.4	6.3	3.2	5.3	67.4	4.2
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	600	8.5	5.8	5.0	2.3	1.3	1.3	3.5	76.0	3.2
	三世帯以上の世帯	138	10.9	9.4	3.6	2.9	2.2	6.5	0.7	72.5	2.2
	その他	4	-	25.0	-	25.0	25.0	-	-	50.0	25.0
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	75.0	25.0
自身の権利	守られている	679	7.4	6.2	3.5	1.6	1.6	1.6	2.5	78.9	2.8
	だいたい守られている	128	13.3	12.5	7.0	7.8	3.9	3.9	6.3	57.8	4.7
	あまり守られていない	4	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	50.0	-
	守られていない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	わからない	18	38.9	16.7	22.2	33.3	5.6	11.1	11.1	44.4	-
	無回答	12	16.7	8.3	8.3	-	-	8.3	-	41.7	25.0
家族の世話	している	66	18.2	15.2	6.1	9.1	4.5	4.5	7.6	51.5	4.5
	していない	755	8.3	6.8	4.2	2.4	2.0	2.1	2.9	76.6	2.9
	無回答	20	10.0	5.0	10.0	15.0	-	5.0	-	65.0	15.0

8. 悩みについて話を聞いてくれる人がいるか

問10 問9で答えた悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。

悩んでいることがあると回答した人に、悩みについて話を聞いてくれる人がいるかについて聞いたところ、「いる」が71.8%、「いない」が3.2%、「話はしたくない」が22.3%となっている。性別にみると、男子の方が「いる」（76.3%）の割合が高くなっている。

図表－18 悩みについて話を聞いてくれる人がいるか



図表－19 性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別
悩みについて話を聞いてくれる人がいるか

単位：%

		調査数	いる	いない	話はしたくない	無回答
全 体		188	71.8	3.2	22.3	2.7
性別	男子	76	76.3	1.3	21.1	1.3
	女子	110	69.1	4.5	22.7	3.6
	その他	-	-	-	-	-
	答えない	2	50.0	-	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	27	51.9	3.7	44.4	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	125	76.8	1.6	18.4	3.2
	三世帯以上の世帯	35	68.6	8.6	20.0	2.9
	その他	1	100.0	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-
自身の権利	守られている	124	79.0	0.8	17.7	2.4
	だいたい守られている	48	64.6	6.3	27.1	2.1
	あまり守られていない	2	50.0	50.0	-	-
	守られていない	-	-	-	-	-
	わからない	10	20.0	-	70.0	10.0
	無回答	4	75.0	25.0	-	-
家族の世話	している	29	65.5	-	24.1	10.3
	していない	155	73.5	3.9	21.3	1.3
	無回答	4	50.0	-	50.0	-

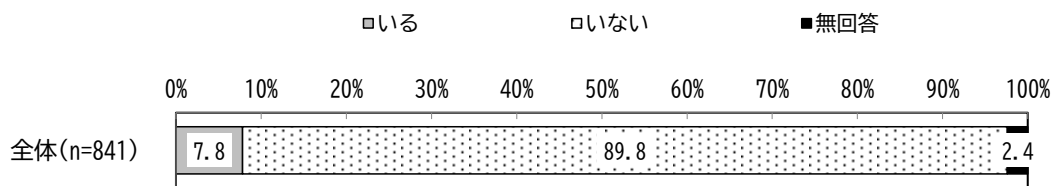
9. 世話をしている家族の有無

問11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか(ここで「お世話」とは、普通大人がしているような家事や家族のお世話を指します)。

世話をしている家族の有無について聞いたところ、「いる」が7.8%、「いない」が89.8%となっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「いる」(13.7%)の割合が高くなっている。性別、居住地、自身の権利別には、大きな差は見られない。

図表一20 世話をしている家族の有無



図表一21 性別、居住地、家族構成、自身の権利別 世話をしている家族の有無

単位：%

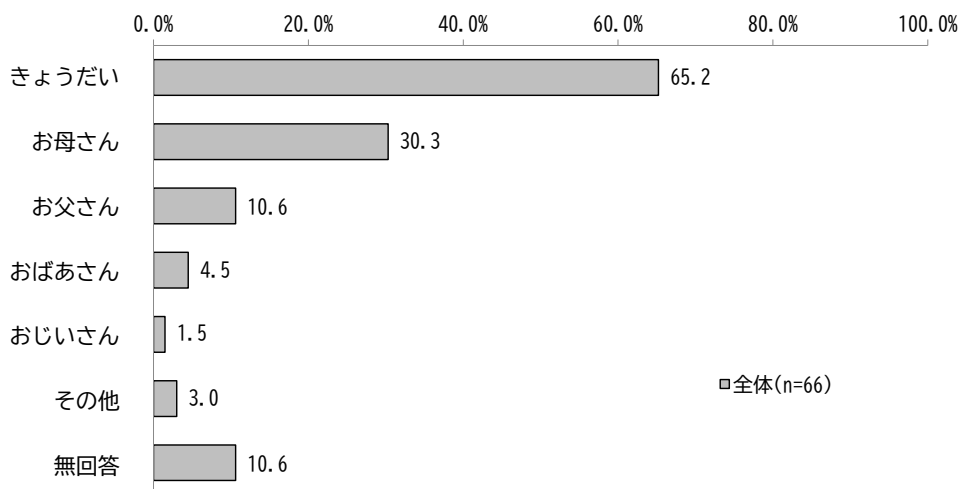
		調査数	いる	いない	無回答
全体		841	7.8	89.8	2.4
性別	男子	406	7.6	90.9	1.5
	女子	420	8.1	88.8	3.1
	その他	2	-	100.0	-
	答えない	10	10.0	90.0	-
	無回答	3	-	66.7	33.3
居住地	東部	121	9.1	90.1	0.8
	西部	202	6.9	92.1	1.0
	南部	134	7.5	88.1	4.5
	北部	134	9.0	88.1	3.0
	中央	238	7.6	89.9	2.5
	その他(久留米市外など)	6	16.7	83.3	-
無回答	6	-	83.3	16.7	
家族構成	ひとり親家庭	95	13.7	83.2	3.2
	二世帯世帯(ふたり親家庭)	600	7.3	90.8	1.8
	三世帯以上の世帯	138	5.8	90.6	3.6
	その他	4	-	100.0	-
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
自身の権利	守られている	679	6.8	91.0	2.2
	だいたい守られている	128	9.4	88.3	2.3
	あまり守られていない	4	25.0	75.0	-
	守られていない	-	-	-	-
	わからない	18	22.2	77.8	-
	無回答	12	25.0	58.3	16.7

10. 誰の世話をしているか

問12(1) あなたは誰のお世話をしていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、誰の世話をしているかについて聞いたところ、「きょうだい」（65.2%）、「お母さん」（30.3%）、「お父さん」（10.6%）の順となっている。

図表－22 誰の世話をしているか



図表－23 性別、家族構成別 誰の世話をしているか

単位：%

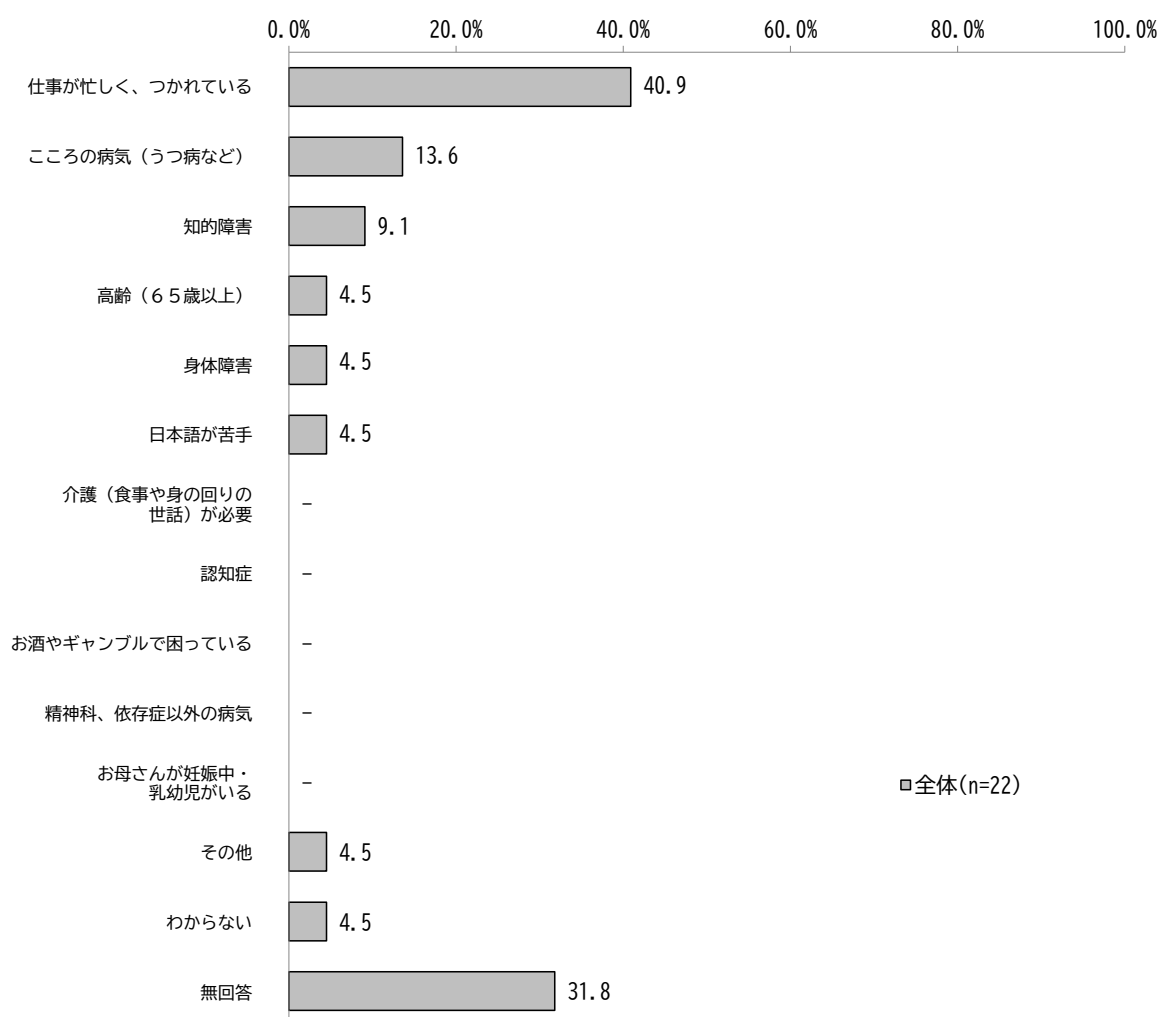
		調査数	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	その他	無回答
全 体		66	30.3	10.6	4.5	1.5	65.2	3.0	10.6
性別	男子	31	25.8	12.9	9.7	3.2	54.8	3.2	19.4
	女子	34	35.3	8.8	-	-	73.5	2.9	2.9
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	-	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	53.8	-	-	-	61.5	7.7	7.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	27.3	13.6	2.3	-	65.9	-	13.6
	三世帯以上の世帯	8	12.5	12.5	25.0	12.5	62.5	12.5	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-

11. 母親・父親の状態

問12(2)① お母さん、お父さんはどのような状態ですか。

母親・父親の世話をしていると回答した人に、母親・父親の状態について聞いたところ、「仕事が忙しく、つかれている」(40.9%)、「こころの病気(うつ病など)」(13.6%)、「知的障害」(9.1%)の順となっている。

図表-24 母親・父親の状態

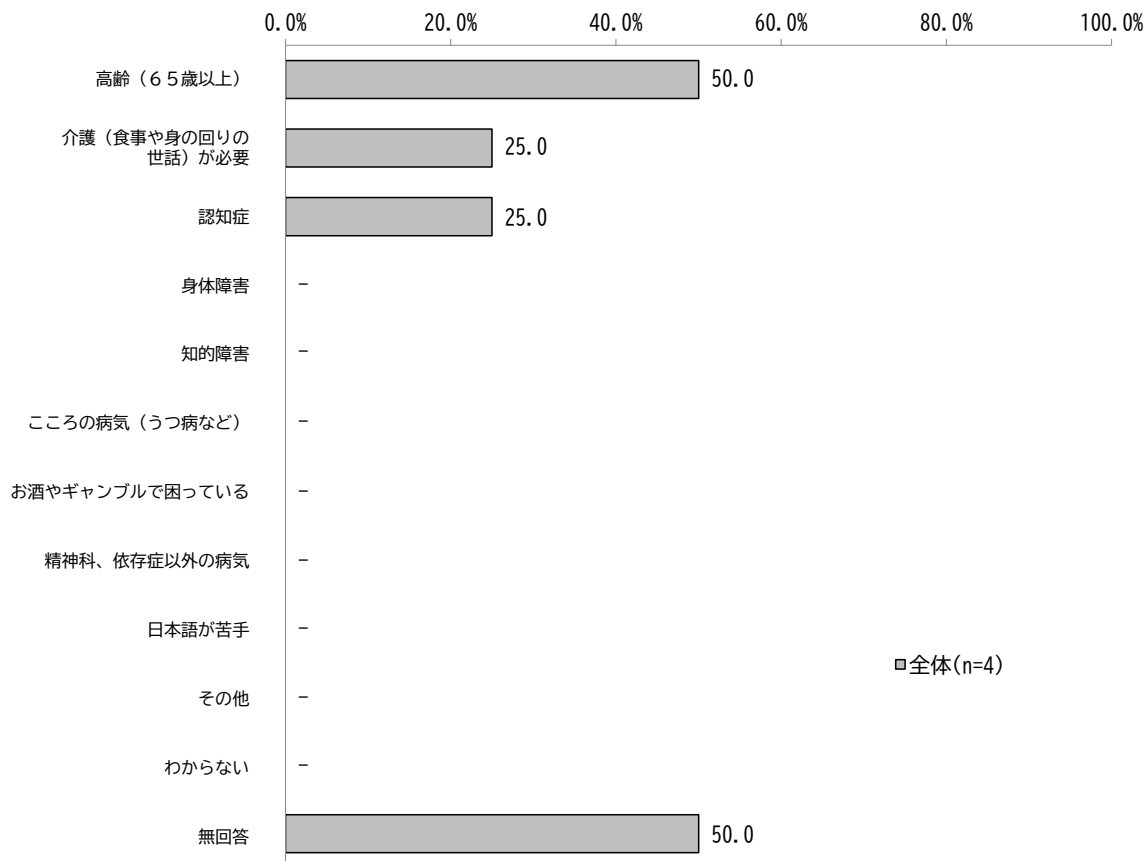


12. 祖母・祖父の状態

問12(2)② おばあさん、おじいさんはどのような状態ですか。

祖母・祖父の世話をしていると回答した人に、祖母・祖父の状態について聞いたところ、「高齢（65歳以上）」（50.0%）が最も高くなっている。

図表-25 祖母・祖父の状態

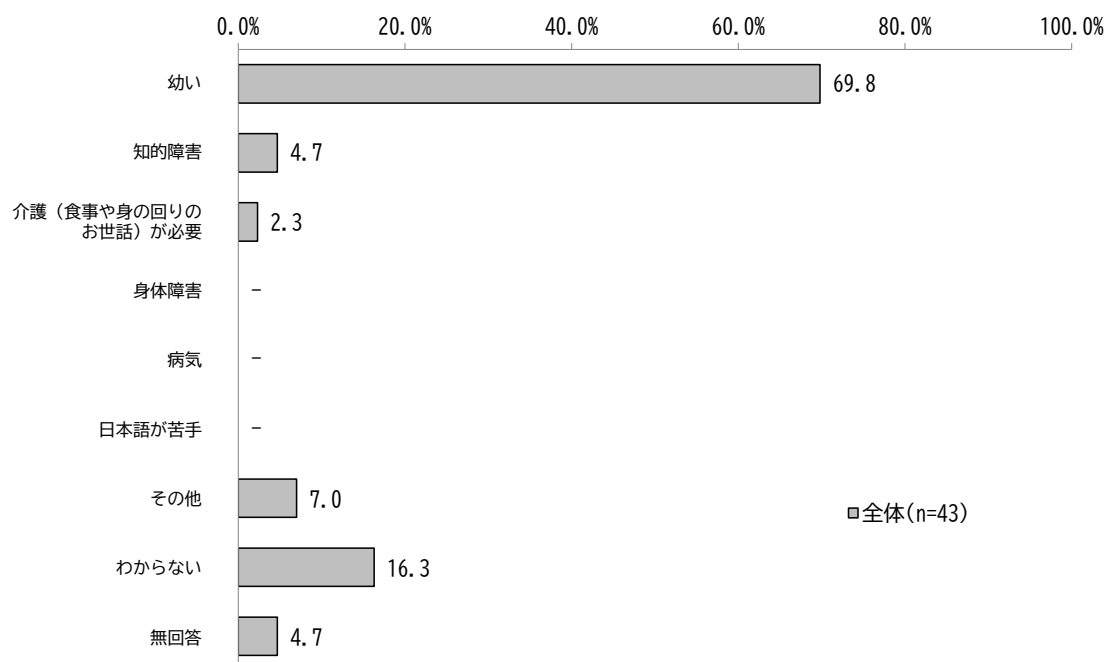


13. きょうだいの状態

問12(2)③ きょうだいはどうのような状態ですか。

きょうだいの世話をしていると回答した人に、きょうだいの状態について聞いたところ、「若い」(69.8%)が最も高くなっている。

図表-26 きょうだいの状態

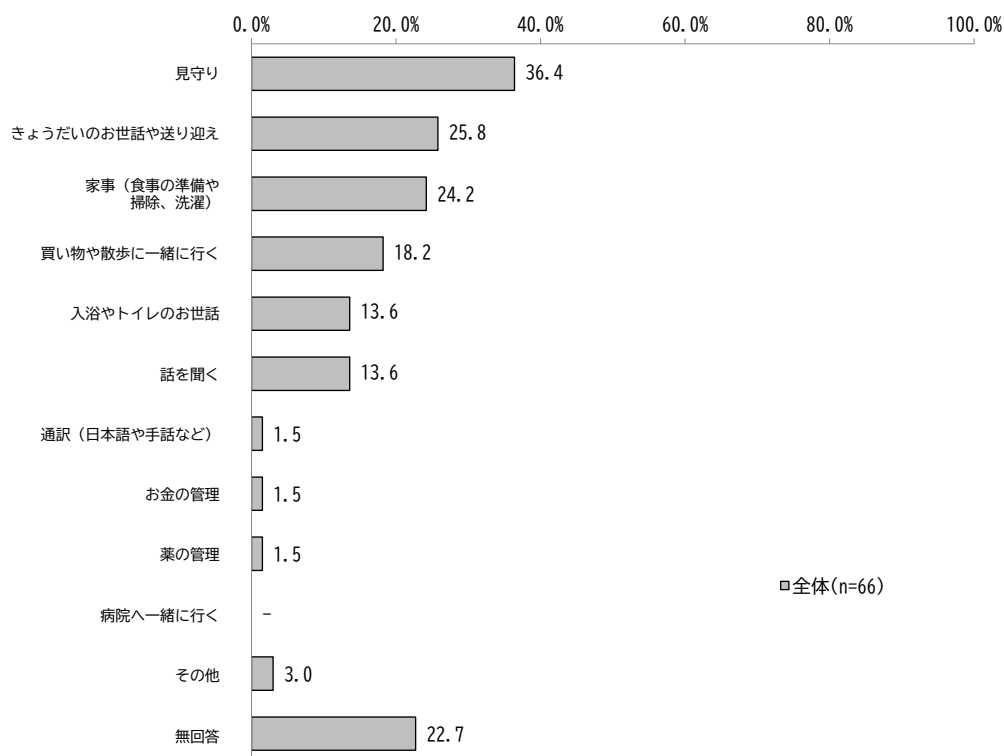


14. 世話の内容

問12(3) あなたはどのようなお世話をしていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話の内容について聞いたところ、「見守り」(36.4%)、「きょうだいのお世話や送り迎え」(25.8%)、「家事（食事の準備や掃除、洗たく）」(24.2%)の順となっている。

図表－27 世話の内容



図表－28 性別、家族構成別 世話の内容

単位：%

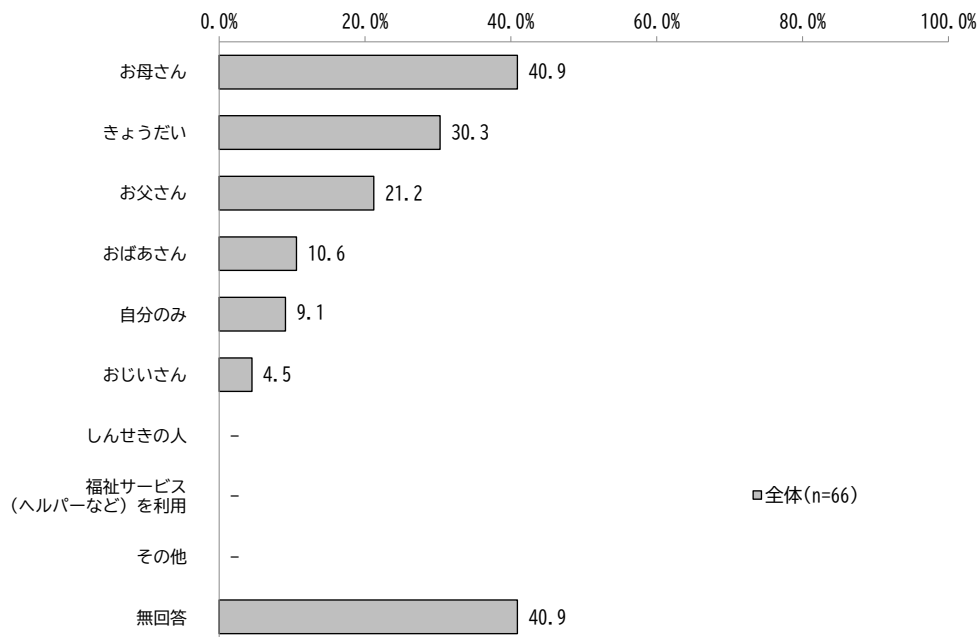
	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいのお世話や送り迎え	入浴やトイレのお世話	買い物や散歩と一緒にいく	病院へ一緒に行く	話を聞く	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
		24.2	25.8	13.6	18.2	-	13.6	36.4	1.5	1.5	1.5	3.0	22.7	
全体	66	24.2	25.8	13.6	18.2	-	13.6	36.4	1.5	1.5	1.5	3.0	22.7	
性別	男子	31	25.8	19.4	12.9	16.1	-	6.5	41.9	-	3.2	3.2	-	29.0
	女子	34	23.5	29.4	14.7	17.6	-	17.6	29.4	2.9	-	-	5.9	17.6
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	23.1	30.8	15.4	15.4	-	23.1	-	-	-	7.7	-	23.1
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	18.2	25.0	13.6	18.2	-	11.4	38.6	2.3	2.3	-	4.5	25.0
	三世帯以上の世帯	8	62.5	12.5	12.5	12.5	-	12.5	75.0	-	-	-	-	12.5
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-

15. 世話を一緒にしている人

問12(4) あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話を一緒にしている人について聞いたところ、「お母さん」(40.9%)、「きょうだい」(30.3%)、「お父さん」(21.2%)の順となっている。

図表一29 世話を一緒にしている人



図表一30 性別、家族構成別 世話を一緒にしている人

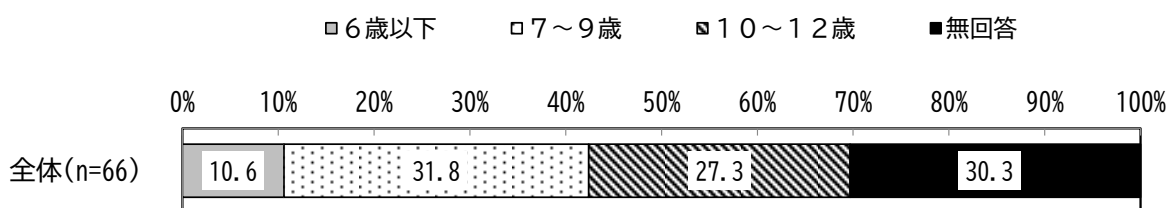
		調査数	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
全 体		66	40.9	21.2	10.6	4.5	30.3	-	9.1	-	-	40.9
性別	男子	31	38.7	19.4	6.5	-	29.0	-	9.7	-	-	41.9
	女子	34	44.1	23.5	14.7	8.8	32.4	-	8.8	-	-	38.2
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	53.8	-	7.7	-	30.8	-	7.7	-	-	38.5
	二世世代世帯(ふたり親家庭)	44	38.6	27.3	11.4	6.8	34.1	-	11.4	-	-	38.6
	三世代以上の世帯	8	37.5	25.0	12.5	-	-	-	-	-	-	62.5
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-

16. 世話を始めた年齢

問12(5) あなたは何才からお世話をしていますか。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年がかまいません)

家族の世話をしていると回答した人に、世話を始めた年齢について聞いたところ、「7～9歳」(31.8%)、「10～12歳」(27.3%)、「6歳以下」(10.6%)の順となっている。

図表一31 世話を始めた年齢



図表一32 性別、家族構成別 世話を始めた年齢

単位：%

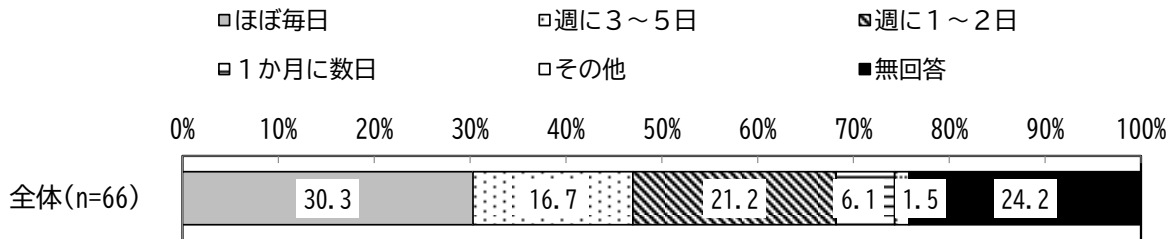
		調査数	6歳以下	7～9歳	10～12歳	無回答
全体		66	10.6	31.8	27.3	30.3
性別	男子	31	3.2	35.5	22.6	38.7
	女子	34	17.6	26.5	32.4	23.5
	その他	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	46.2	7.7	15.4	30.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	2.3	36.4	29.5	31.8
	三世帯以上の世帯	8	-	37.5	37.5	25.0
	その他	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-	-

17. 世話をしている頻度

問12(6) あなたはどのくらいお世話をしていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話をしている頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日」(30.3%)、「週に1～2日」(21.2%)、「週に3～5日」(16.7%)の順となっている。

図表-33 世話をしている頻度



図表-34 性別、家族構成別 世話をしている頻度

単位：%

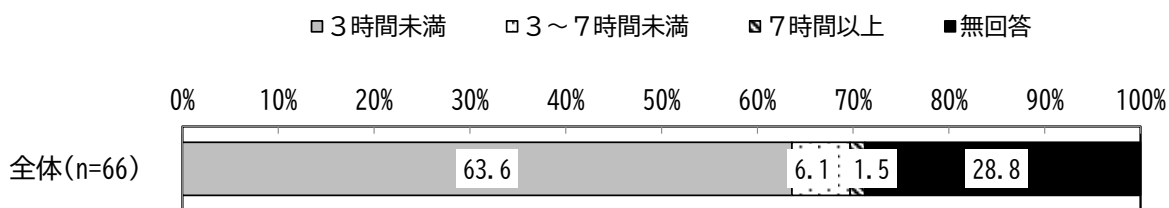
		調査数	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答
全体		66	30.3	16.7	21.2	6.1	1.5	24.2
性別	男子	31	19.4	16.1	22.6	9.7	-	32.3
	女子	34	41.2	17.6	17.6	2.9	2.9	17.6
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	100.0	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	30.8	23.1	23.1	-	-	23.1
	二世代世帯（ふたり親家庭）	44	29.5	18.2	20.5	4.5	2.3	25.0
	三世代以上の世帯	8	37.5	-	25.0	12.5	-	25.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	100.0	-	-

18. 平日1日あたりの世話に費やす時間

問12(7) あなたは学校のある日に何時間くらいお世話をしていますか。日によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください。

家族の世話をしていると回答した人に、平日1日あたりの世話に費やす時間について聞いたところ、「3時間未満」（63.6%）、「3～7時間未満」（6.1%）、「7時間以上」（1.5%）の順となっている。

図表-35 平日1日あたりの世話に費やす時間



図表-36 性別、家族構成別 平日1日あたりの世話に費やす時間

単位：%

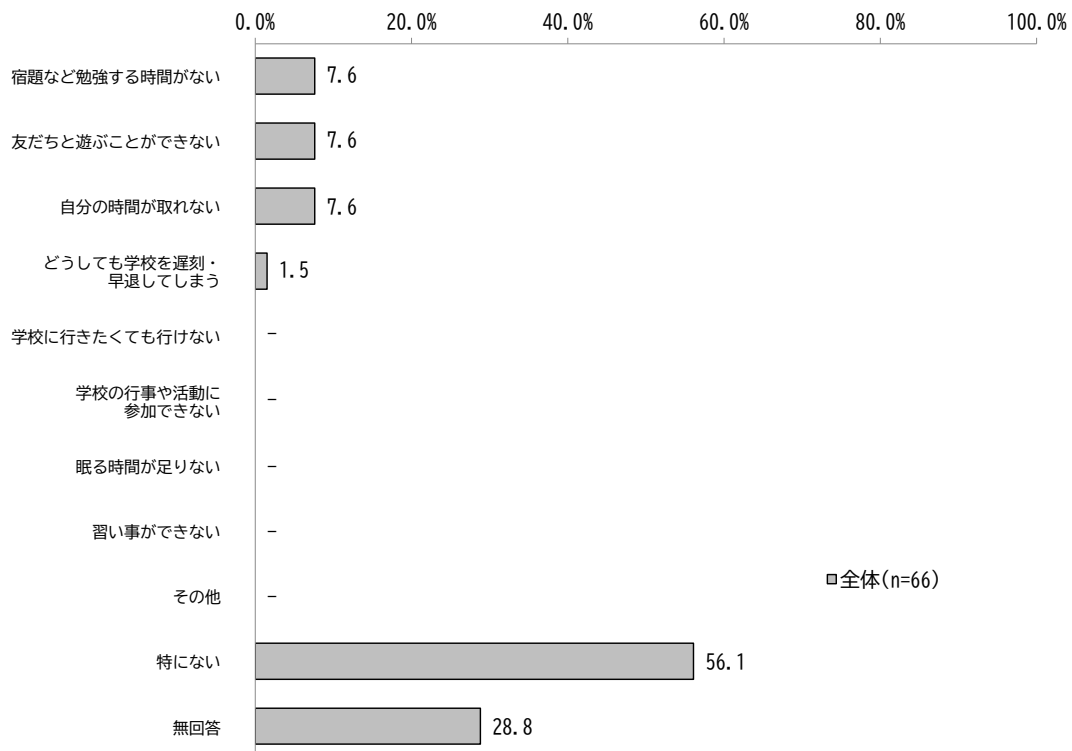
		調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		66	63.6	6.1	1.5	28.8
性別	男子	31	58.1	6.5	-	35.5
	女子	34	67.6	5.9	2.9	23.5
	その他	-	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	53.8	23.1	-	23.1
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	65.9	-	2.3	31.8
	三世帯以上の世帯	8	75.0	-	-	25.0
	その他	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-	-

19. 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

問13 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話をしているためにやりたいけれどできないことについて聞いたところ、「特にない」(56.1%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「宿題など勉強する時間がない」、「友だちと遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」(すべて7.6%)となっている。

図表一37 世話をしているためにやりたいけれどできないこと



図表一38 性別、家族構成別 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

		調査数	い学校に行きたくても行けない	退どうしても学校を遅刻・早退してしまう	い宿題など勉強する時間がない	き学校の行事や活動に参加できない	眠る時間が足りない	い友だちと遊ぶことができない	習い事ができない	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
全	体	66	-	1.5	7.6	-	-	7.6	-	7.6	-	56.1	28.8
性別	男子	31	-	-	6.5	-	-	3.2	-	6.5	-	48.4	38.7
	女子	34	-	2.9	8.8	-	-	11.8	-	8.8	-	61.8	20.6
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	-	7.7	7.7	-	-	15.4	-	15.4	-	53.8	30.8
	二世代世帯（ふたり親家庭）	44	-	-	9.1	-	-	6.8	-	4.5	-	54.5	29.5
	三世代以上の世帯	8	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	62.5	25.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

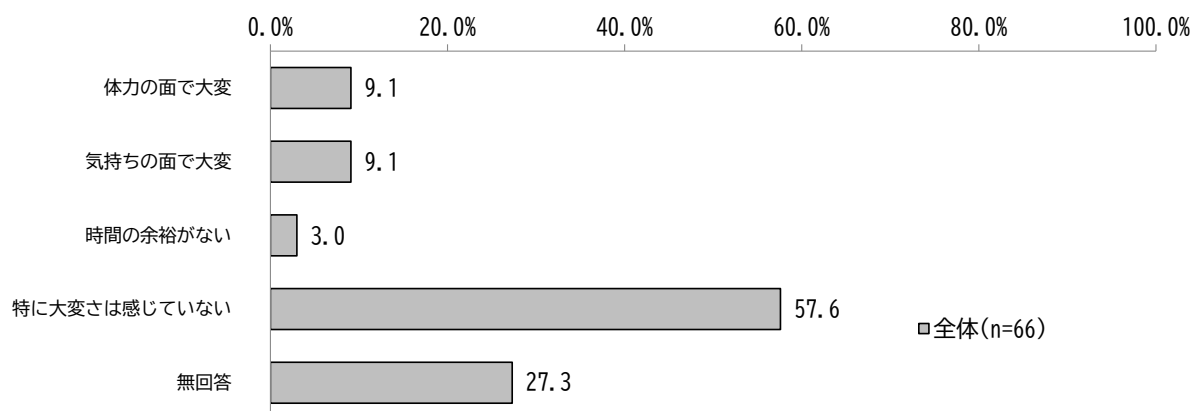
単位：%

20. 世話の大変さ

問14 お世話をすることに大変さを感じていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話の大変さについて聞いたところ、「特に大変さを感じていない」（57.6％）の割合が最も高く、次いで「体力の面で大変」、「気持ちの面で大変」（ともに9.1％）となっている。

図表－39 世話の大変さ



図表－40 性別、家族構成別 世話の大変さ

単位：％

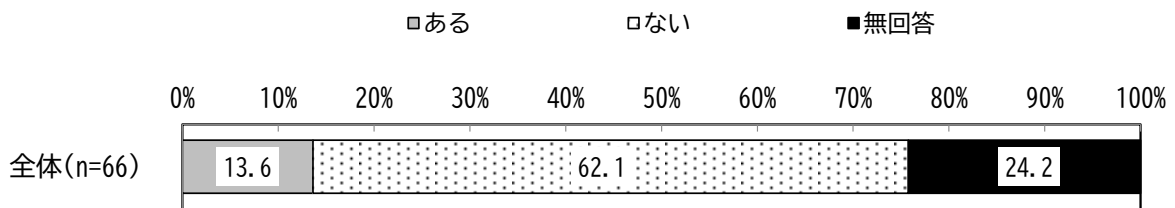
		調査数	体力の面で大変	気持ちの面で大変	時間の余裕がない	特に大変さを感じていない	無回答
全 体		66	9.1	9.1	3.0	57.6	27.3
性別	男子	31	6.5	3.2	-	54.8	38.7
	女子	34	11.8	14.7	5.9	58.8	17.6
	その他	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	23.1	15.4	-	46.2	30.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	4.5	6.8	4.5	59.1	27.3
	三世帯以上の世帯	8	12.5	12.5	-	62.5	25.0
	その他	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	100.0	-

2.1. 世話について相談した経験

問15 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話について相談した経験について聞いたところ、「ある」が13.6%、「ない」が62.1%となっている。

図表－4 1 世話について相談した経験



図表－4 2 性別、家族構成別 世話について相談した経験

単位：%

		調査数	ある	ない	無回答
全 体		66	13.6	62.1	24.2
性別	男子	31	16.1	48.4	35.5
	女子	34	11.8	73.5	14.7
	その他	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	13	-	69.2	30.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	15.9	59.1	25.0
	三世帯以上の世帯	8	25.0	62.5	12.5
	その他	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-

第2章 調査結果（小学生）

2.2. 世話についての相談相手

問16 問15で「1.ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。

世話について相談した経験があると回答した人に、世話についての相談相手について聞いたところ、「家族」（88.9%）、「友だち」（44.4%）の順となっている。

図表-4.3 性別、家族構成別 世話についての相談相手

単位：%

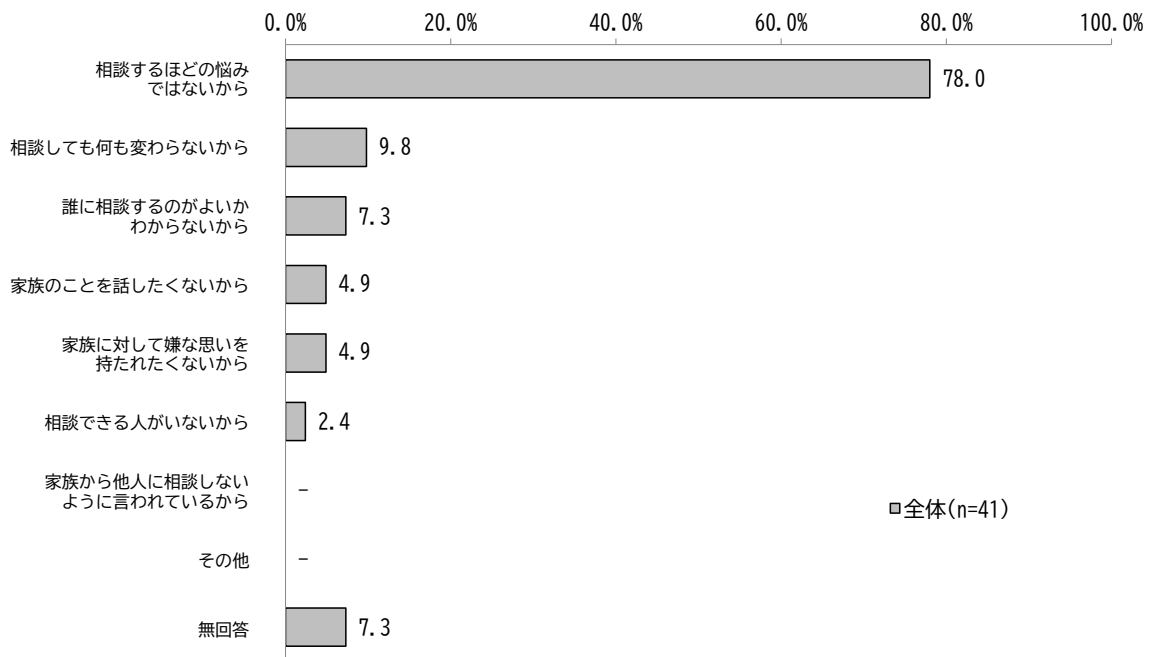
		調査数	家族	しんせき	友だち	学校（先生以外） 学校の先生（保健室の先生）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカー スクールソーシャルカウンセラー	病院・医療・福祉サービスの 人	近所の人	SNS（LINEなど） での知り合い	市役所の人	民生委員・児童委員の人	その他	無回答
全体		9	88.9	-	44.4	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別	男子	5	100.0	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女子	4	75.0	-	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	7	85.7	-	57.1	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三世帯以上の世帯	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

23. 世話について相談していない理由

問17 問15で「2.ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

世話について相談した経験がないと回答した人に、世話について相談していない理由について聞いたところ、「相談するほどの悩みではないから」（78.0％）の割合が最も高く、次いで「相談しても何も変わらないから」（9.8％）、「誰に相談するのがよいかわからないから」（7.3％）となっている。

図表－44 世話について相談していない理由



図表－45 性別、家族構成別 世話について相談していない理由

		調査数	相談するほどの悩みではないから	誰に相談するのがよいかわからないから	相談できる人がいないから	家族のことを話したくないから	家族から他人に相談しないように言われているから	相談しても何も変わらないから	その他	無回答	
全体		41	78.0	7.3	2.4	4.9	-	4.9	9.8	-	7.3
性別	男子	15	80.0	6.7	-	-	-	-	13.3	-	13.3
	女子	25	76.0	8.0	4.0	8.0	-	8.0	8.0	-	4.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	9	88.9	11.1	-	-	-	11.1	-	-	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	26	80.8	3.8	3.8	7.7	-	3.8	7.7	-	7.7
	三世帯以上の世帯	5	60.0	20.0	-	-	-	-	20.0	-	20.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-

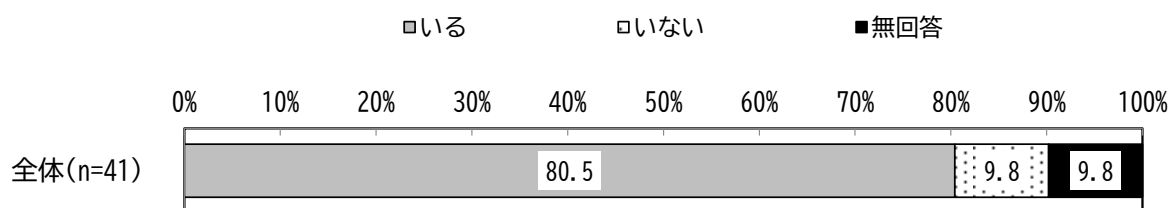
単位：％

24. 世話について話を聞いてくれる人の有無

問18 問15で「2.ない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話している家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

世話について相談した経験がないと回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「いる」が80.5%、「いない」が9.8%となっている。

図表-46 世話について話を聞いてくれる人の有無



図表-47 性別、家族構成別 世話について話を聞いてくれる人の有無

単位：%

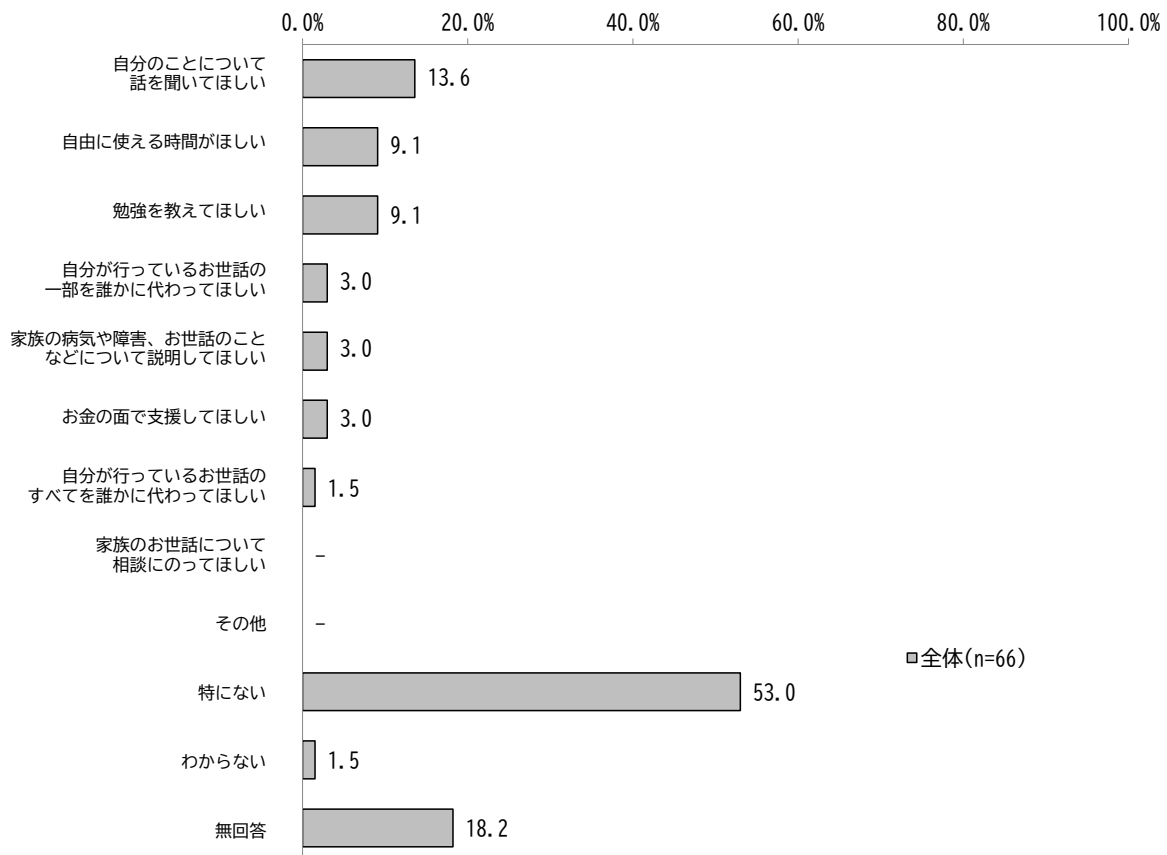
		調査数	いる	いない	無回答
全 体		41	80.5	9.8	9.8
性別	男子	15	66.7	6.7	26.7
	女子	25	88.0	12.0	-
	その他	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	9	55.6	11.1	33.3
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	26	92.3	7.7	-
	三世帯以上の世帯	5	80.0	-	20.0
	その他	-	-	-	-
	無回答	1	-	100.0	-

25. 学校や大人にしてもらいたいこと

問19 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、学校や大人にしてもらいたいことについて聞いたところ、「特にない」(53.0%)の割合が最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」(13.6%)、「自由に使える時間がほしい」(9.1%)、「自由に使える時間がほしい」(9.1%)となっている。

図表-48 学校や大人にしてもらいたいこと



第2章 調査結果（小学生）

図表－49 性別、家族構成別 学校や大人にしてもらいたいこと

単位：%

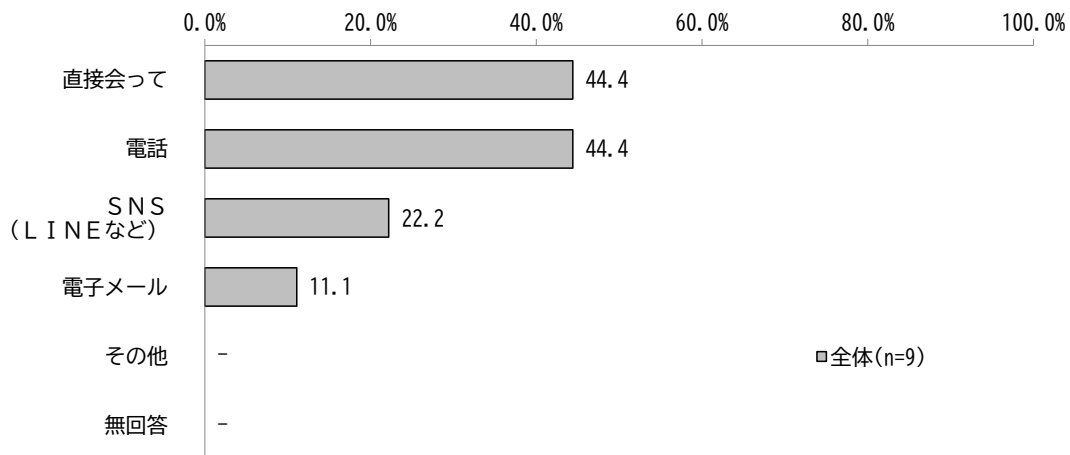
	調査数	自分のことについて話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	自分が行っているお世話をすべて誰かに代わってほしい	自分が行っているお世話を一部を誰かに代わってほしい	家族の病気や障害、お世話のことなどについて説明してほしい	自由に使える時間がほしい	勉強を教えてほしい	お金の面で支援してほしい	その他	特にない	わからない	無回答	
全 体	66	13.6	-	1.5	3.0	3.0	9.1	9.1	3.0	-	53.0	1.5	18.2	
性別	男子	31	16.1	-	3.2	-	3.2	12.9	12.9	3.2	-	41.9	-	29.0
	女子	34	11.8	-	-	5.9	2.9	5.9	2.9	-	61.8	2.9	8.8	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家族構成	ひとり親家庭	13	7.7	-	-	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	-	38.5	-	15.4
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	44	18.2	-	-	-	-	6.8	6.8	2.3	-	54.5	2.3	20.5
	三世帯以上の世帯	8	-	-	12.5	-	12.5	12.5	12.5	-	-	62.5	-	12.5
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	

26. 希望する相談方法

問20 問19で「1.自分のことについて話を聞いてほしい」または「2.家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。

前問で「自分のことについて話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に、希望する相談方法について聞いたところ、「直接会って」と「電話」（ともに44.4%）の割合が最も高くなっている。

図表一50 希望する相談方法



図表一51 性別、家族構成別 希望する相談方法

単位：%

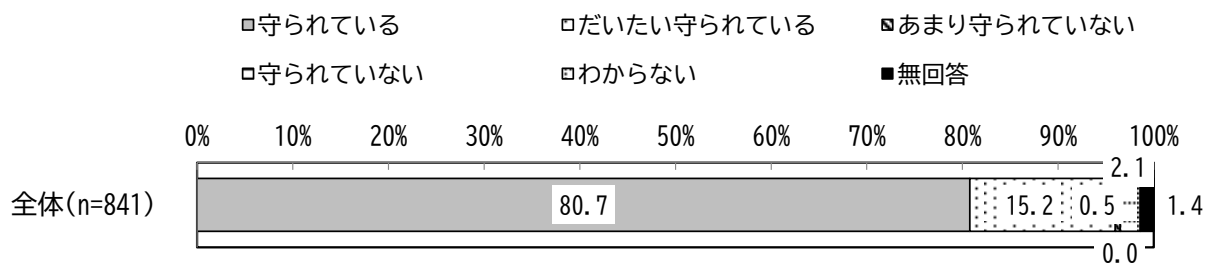
		調査数	直接会って	電話	SNS (LINEなど)	電子メール	その他	無回答
全 体		9	44.4	44.4	22.2	11.1	-	-
性別	男子	5	40.0	60.0	20.0	-	-	-
	女子	4	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	1	-	100.0	-	-	-	-
	二世帯世帯 (ふたり親家庭)	8	50.0	37.5	25.0	12.5	-	-
	三世帯以上の世帯	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

27. 自身の権利が守られていると思うか

問21 子どもの権利についての文章を読んでお答えください。あなたは、自分の権利が守られていると思いますか。

自身の権利が守られていると思うかについて聞いたところ、「守られている」（80.7%）の割合が最も高く、次いで「だいたい守られている」（15.2%）となっている。

図表-52 自身の権利が守られていると思うか



自身の権利が守られていると思うかについて性別にみると、「守られている」の割合は女子（85.2%）の方が高く、男子は「だいたい守られている」（19.0%）の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「守られている」（74.7%）の割合が低くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「守られている」（69.7%）の割合が低くなっている。

居住地別には、大きな差は見られない。

図表一53 性別、居住地、家族構成、家族の世話別 自身の権利が守られていると思うか

単位：%

		調査数	守られている	だいたい守られている	あまり守られていない	守られていない	わからない	無回答
全体		841	80.7	15.2	0.5	-	2.1	1.4
性別	男子	406	76.1	19.0	0.7	-	2.0	2.2
	女子	420	85.2	11.9	0.2	-	2.1	0.5
	その他	2	-	50.0	-	-	50.0	-
	答えない	10	100.0	-	-	-	-	-
	無回答	3	66.7	-	-	-	-	33.3
居住地	東部	121	79.3	14.0	-	-	5.0	1.7
	西部	202	82.7	15.8	-	-	0.5	1.0
	南部	134	80.6	15.7	-	-	2.2	1.5
	北部	134	82.1	14.2	2.2	-	0.7	0.7
	中央	238	80.3	15.1	0.4	-	2.5	1.7
	その他（久留米市外など）	6	83.3	16.7	-	-	-	-
	無回答	6	33.3	33.3	-	-	16.7	16.7
家族構成	ひとり親家庭	95	74.7	22.1	1.1	-	2.1	-
	二世代世帯（ふたり親家庭）	600	81.8	14.8	0.5	-	1.5	1.3
	三世代以上の世帯	138	80.4	12.3	-	-	5.1	2.2
	その他	4	75.0	25.0	-	-	-	-
	無回答	4	75.0	-	-	-	-	25.0
家族の世話	している	66	69.7	18.2	1.5	-	6.1	4.5
	していない	755	81.9	15.0	0.4	-	1.9	0.9
	無回答	20	75.0	15.0	-	-	-	10.0

28. 自由意見

問22 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、こうしてほしいと思うこと、他にも困っていることがあれば自由に書いてください。

家族の世話をしている子どものために必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことについての自由記述は以下のとおり。

図表－54 自由意見

※全回答ではなく、一部回答を抜粋して掲載
※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

家族の世話をしている子どものために必要だと思うこと	性別	家族の世話
障害をもつ子供に対しての学校、家庭での理解、認知度を上げる取組みをもっと増やして、社会全体での困っている子供達が実際にいて、困って生活を送っているという現実を知ってほしい	女子	している
家族の事やなやんでいる事はないかアンケート等をとってみるとよいと思う(各学校で)。言葉では相談しにくかったり、私のようにだれに相談すればいいのかが分からない人がいるかもしれないから。	女子	している
助けてと言える環境。助けを求められたらすぐに対応できるシステム。自分で助けてと声をあげられる子どもは多くないと思う。自由に電話が使えない環境（家の電話を置いていない）なので、電話以外で、SOSが出せる環境づくり。	女子	していない
お世話をしている子がせきにんやいろんなことをためこまないでほしいと思っています。さいきんいじめなどがよくあるので、それがちょっと気になっています。お世話をしている子の時間があまりないなら、もうちょっと増やしてほしいと思っています。	女子	していない
補助金や、支えん	女子	していない
援助を送る生活に必要なもの 心とかのことでなやんでいる人が、けいたいとかを使ってりれきを残したくなかったり、けいたいを持ってなかったりして、電話とかライン以外の手紙で相談できるような仕組み。	女子	していない
家族のお世話をしている子に、十分に休憩する時間や、手伝う人等が必要だと思う。	女子	していない
困っているということをすぐに伝えられる場所があったらいいと思います。子どもが家族のお世話をすることが必要で学校にいけないことがあったとしても、その子がそうすることが当然なのだと思ってしまったり、家族だから仕方ないと思っている場合もあるかもしれないから、声をあげて周りの大人に手助けを求めて良いのだということをまずみんなが知るべきだと思います。	女子	していない
お世話しないよう、大人にまかせられるようにすることが必要だと思う。相だんだけでもできる時間を親が作り、自由に発言できる大きな場所があるとよいと思う。自由なおもいどおりに動ける時間が必要で、そのためにまかせられる人、場所などがあると思う。	男子	していない
こうれい者の人をかいごしてくれる人のように、ヘルパーさんをやとえるようにしたらよい。	男子	していない
お世話を無料で行っている団体など、すぐに普通に相談できる体制をいち早く！	男子	していない

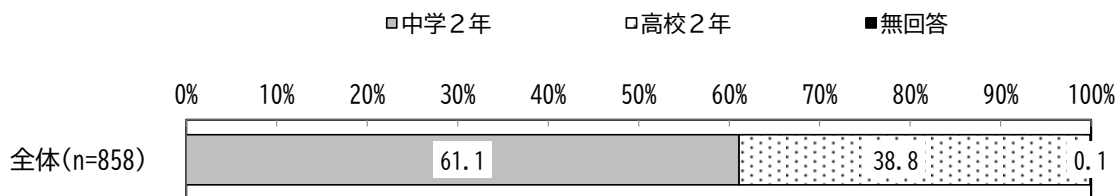
学校や周りの大人にしてもらいたいこと	性別	家族の世話
どんな方法でもいいので、大人の人々に「子どもの権利」についてもう一度学んでほしい。	女子	している
このような事について考える授業をもっとしてほしい(人権やお世話のことなど)。	女子	している
家族のお世話をしている人は家族のことに精いっぱい、たよれる人が少なかったり、これは家族のことだから自分がしっかりしないといけないと思いこんでいたりする人が多いんじゃないかなあと思うので、周りには、自分が困っている時には、助けてくれる人がいるということを知ってもらいたいと思う。	女子	無回答
そういう人は、自分の好きな習い事だったり友だちと遊ぶといったことが周りの人よりも出来なくて、でも周りの人が助けてくれなかったりして1人で抱え込んで1人だけ苦しい思いをしているから周りに1人で困っている人がいたらその人の話を聞いてあげてどうしたら良いかを一緒に考えたら1人で苦しんでいた人も少しは楽になれるし、自分にもちゃんと一緒に悩んでくれる仲間がいるんだと安心できると思いました。だから自分の周りに困った人がいたら話を聞いて、聞くだけじゃなくて一緒に悩んで欲しいです。友達だけでなく先生とか、近所のひとも一緒に悩んで欲しいです。	女子	していない
家族のお世話をしている子どものためにこそ、税金を使って欲しい。家の中の事は、なかなか相談しづらい状況で、相談できる環境、家事代行サービス、勉強できる環境、進学資金が必要だと思います。	女子	していない
異変を感じた大人が声をかけたり、頼れる公共機関を知ってもらえるよう呼びかけていく。	男子	していない
オンラインやリモートでの勉強	男子	していない
支援が必要な家庭に市や行政が家族の許可がなくともなぜ入ってあげられないのかと思う。支援が必要な子は周りへの頼り方がわからないと思う。不登校に関しても、母子登校している家庭への協力をすべきだと思う。	答えない	していない
自身の気持ちや困っている状況について	性別	家族の世話
自由の時間がほしいです。自由の時間がないとゆうがにできないから。	女子	している
もうちょっと他の時間を減らして、赤ちゃんのための時間を増やしたい。	男子	している
その他意見	性別	家族の世話
子供がお世話する立場には行けないと思う。大人がお世話することが必要だと思う。	女子	していない

第3章 調査結果（中高生）

1. 回答者の属性

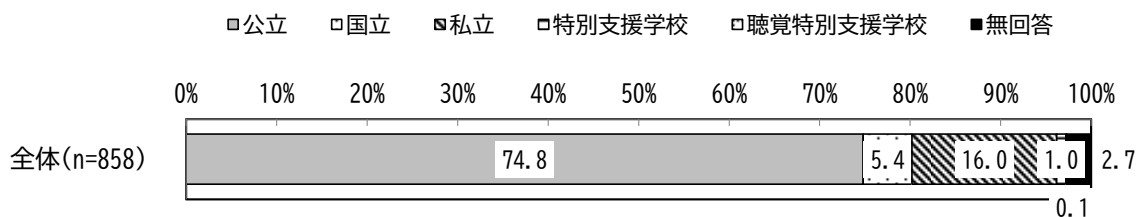
(1) 学年

図表－55 学年



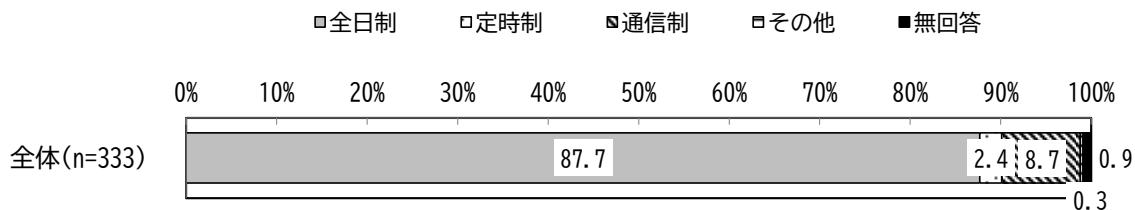
(2) 学校種別

図表－56 学校種別



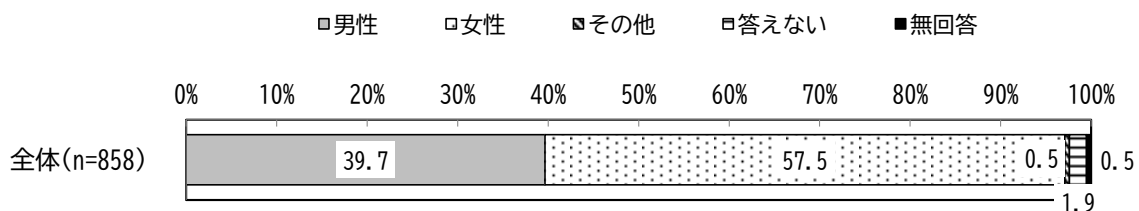
(3) 課程（高校生のみ）

図表－57 課程



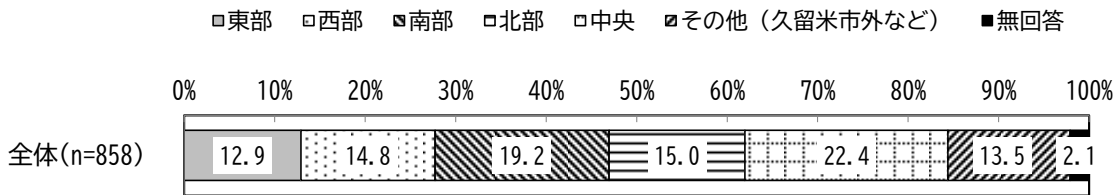
(4) 性別

図表－58 性別



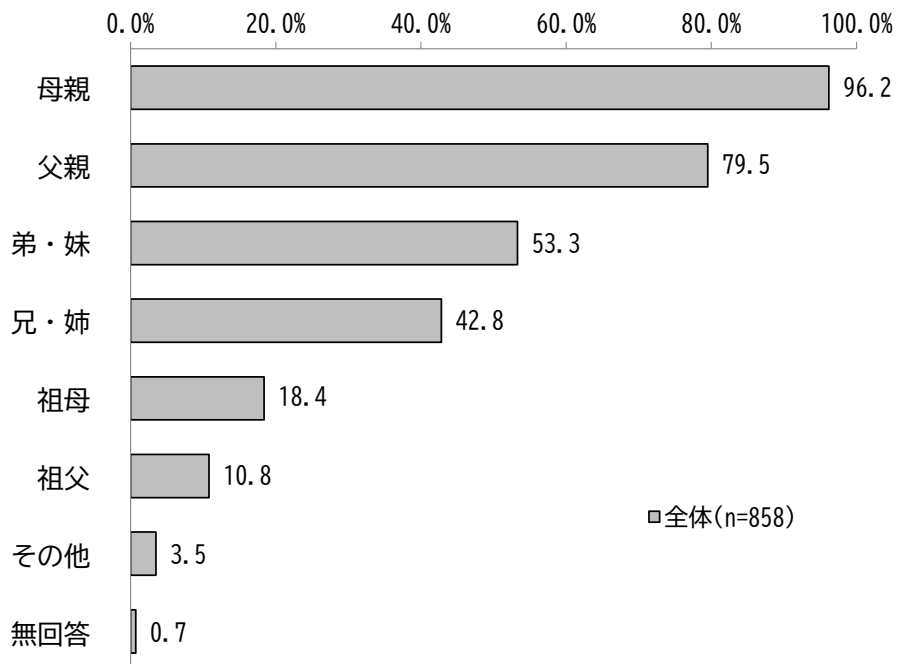
(5) 居住地

図表－59 居住地



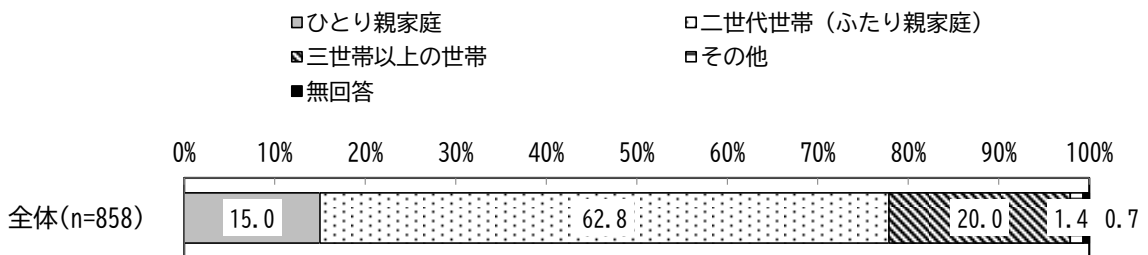
(6) 同居家族

図表－60 同居家族



(7) 家族構成

図表－61 家族構成



2. 健康状態

問7 あなたの健康状態について教えてください。

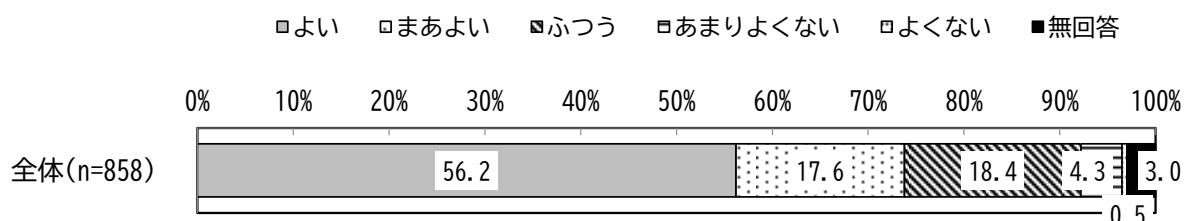
健康状態について聞いたところ、「よい」(56.2%)の割合が最も高く、次いで「ふつう」(18.4%)、「まあよい」(17.6%)となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「よい」(57.3%)、「まあよい」(18.5%)の割合が高い傾向にある。

性別にみると、男性の方が女性と比べて「よい」(65.4%)の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「よい」(40.4%)の割合が低くなっている。

図表－62 健康状態



図表－63 学年、性別、家族の世話別 健康状態

単位：%

		調査数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全 体		858	56.2	17.6	18.4	4.3	0.5	3.0
学 年	中学2年	524	57.3	18.5	15.8	3.6	-	4.8
	高校2年	333	54.7	15.9	22.5	5.4	1.2	0.3
	無回答	1	-	100.0	-	-	-	-
性 別	男性	341	65.4	15.5	12.3	3.8	-	2.9
	女性	493	51.5	18.7	21.7	4.3	0.8	3.0
	その他	4	50.0	-	50.0	-	-	-
	答えない	16	12.5	31.3	31.3	18.8	-	6.3
	無回答	4	25.0	25.0	50.0	-	-	-
家 族 の 世 話 の	している	47	40.4	17.0	21.3	8.5	-	12.8
	していない	798	57.5	17.7	18.4	4.0	0.5	1.9
	無回答	13	30.8	15.4	7.7	7.7	-	38.5

3. 欠席状況

問8(1) あなたの欠席の状況(病気の場合を除く)について教えてください。

欠席状況について聞いたところ、「ほとんど欠席しない」(81.7%)の割合が最も高く、次いで「たまに欠席する」(13.4%)、「よく欠席する」(3.7%)となっている。

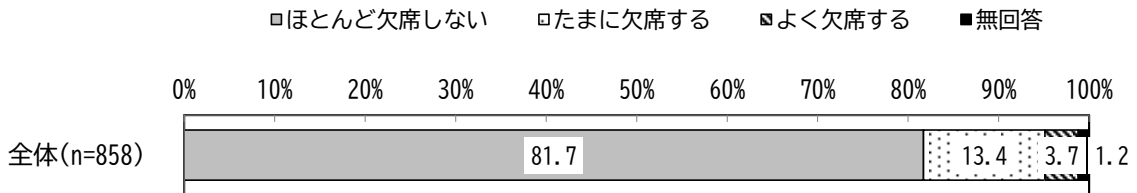
学年別にみると、高校2年生の方が欠席する傾向にある。

性別にみると、女性の方が男性と比べて欠席する傾向にある。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「ほとんど欠席しない」(73.6%)の割合が低くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が欠席する傾向にある。

図表－64 欠席状況



図表－65 学年、性別、家族構成、家族の世話別 欠席状況

単位：%

		調査数	ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
全 体		858	81.7	13.4	3.7	1.2
学 年	中学2年	524	83.4	11.3	4.0	1.3
	高校2年	333	79.0	16.8	3.3	0.9
	無回答	1	100.0	-	-	-
性 別	男性	341	85.6	11.1	2.6	0.6
	女性	493	79.7	14.6	4.3	1.4
	その他	4	75.0	25.0	-	-
	答えない	16	62.5	18.8	12.5	6.3
無回答		4	75.0	25.0	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	73.6	20.2	4.7	1.6
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	83.5	11.7	3.9	0.9
	三世帯以上の世帯	172	83.1	12.8	2.9	1.2
	その他	12	83.3	16.7	-	-
	無回答	6	50.0	33.3	-	16.7
家 族 の 世 話 の	している	47	76.6	10.6	6.4	6.4
	していない	798	82.3	13.7	3.6	0.4
	無回答	13	61.5	7.7	-	30.8

4. 遅刻・早退状況

問8(2) あなたの遅刻や早退の状況(病気の場合を除く)について教えてください。

遅刻・早退状況について聞いたところ、「ほとんどしない」(83.9%)の割合が最も高く、次いで「たまにする」(10.7%)、「よくする」(4.0%)となっている。

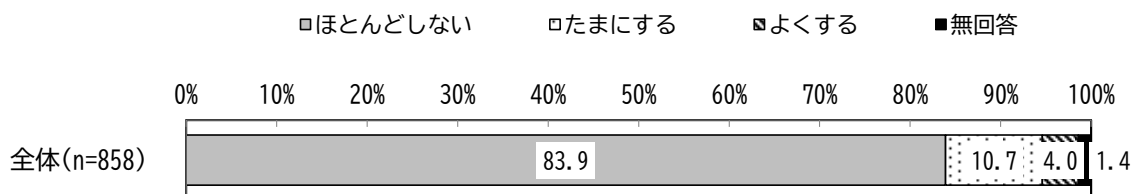
性別にみると、女性の方が男性と比べて「たまにする」(12.6%)の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「ほとんどしない」(78.3%)の割合が低くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が遅刻・早退をする傾向にある。

学年別には、大きな差は見られない。

図表－66 遅刻・早退状況



図表－67 学年、性別、家族構成、家族の世話別 遅刻・早退状況

単位：%

		調査数	ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
全 体		858	83.9	10.7	4.0	1.4
学 年	中学2年	524	84.0	10.1	4.0	1.9
	高校2年	333	83.8	11.7	3.9	0.6
	無回答	1	100.0	-	-	-
性 別	男性	341	86.5	7.9	4.4	1.2
	女性	493	83.0	12.6	3.2	1.2
	その他	4	100.0	-	-	-
	答えない	16	56.3	18.8	18.8	6.3
無回答		4	75.0	-	-	25.0
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	78.3	14.7	6.2	0.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	86.6	8.9	3.2	1.3
	三世帯以上の世帯	172	80.2	13.4	5.2	1.2
	その他	12	91.7	8.3	-	-
	無回答	6	50.0	16.7	-	33.3
家 族 の 世 話 の	している	47	74.5	8.5	10.6	6.4
	していない	798	85.0	10.9	3.5	0.6
	無回答	13	53.8	7.7	7.7	30.8

5. 学校外の活動の参加状況

問9 部活動(学校外での活動を含む)や習い事をしていますか。

学校外の活動の参加状況について聞いたところ、「はい」が79.8%、「いいえ」が19.0%となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「はい」(86.1%)の割合が高くなっている。

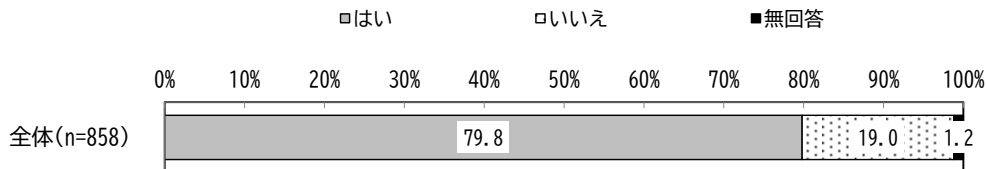
家族構成別にみると、ひとり親家庭において「いいえ」(26.4%)の割合が高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人の方が「はい」(84.1%)の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、世話をしている人の方が「いいえ」(25.5%)の割合が高くなっている。

性別には、大きな差は見られない。

図表一68 学校外の活動の参加状況



図表一69 学年、性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別 学校外の活動の参加状況

単位：%

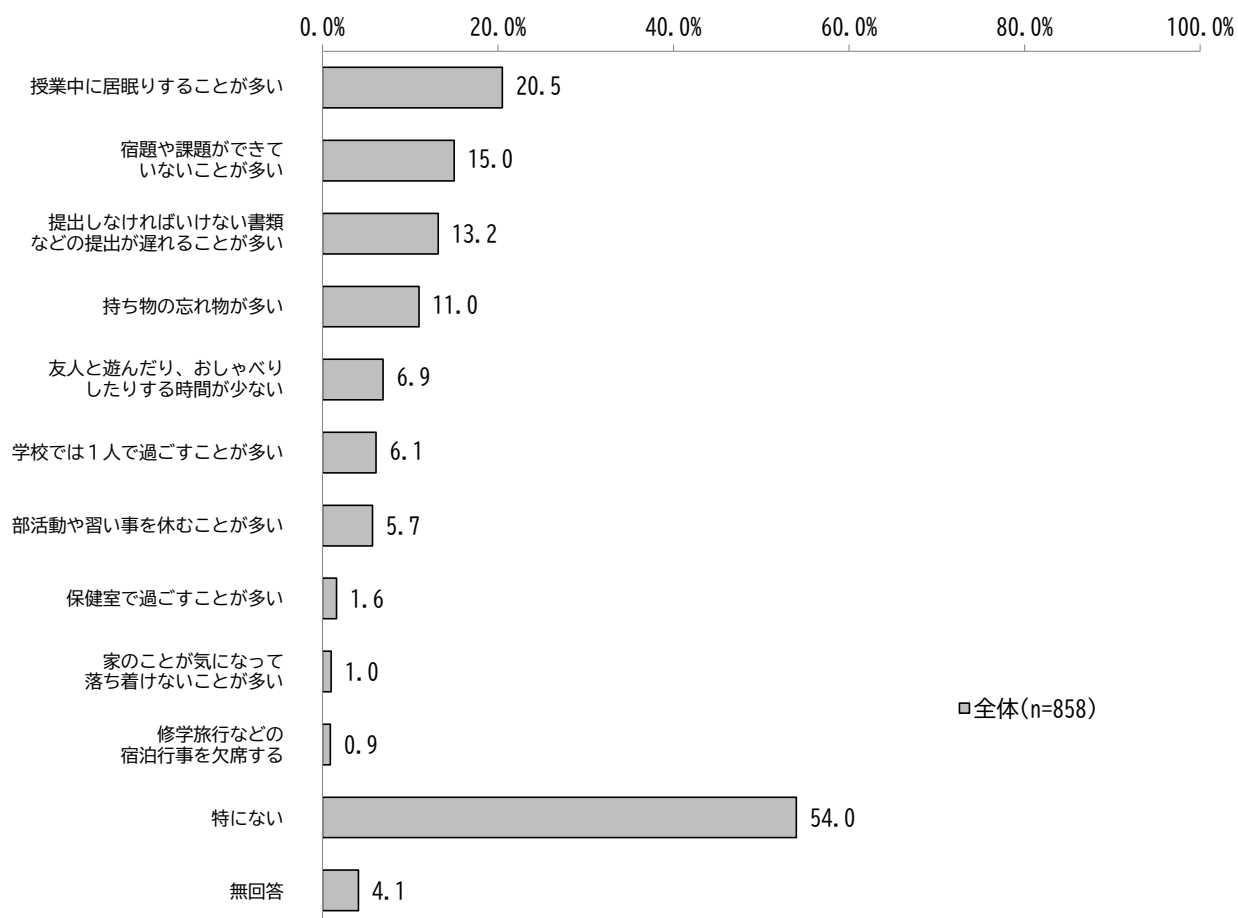
		調査数	はい	いいえ	無回答
全 体		858	79.8	19.0	1.2
学 年	中学2年	524	86.1	12.4	1.5
	高校2年	333	70.0	29.4	0.6
	無回答	1	100.0	-	-
性 別	男性	341	81.2	18.2	0.6
	女性	493	79.3	19.5	1.2
	その他	4	75.0	25.0	-
	答えない	16	75.0	18.8	6.3
	無回答	4	50.0	25.0	25.0
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	72.9	26.4	0.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	81.6	17.4	0.9
	三世帯以上の世帯	172	80.8	18.0	1.2
	その他	12	66.7	33.3	-
	無回答	6	66.7	-	33.3
自 身 の 権 利	守られている	610	84.1	14.9	1.0
	だいたい守られている	176	78.4	21.6	-
	あまり守られていない	10	30.0	70.0	-
	守られていない	4	-	100.0	-
	わからない	33	51.5	48.5	-
	無回答	25	56.0	28.0	16.0
家 族 の 世 話	している	47	68.1	25.5	6.4
	していない	798	81.0	18.7	0.4
	無回答	13	53.8	15.4	30.8

6. 学校生活であてはまるもの

問10 普段の学校生活であてはまるものがありますか。

学校生活であてはまるものについて聞いたところ、「特にない」（54.0％）の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「授業中に居眠りすることが多い」（20.5％）、「宿題や課題ができていないことが多い」（15.0％）、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」（13.2％）の順となっている。

図表一70 学校生活であてはまるもの



学校生活であてはまるものについて学年別にみると、中学2年生の方が高校2年生と比べて「特にない」（56.3％）の割合が高くなっている。また、高校2年生では「授業中に居眠りすることが多い」（29.1％）の割合が高くなっている。

性別にみると、男性では「持ち物の忘れ物が多い」（13.8％）、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」（17.0％）の割合が高くなっている。一方で女性では「授業中に居眠りすることが多い」（22.7％）の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、二世帯世帯（ふたり親家庭）において「特にない」（58.3％）の割合が高くなっている。また、ひとり親家庭と三世帯以上の世帯では「授業中に居眠りすることが多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の割合が高くなっており、ひとり親家庭では上記に加えて「部活動や習い事を休むことが多い」の割合も高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「宿題や課題ができていないことが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の割合が高くなっている。一方で家族の世話をしていない人では「授業中に居眠りすることが多い」、「部活動や習い事を休むことが多い」の割合が高くなっている。

図表一 71 学年、性別、家族構成、家族の世話別 学校生活であてはまるもの

単位：％

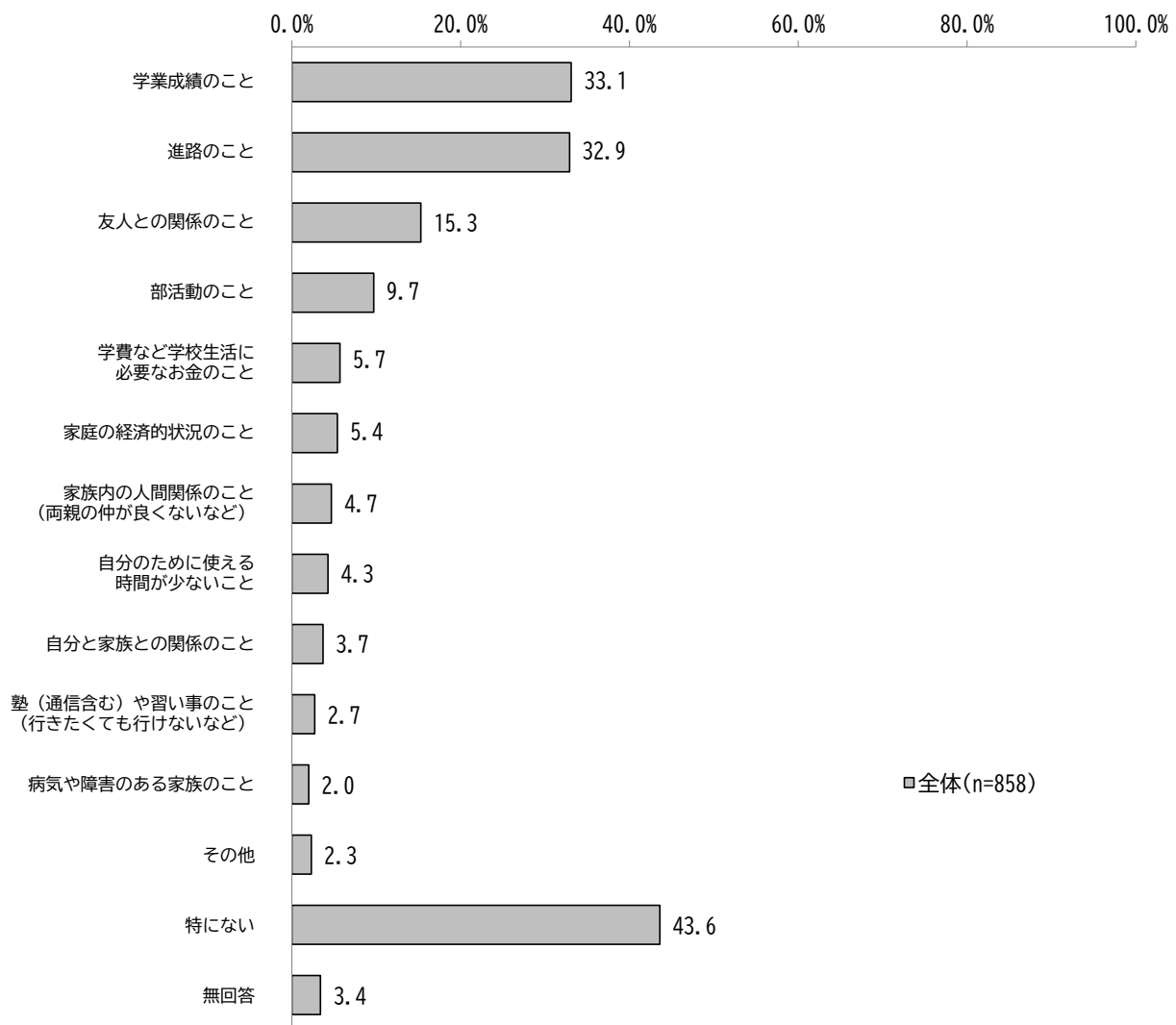
	調査数	多 授 業 中 に 居 眠 り す る こ と が	宿 題 や 課 題 が で き て い な い	持 ち 物 の 忘 れ 物 が 多 い	部 活 動 や 習 い 事 を 休 む こ と が 多 い	提 出 し な け れ ば い け な い 書 類 な ど の 提 出 が 遅 れ る こ と が 多 い	修 学 旅 行 な ど の 宿 泊 行 事 を 欠 席 す る	保 健 室 で 過 ご す こ と が 多 い	学 校 で は 1 人 で 過 ご す こ と が 多 い	友 人 と 遊 ん だ り 、 お し ゃ べ す る 時 間 が 少 な い	家 の こ と が 気 に な っ て 落 ち 着 け な い こ と が 多 い	特 に な い	無 回 答	
全 体	858	20.5	15.0	11.0	5.7	13.2	0.9	1.6	6.1	6.9	1.0	54.0	4.1	
学 年	中学2年	524	15.1	16.2	12.6	5.7	14.1	0.8	1.7	5.2	5.7	0.2	56.3	5.3
	高校2年	333	29.1	13.2	8.4	5.7	11.7	1.2	1.5	7.5	8.7	2.4	50.2	2.1
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
性 別	男性	341	16.7	17.6	13.8	4.1	17.0	1.5	0.6	4.4	7.6	0.6	52.8	4.1
	女性	493	22.7	13.2	8.3	6.5	10.3	0.6	2.4	6.3	5.1	1.2	56.0	3.7
	その他	4	-	-	25.0	-	-	-	-	75.0	75.0	-	25.0	-
	答えない	16	43.8	25.0	31.3	18.8	25.0	-	-	18.8	31.3	6.3	25.0	6.3
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	24.0	22.5	14.7	9.3	20.9	1.6	2.3	5.4	7.8	2.3	48.1	2.3
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	18.2	11.5	9.3	4.8	9.6	1.1	1.1	5.6	6.5	0.9	58.3	4.1
	三世帯以上の世帯	172	25.0	20.3	14.0	6.4	18.6	-	2.9	7.6	7.0	0.6	45.3	4.7
	その他	12	33.3	16.7	8.3	-	16.7	-	-	-	-	-	58.3	-
	無回答	6	-	16.7	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3
家 族 の 世 話	している	47	12.8	21.3	14.9	-	21.3	-	2.1	6.4	8.5	2.1	53.2	6.4
	していない	798	20.9	14.7	10.8	6.0	12.7	1.0	1.6	6.1	6.9	1.0	54.4	3.5
	無回答	13	23.1	15.4	7.7	7.7	15.4	-	-	-	-	-	30.8	30.8

7. 悩んでいること

問11 現在、悩んだり困ったりしていることはありますか。

悩んでいることについて聞いたところ、「特にない」(43.6%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「学業成績のこと」(33.1%)、「進路のこと」(32.9%)、「友人との関係のこと」(15.3%)の順となっている。

図表一72 悩んでいること



悩んでいることについて学年別にみると、中学2年生の方が「特にない」（46.2％）の割合が高くなっている。

性別にみると、男性の方が女性と比べて「特にない」（53.7％）の割合が高くなっている。また、女性では「その他」と「特にない」を除くすべての項目において男性よりも割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭と三世代以上の世帯では「進路のこと」、「自分と家族との関係のこと」の割合が高くなっており、ひとり親家庭では上記に加えて「家庭の経済的状況のこと」、「家族内の人間関係のこと」の割合も高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人において「特にない」（47.9％）の割合が高くなっている。また、だいたい守られている人では「特にない」を除くすべての項目において守られている人よりも割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「特にない」（29.8％）の割合が低くなっている。また、家族の世話をしている人では「友人との関係のこと」（21.3％）、「学業成績のこと」（48.9％）、「進路のこと」（44.7％）、「病気や障害のある家族のこと」（8.5％）の割合が高くなっている。

図表一 73 学年、性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別 悩んでいること

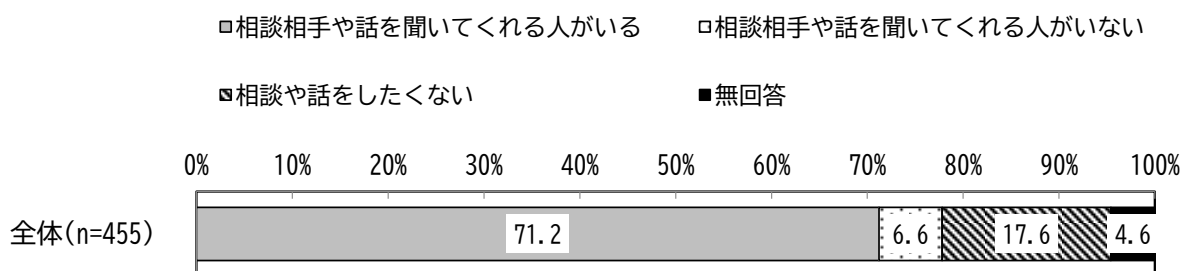
		調査数	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学費など学校生活に必要な金のこと	塾（通信含む）や習い事なこと（行きたくても行けないなど）	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと（両親の仲が良くないなど）	病気や障害のある家族のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特にない	無回答
全体		858	15.3	33.1	32.9	9.7	5.7	2.7	5.4	3.7	4.7	2.0	4.3	2.3	43.6	3.4
学年	中学2年	524	15.1	34.0	25.6	10.3	2.9	1.7	2.9	2.7	3.2	1.7	1.5	2.1	46.2	4.0
	高校2年	333	15.6	31.8	44.4	8.7	10.2	4.2	9.3	5.4	6.9	2.4	8.7	2.7	39.3	2.4
	無回答	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
性別	男性	341	7.6	25.2	24.3	6.2	3.5	1.2	2.6	1.8	1.8	1.8	2.1	2.3	53.7	4.7
	女性	493	20.1	37.9	38.9	12.2	6.9	3.7	7.3	4.9	6.1	2.0	5.9	2.0	37.3	2.4
	その他	4	25.0	75.0	25.0	-	50.0	-	-	-	25.0	-	-	25.0	25.0	-
	答えない	16	25.0	50.0	31.3	12.5	6.3	6.3	6.3	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	25.0	6.3
	無回答	4	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	50.0	-
家族構成	ひとり親家庭	129	15.5	34.1	39.5	13.2	9.3	3.1	14.7	7.0	9.3	3.1	7.8	0.8	45.7	0.8
	二世代世帯（ふたり親家庭）	539	13.2	32.5	31.2	8.7	4.5	2.2	3.5	1.9	3.7	0.9	3.3	3.3	43.8	3.7
	三世代以上の世帯	172	19.8	34.9	34.3	9.9	7.0	3.5	3.5	5.8	4.7	4.1	3.5	-	41.3	4.1
	その他	12	25.0	25.0	25.0	-	8.3	8.3	8.3	8.3	-	8.3	25.0	8.3	58.3	-
	無回答	6	50.0	33.3	16.7	33.3	-	-	16.7	33.3	-	-	-	-	16.7	16.7
自身の権利	守られている	610	11.3	30.5	29.3	8.9	3.8	2.5	3.1	1.0	2.6	1.0	2.0	1.5	47.9	3.1
	だいたい守られている	176	25.0	44.3	45.5	13.1	8.5	2.8	9.1	10.2	8.0	5.7	9.7	4.0	30.7	1.7
	あまり守られていない	10	40.0	50.0	60.0	10.0	30.0	10.0	40.0	40.0	50.0	-	30.0	10.0	-	-
	守られていない	4	100.0	75.0	75.0	-	50.0	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	25.0	-	-
	わからない	33	24.2	21.2	21.2	12.1	15.2	3.0	9.1	6.1	9.1	3.0	9.1	6.1	54.5	-
	無回答	25	8.0	20.0	28.0	4.0	4.0	4.0	8.0	-	-	-	-	-	40.0	28.0
家族の世話	している	47	21.3	48.9	44.7	8.5	2.1	6.4	8.5	6.4	4.3	8.5	4.3	2.1	29.8	8.5
	していない	798	15.0	32.3	32.5	9.8	6.0	2.5	5.3	3.6	4.8	1.6	4.3	2.4	44.6	2.4
	無回答	13	7.7	23.1	15.4	7.7	-	-	-	-	-	-	7.7	-	30.8	46.2

8. 悩みについて話を聞いてくれる人がいるか

問12 問11で回答した悩みや困りごとについて、相談にのってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

悩んでいることがあると回答した人に、悩みについて話を聞いてくれる人がいるかについて聞いたところ、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が71.2%、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」が6.6%、「相談や話をしたくない」が17.6%となっている。

図表一 74 悩みについて話を聞いてくれる人がいるか



悩みについて話を聞いてくれる人がいるかについて学年別にみると、中学2年生の方が「相談や話をしたくない」（19.2%）の割合が高くなっている。また、高校2年生の方が「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」（9.3%）の割合が高くなっている。

性別にみると、女性の方が「相談や話をしたくない」（18.9%）の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭では「相談や話をしたくない」（24.6%）の割合が高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人において「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」（76.3%）の割合が高くなっている。また、だいたい守られている人では「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」（10.1%）と「相談や話をしたくない」（18.5%）の割合が高くなっている。

図表一75 学年、性別、家族構成、自身の権利、家族の世話別
悩みについて話を聞いてくれる人がいるか

単位：%

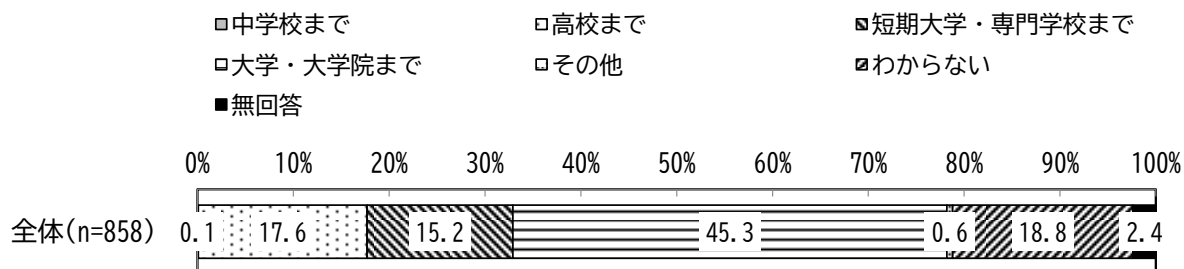
		調査数	る相談 相手が いい手 や話を 聞いて くれ	る相談 相手が いい手 ないや 話を 聞いて くれ	相談 や話を したく ない	無回 答
全 体		455	71.2	6.6	17.6	4.6
学 年	中学2年	261	70.1	4.6	19.2	6.1
	高校2年	194	72.7	9.3	15.5	2.6
	無回答	-	-	-	-	-
性 別	男性	142	73.9	7.0	12.7	6.3
	女性	297	71.0	6.7	18.9	3.4
	その他	3	33.3	-	66.7	-
	答えない	11	54.5	-	36.4	9.1
	無回答	2	50.0	-	-	50.0
家 族 構 成	ひとり親家庭	69	69.6	5.8	24.6	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	283	72.8	6.4	16.6	4.2
	三世帯以上の世帯	94	68.1	7.4	17.0	7.4
	その他	5	80.0	20.0	-	-
	無回答	4	50.0	-	-	50.0
自 身 の 権 利	守られている	299	76.3	3.3	15.1	5.4
	だいたい守られている	119	68.1	10.1	18.5	3.4
	あまり守られていない	10	30.0	50.0	20.0	-
	守られていない	4	25.0	50.0	25.0	-
	わからない	15	40.0	-	53.3	6.7
	無回答	8	62.5	12.5	25.0	-
家 族 の 世 話	している	29	69.0	6.9	24.1	-
	していない	423	71.2	6.6	17.3	5.0
	無回答	3	100.0	-	-	-

9. 進路希望

問13 進路希望についておたずねします。あなたは将来どの学校まで行きたいと思いますか。

進路希望について聞いたところ、「大学・大学院まで」の割合が45.3%と最も高く、次いで「わからない」(18.8%)、「高校まで」(17.6%)となっている。

図表一76 進路希望



進路希望について学年別にみると、中学2年生の方が「高校まで」(19.7%)と「わからない」(21.8%)の割合が高くなっている。また、高校2年生の方が「大学・大学院まで」(51.4%)の割合が高くなっている。

性別にみると、男性の方が「高校まで」(22.0%)の割合が高く、女性の方が「短期大学・専門学校まで」(19.5%)の割合が高くなっている。

居住地別にみると、西部では「高校まで」(28.3%)の割合が高くなっている。また、中央では「大学・大学院まで」(60.9%)の割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭では「高校まで」(25.6%)と「わからない」(23.3%)の割合が高くなっている。三世帯以上の世帯では「短期大学・専門学校まで」(19.8%)の割合が高くなっている。二世帯世帯（ふたり親家庭）では「大学・大学院まで」(49.9%)の割合が高くなっている。

自身の権利別にみると、守られている人において「大学・大学院まで」(48.7%)の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「高校まで」(27.7%)の割合が高く、家族の世話をしていない人の方が「短期大学・専門学校まで」(15.7%)と「大学・大学院まで」(46.0%)の割合が高くなっている。

図表一七七 学年、性別、居住地、家族構成、自身の権利、家族の世話別 進路希望

単位：％

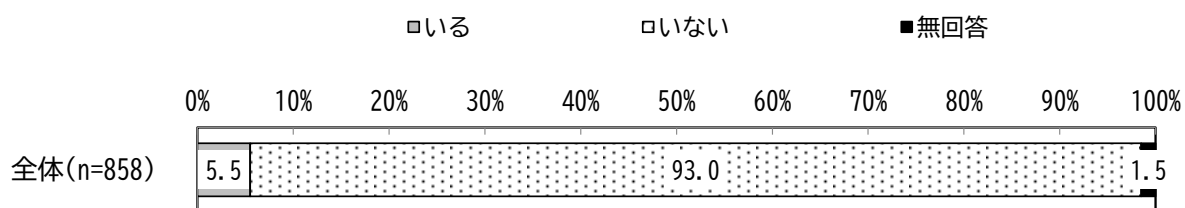
		調査数	中学校まで	高校まで	短期大学・専門学校まで	大学・大学院まで	その他	わからない	無回答
全 体		858	0.1	17.6	15.2	45.3	0.6	18.8	2.4
学 年	中学2年	524	0.2	19.7	13.7	41.4	0.4	21.8	2.9
	高校2年	333	-	14.4	17.4	51.4	0.9	14.1	1.8
	無回答	1	-	-	-	100.0	-	-	-
性 別	男性	341	0.3	22.0	8.5	44.3	0.6	20.8	3.5
	女性	493	-	14.8	19.5	45.4	0.6	18.1	1.6
	その他	4	-	25.0	-	75.0	-	-	-
	答えない	16	-	12.5	18.8	56.3	-	6.3	6.3
	無回答	4	-	-	50.0	50.0	-	-	-
居 住 地	東部	111	-	18.0	17.1	36.0	0.9	26.1	1.8
	西部	127	-	28.3	15.7	30.7	-	21.3	3.9
	南部	165	0.6	18.2	13.3	41.8	1.2	21.2	3.6
	北部	129	-	20.2	17.8	38.0	0.8	20.9	2.3
	中央	192	-	9.9	15.1	60.9	-	13.0	1.0
	その他（久留米市外など）	116	-	13.8	12.1	59.5	0.9	12.9	0.9
	無回答	18	-	22.2	16.7	33.3	-	16.7	11.1
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	-	25.6	15.5	35.7	-	23.3	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	0.2	15.4	13.4	49.9	0.7	17.6	2.8
	三世帯以上の世帯	172	-	19.8	19.8	39.5	0.6	17.4	2.9
	その他	12	-	8.3	25.0	16.7	-	50.0	-
	無回答	6	-	-	16.7	66.7	-	-	16.7
自 身 の 権 利	守られている	610	0.2	16.1	15.2	48.7	0.3	17.5	2.0
	だいたい守られている	176	-	19.3	18.2	44.3	0.6	15.3	2.3
	あまり守られていない	10	-	20.0	-	10.0	10.0	60.0	-
	守られていない	4	-	50.0	-	50.0	-	-	-
	わからない	33	-	30.3	9.1	6.1	3.0	51.5	-
	無回答	25	-	20.0	8.0	36.0	-	16.0	20.0
家 族 の 世 話	している	47	-	27.7	10.6	36.2	-	14.9	10.6
	していない	798	0.1	17.3	15.7	46.0	0.6	18.9	1.4
	無回答	13	-	-	-	38.5	-	23.1	38.5

10. 世話をしている家族の有無

問14 家族の中にあなたがお世話をしている方はいますか。（ここで「お世話」とは本来、大人がすると考えられる食事のしたく、洗たくなどの家事や家族のお世話などを日常的にすることです。）

世話をしている家族の有無について聞いたところ、「いる」が5.5%、「いない」が93.0%となっている。

図表一78 世話をしている家族の有無



世話をしている家族の有無について学年別にみると、「いる」の割合は中学2年生で6.3%、高校2年生で4.2%となっている。

性別にみると、「いる」の割合は男性で4.1%、女子で6.5%となっている。

居住地別にみると、「いる」の割合は東部（7.2%）が最も高くなっている。

家族構成別にみると、「いる」の割合はひとり親家庭（9.3%）が最も高くなっている。

自身の権利別には、大きな差は見られない。

図表一79 学年、性別、居住地、家族構成、自身の権利別 世話をしている家族の有無
単位：%

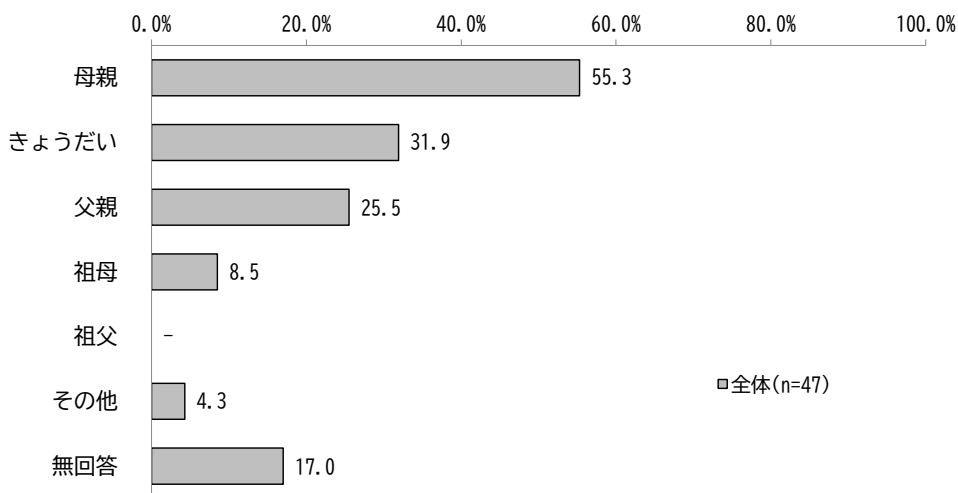
		調査数	いる	いない	無回答
全 体		858	5.5	93.0	1.5
学 年	中学2年	524	6.3	91.6	2.1
	高校2年	333	4.2	95.2	0.6
	無回答	1	-	100.0	-
性 別	男性	341	4.1	94.4	1.5
	女性	493	6.5	92.1	1.4
	その他	4	-	100.0	-
	答えない	16	6.3	87.5	6.3
	無回答	4	-	100.0	-
居 住 地	東部	111	7.2	91.9	0.9
	西部	127	4.7	95.3	-
	南部	165	5.5	92.1	2.4
	北部	129	6.2	93.0	0.8
	中央	192	6.3	91.1	2.6
	その他（久留米市外など）	116	2.6	97.4	-
	無回答	18	5.6	83.3	11.1
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	9.3	89.9	0.8
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	4.1	94.6	1.3
	三世帯以上の世帯	172	6.4	91.3	2.3
	その他	12	16.7	83.3	-
	無回答	6	-	83.3	16.7
自 身 の 権 利	守られている	610	4.8	93.9	1.3
	だいたい守られている	176	5.1	93.8	1.1
	あまり守られていない	10	-	100.0	-
	守られていない	4	-	100.0	-
	わからない	33	3.0	97.0	-
	無回答	25	32.0	56.0	12.0

1.1. 誰の世話をしているか

問15(1) お世話をしている方

家族の世話をしていると回答した人に、誰の世話をしているかについて聞いたところ、「母親」(55.3%)、「きょうだい」(31.9%)、「父親」(25.5%)の順となっている。

図表—80 誰の世話をしているか



図表—81 学年、性別、家族構成別 誰の世話をしているか

単位：%

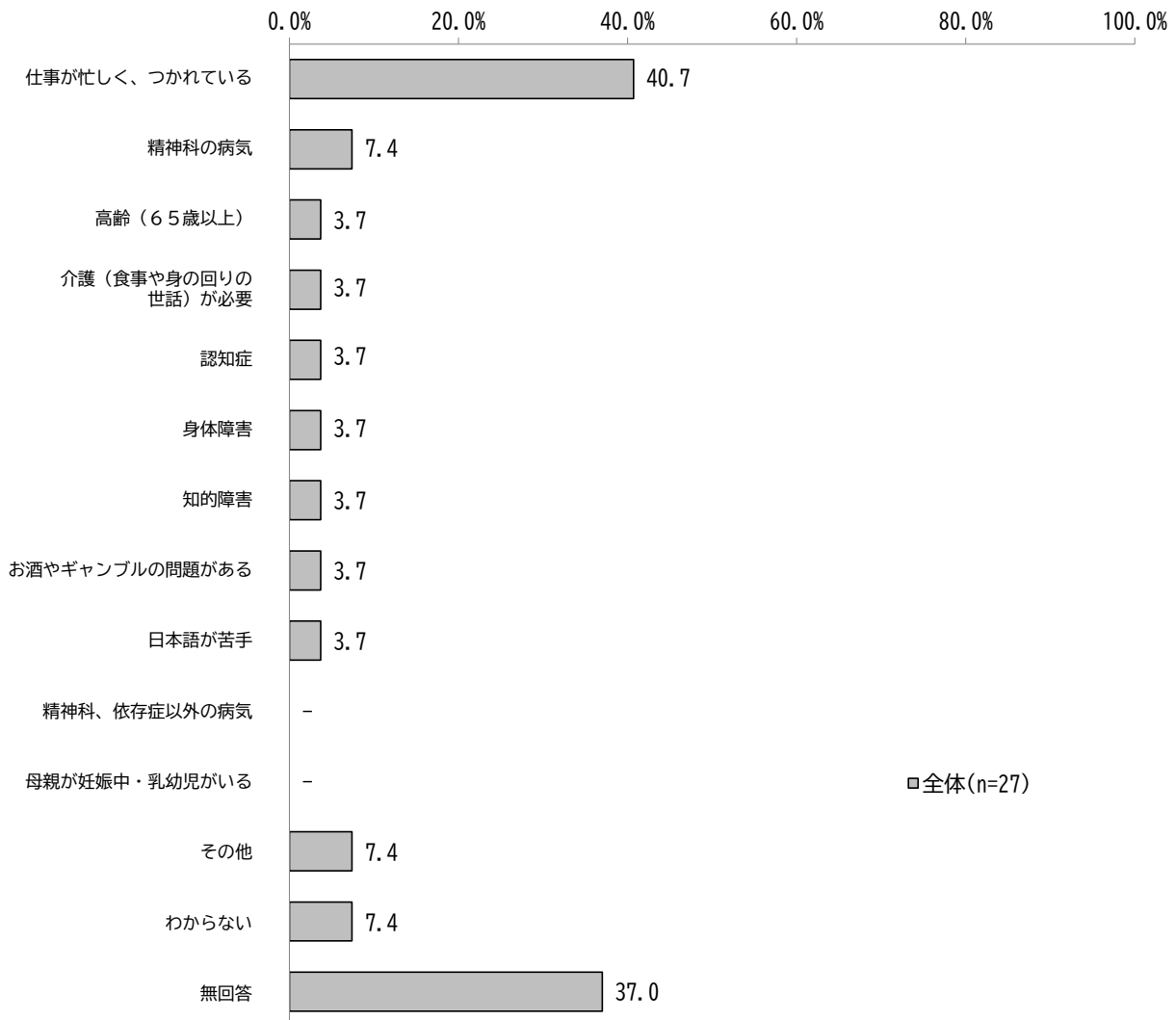
		調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
全 体		47	55.3	25.5	8.5	-	31.9	4.3	17.0
学 年	中学2年	33	48.5	27.3	6.1	-	27.3	6.1	21.2
	高校2年	14	71.4	21.4	14.3	-	42.9	-	7.1
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
性 別	男性	14	71.4	42.9	-	-	14.3	14.3	7.1
	女性	32	50.0	18.8	12.5	-	37.5	-	21.9
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	-	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	12	75.0	16.7	8.3	-	33.3	-	8.3
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	45.5	31.8	-	-	36.4	-	27.3
	三世帯以上の世帯	11	63.6	27.3	18.2	-	27.3	9.1	9.1
	その他	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

12. 母親・父親の状態

問15(2)① 母親、父親をお世話している人にお聞きます。それはどのような理由ですか。

母親・父親の世話をしていると回答した人に、母親・父親の状態について聞いたところ、「仕事が忙しく、つかれている」(40.7%)、「精神科の病気」(7.4%)の順となっている。

図表-82 母親・父親の状態

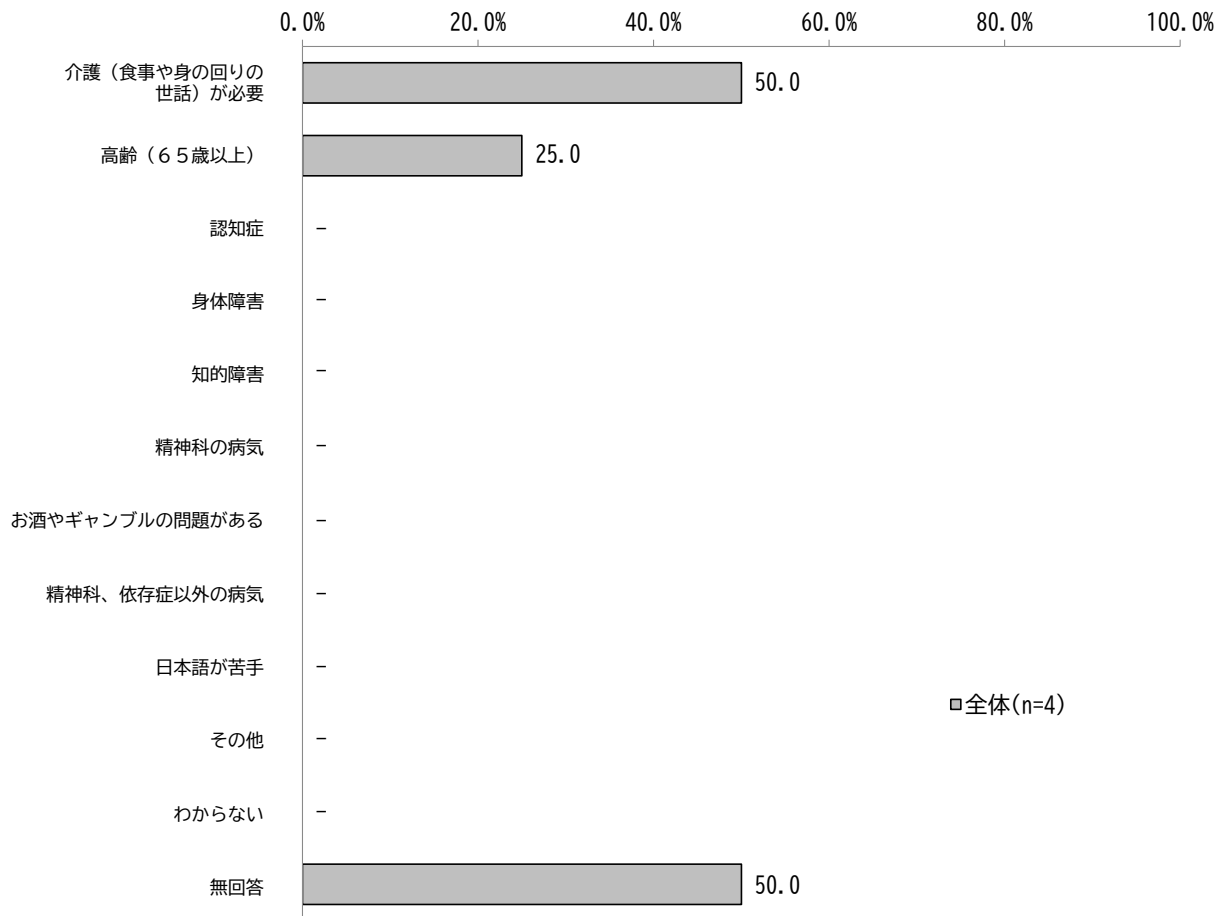


13. 祖母・祖父の状態

問15(2)② 祖母、祖父をお世話している人にお聞きます。それはどのような理由ですか。

祖母・祖父の世話をしていると回答した人に、祖母・祖父の状態について聞いたところ、「介護（食事や身の回りの世話）が必要」（50.0%）、「高齢（65歳以上）」（25.0%）の順となっている。

図表-83 祖母・祖父の状態

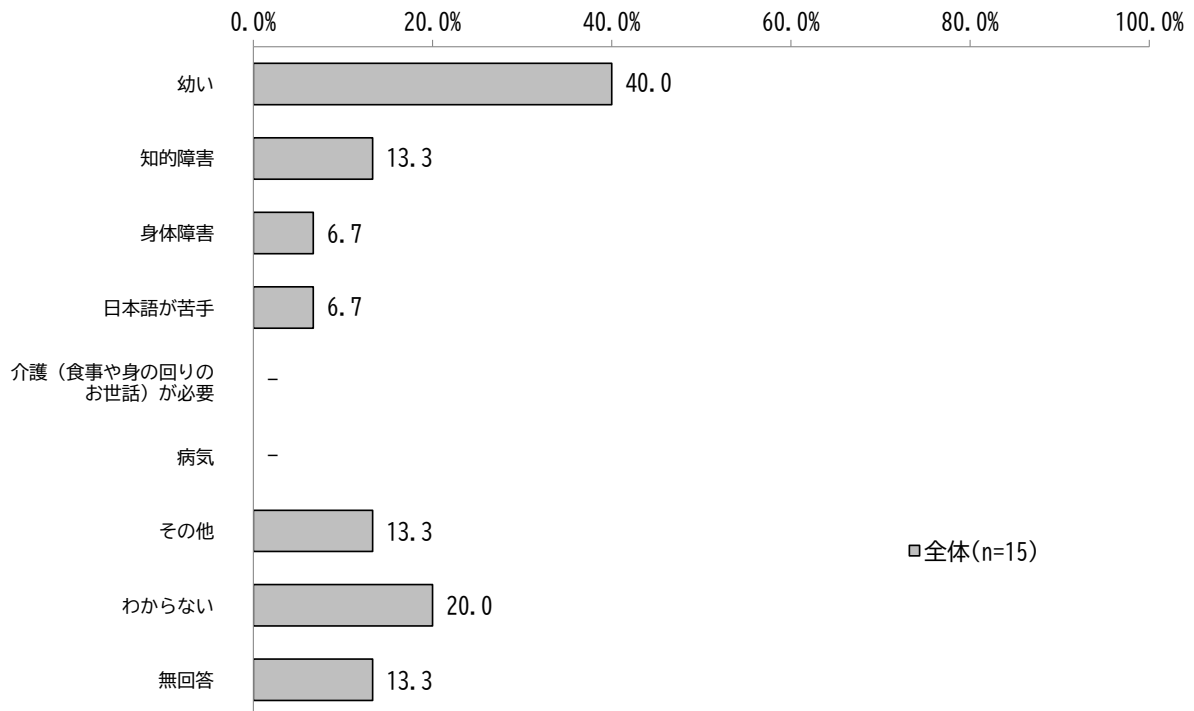


14. きょうだいの状態

問15(2)③ きょうだいをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。

きょうだいの世話をしていると回答した人に、きょうだいの状態について聞いたところ、「若い」(40.0%)、「わからない」(20.0%)、「知的障害」と「その他」(ともに13.3%)の順となっている。

図表-84 きょうだいの状態

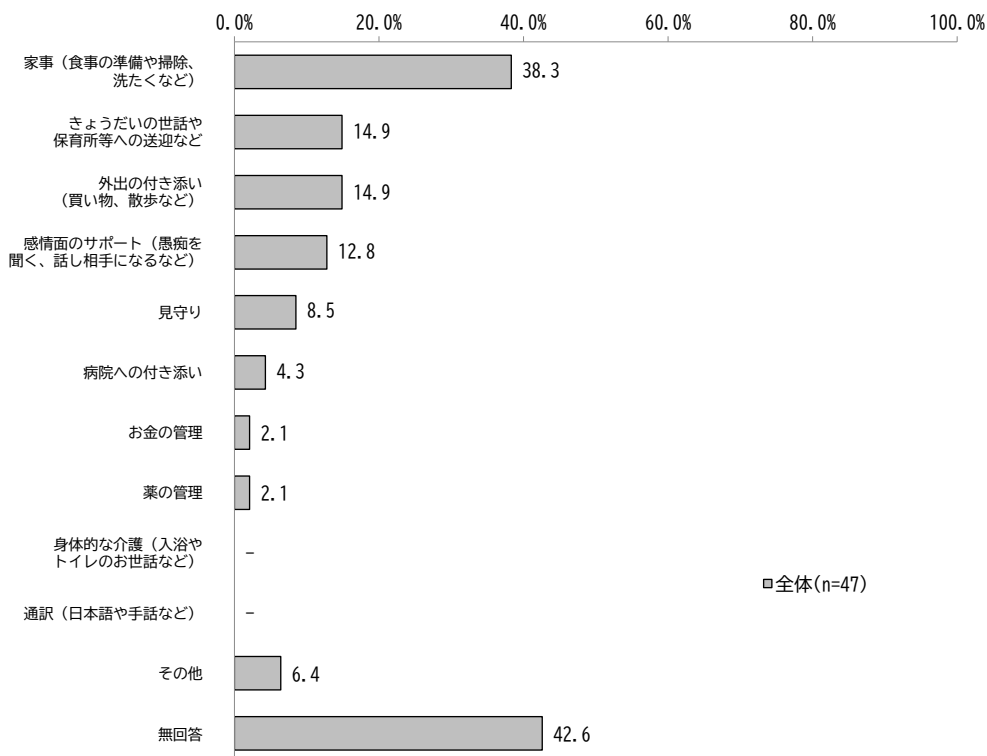


15. 世話の内容

問15(3) あなたがしているお世話の内容を教えてください。

家族の世話をしていると回答した人に、世話の内容について聞いたところ、「家事（食事の準備や掃除、洗たくなど）」（38.3%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」と「外出の付き添い（買い物、散歩など）」（ともに14.9%）の順となっている。

図表—85 世話の内容



図表—86 学年、性別、家族構成別 世話の内容

単位：%

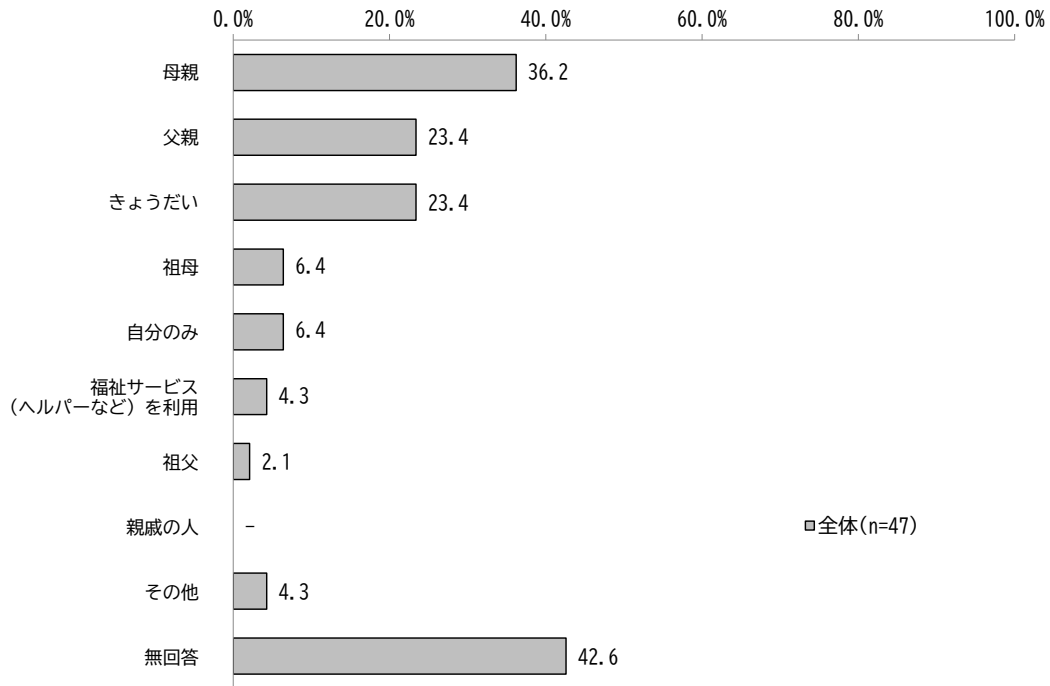
	調査数	家事（食事の準備や掃除、洗たくなど）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	病院への付き添い	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体	47	38.3	14.9	-	14.9	4.3	12.8	8.5	-	2.1	2.1	6.4	42.6
学年	中学2年	33	27.3	18.2	-	12.1	-	9.1	3.0	3.0	-	9.1	48.5
	高校2年	14	64.3	7.1	-	21.4	14.3	21.4	21.4	-	7.1	-	28.6
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別	男性	14	21.4	-	-	-	-	-	-	-	-	21.4	57.1
	女性	32	46.9	21.9	-	21.9	6.3	18.8	12.5	3.1	3.1	-	34.4
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	12	50.0	8.3	-	8.3	8.3	16.7	8.3	-	8.3	8.3	41.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	27.3	22.7	-	13.6	-	9.1	-	-	-	-	50.0
	三世帯以上の世帯	11	45.5	9.1	-	18.2	-	18.2	27.3	9.1	-	9.1	36.4
	その他	2	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

16. 世話を一緒にしている人

問15(4) お世話は誰と行っていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話を一緒にしている人について聞いたところ、「母親」（36.2%）、「父親」と「きょうだい」（23.4%）の順となっている。

図表一87 世話を一緒にしている人



図表一88 学年、性別、家族構成別 世話を一緒にしている人

単位：%

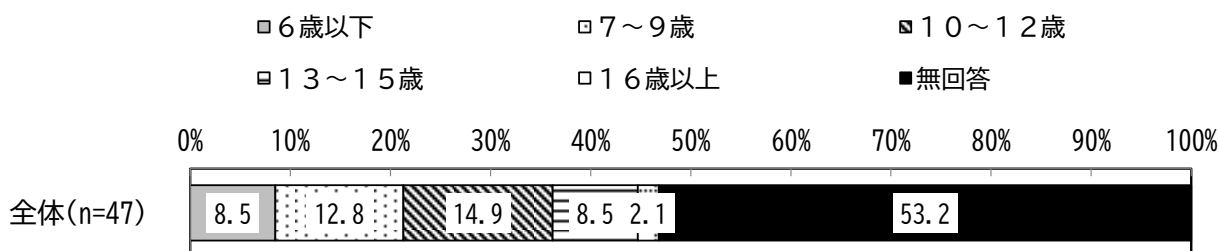
		調査数	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
全 体		47	36.2	23.4	6.4	2.1	23.4	-	6.4	4.3	4.3	42.6
学 年	中学2年	33	39.4	27.3	6.1	-	24.2	-	3.0	-	6.1	45.5
	高校2年	14	28.6	14.3	7.1	7.1	21.4	-	14.3	14.3	-	35.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性 別	男性	14	14.3	7.1	-	-	7.1	-	-	-	14.3	57.1
	女性	32	43.8	28.1	9.4	3.1	28.1	-	9.4	6.3	-	37.5
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
家 族 構 成	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり親家庭	12	33.3	8.3	-	-	16.7	-	8.3	-	8.3	41.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	40.9	36.4	4.5	-	31.8	-	-	-	-	50.0
	三世帯以上の世帯	11	36.4	18.2	18.2	9.1	18.2	-	9.1	18.2	-	36.4
	その他	2	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

17. 世話を始めた年齢

問15(5) お世話を始めたあなたの年齢をお答えください。(はっきりとわからない場合は、だいたい年をかまいません)

家族の世話をしていると回答した人に、世話を始めた年齢について聞いたところ、「10～12歳」(14.9%)、「7～9歳」(12.8%)、「6歳以下」と「13～15歳」(ともに8.5%)の順となっている。

図表一89 世話を始めた年齢



図表一90 学年、性別、家族構成別 世話を始めた年齢

単位：%

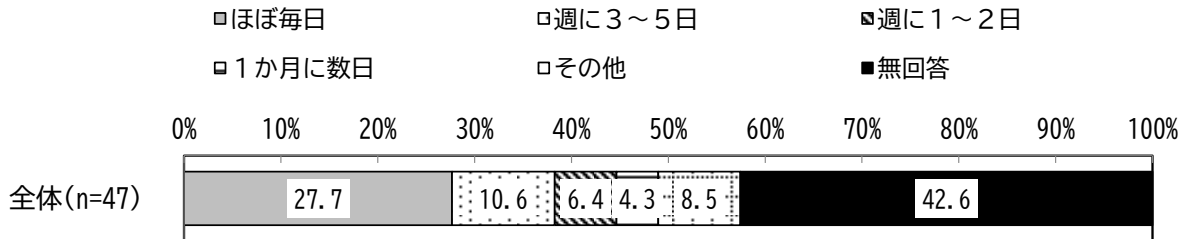
		調査数	6歳以下	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16歳以上	無回答
全体		47	8.5	12.8	14.9	8.5	2.1	53.2
学年	中学2年	33	9.1	12.1	18.2	6.1	-	54.5
	高校2年	14	7.1	14.3	7.1	14.3	7.1	50.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別	男性	14	7.1	7.1	7.1	-	-	78.6
	女性	32	9.4	12.5	18.8	12.5	3.1	43.8
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	12	-	16.7	16.7	-	-	66.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	9.1	18.2	13.6	9.1	-	50.0
	三世帯以上の世帯	11	18.2	-	18.2	9.1	9.1	45.5
	その他	2	-	-	-	50.0	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

18. 世話をしている頻度

問15(6) どれくらいお世話をしていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話をしている頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日」(27.7%)、「週に3～5日」(10.6%)、「その他」(8.5%)の順となっている。

図表－91 世話をしている頻度



図表－92 学年、性別、家族構成別 世話をしている頻度

単位：%

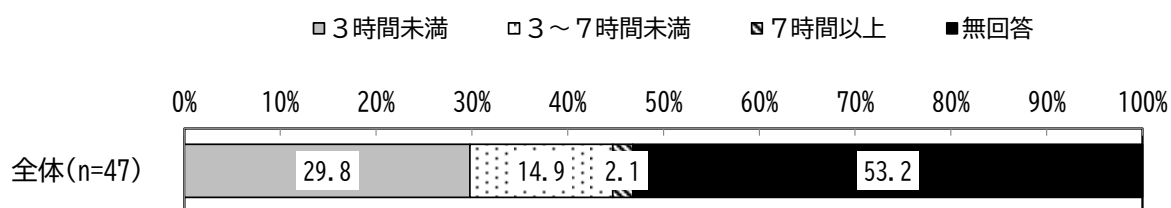
		調査数	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答
全体		47	27.7	10.6	6.4	4.3	8.5	42.6
学年	中学2年	33	27.3	6.1	6.1	3.0	12.1	45.5
	高校2年	14	28.6	21.4	7.1	7.1	-	35.7
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別	男性	14	7.1	7.1	-	7.1	28.6	50.0
	女性	32	34.4	12.5	9.4	3.1	-	40.6
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	-	-	-	-	-
家族構成	無回答	-	-	-	-	-	-	-
	ひとり親家庭	12	25.0	16.7	-	-	8.3	50.0
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	22.7	9.1	9.1	9.1	4.5	45.5
	三世帯以上の世帯	11	36.4	9.1	9.1	-	9.1	36.4
	その他	2	50.0	-	-	-	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

19. 平日1日あたりの世話に費やす時間

問15(7) 平日に何時間程度お世話を行っていますか。日によって異なる場合は、この1ヶ月で最も長かった日の時間をお答えください。

家族の世話をしていると回答した人に、平日1日あたりの世話に費やす時間について聞いたところ、「3時間未満」(29.8%)、「3～7時間未満」(14.9%)、「7時間以上」(2.1%)の順となっている。

図表－93 平日1日あたりの世話に費やす時間



図表－94 学年、性別、家族構成別 平日1日あたりの世話に費やす時間

単位：%

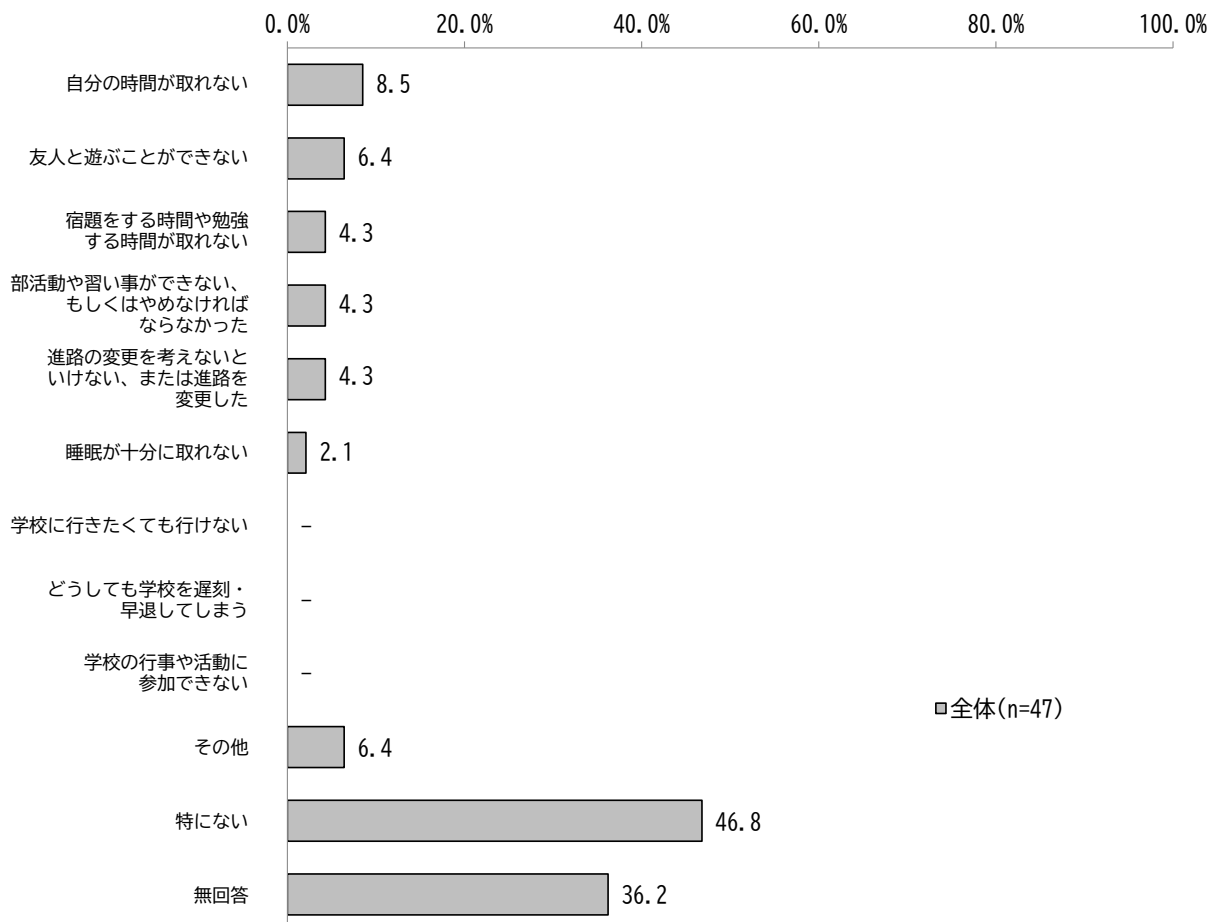
		調査数	3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		47	29.8	14.9	2.1	53.2
学年	中学2年	33	33.3	9.1	3.0	54.5
	高校2年	14	21.4	28.6	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-
性別	男性	14	14.3	7.1	-	78.6
	女性	32	37.5	15.6	3.1	43.8
	その他	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	12	8.3	8.3	8.3	75.0
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	45.5	4.5	-	50.0
	三世帯以上の世帯	11	27.3	36.4	-	36.4
	その他	2	-	50.0	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-

20. 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

問16 お世話をしているために、やりたいけど、できていないことはありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話をしているためにやりたいけれどできないことについて聞いたところ、「特にない」(46.8%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「自分の時間が取れない」(8.5%)、「友人と遊ぶことができない」(6.4%)の順となっている。

図表一95 世話をしているためにやりたいけれどできないこと



第3章 調査結果（中学生）

図表一 96 学年、性別、家族構成別 世話をしているためにやりたいけれどできないこと

単位：％

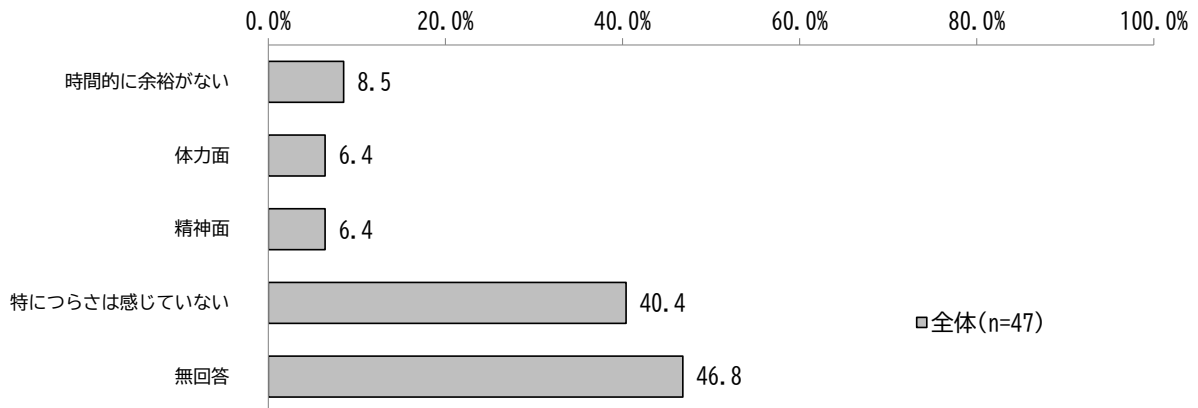
	調査数	学校に行きたくても行かない	刻・早退しても学校を遅くしてしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	加学校の行事や活動に参加できない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	な活動や習い事ができない、もしくはやめた	部活動や習い事ができない、もしくはやめた	路を要しない、または進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答
全 体	47	-	-	4.3	-	2.1	6.4	4.3	4.3	8.5	6.4	46.8	36.2	
学 年	中学2年	33	-	-	-	-	6.1	3.0	-	6.1	3.0	51.5	36.4	
	高校2年	14	-	-	14.3	-	7.1	7.1	14.3	14.3	14.3	35.7	35.7	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性 別	男性	14	-	-	-	-	-	-	-	7.1	-	50.0	42.9	
	女性	32	-	-	6.3	-	3.1	9.4	6.3	6.3	9.4	43.8	34.4	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家 族 構 成	ひとり親家庭	12	-	-	8.3	-	8.3	-	-	8.3	8.3	-	41.7	41.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	-	-	-	-	-	4.5	4.5	-	4.5	-	54.5	40.9
	三世帯以上の世帯	11	-	-	-	-	-	9.1	-	-	9.1	18.2	36.4	27.3
	その他	2	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

21. 世話の大変さ

問17 お世話をするなかで何につらさ・ストレスを感じていますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話の大変さについて聞いたところ、「特につらさは感じていない」（40.4％）の割合が最も高く、次いで「時間的に余裕がない」（8.5％）となっている。

図表－97 世話の大変さ



図表－98 学年、性別、家族構成別 世話の大変さ

単位：％

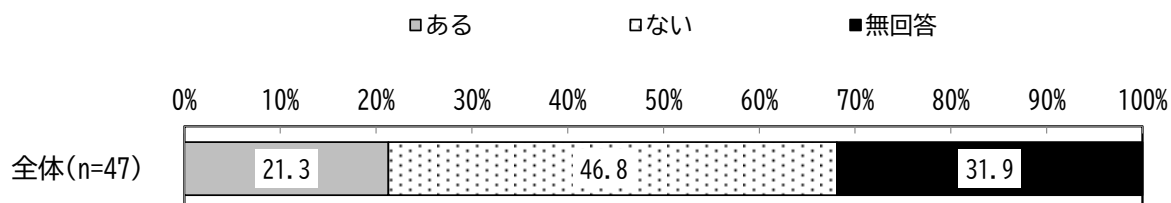
		調査数	体力面	精神面	時間的に余裕がない	特につらさは感じていない	無回答
全体		47	6.4	6.4	8.5	40.4	46.8
学年	中学2年	33	3.0	-	3.0	45.5	51.5
	高校2年	14	14.3	21.4	21.4	28.6	35.7
	無回答	-	-	-	-	-	-
性別	男性	14	-	-	-	28.6	71.4
	女性	32	9.4	9.4	12.5	43.8	37.5
	その他	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	12	16.7	8.3	16.7	16.7	58.3
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	-	-	-	50.0	50.0
	三世帯以上の世帯	11	9.1	9.1	9.1	54.5	27.3
	その他	2	-	50.0	50.0	-	50.0
	無回答	-	-	-	-	-	-

2.2. 世話について相談した経験

問18 お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、世話について相談した経験について聞いたところ、「ある」が21.3%、「ない」が46.8%となっている。

図表一 99 世話について相談した経験



図表一 100 学年、性別、家族構成別 世話について相談した経験

単位：%

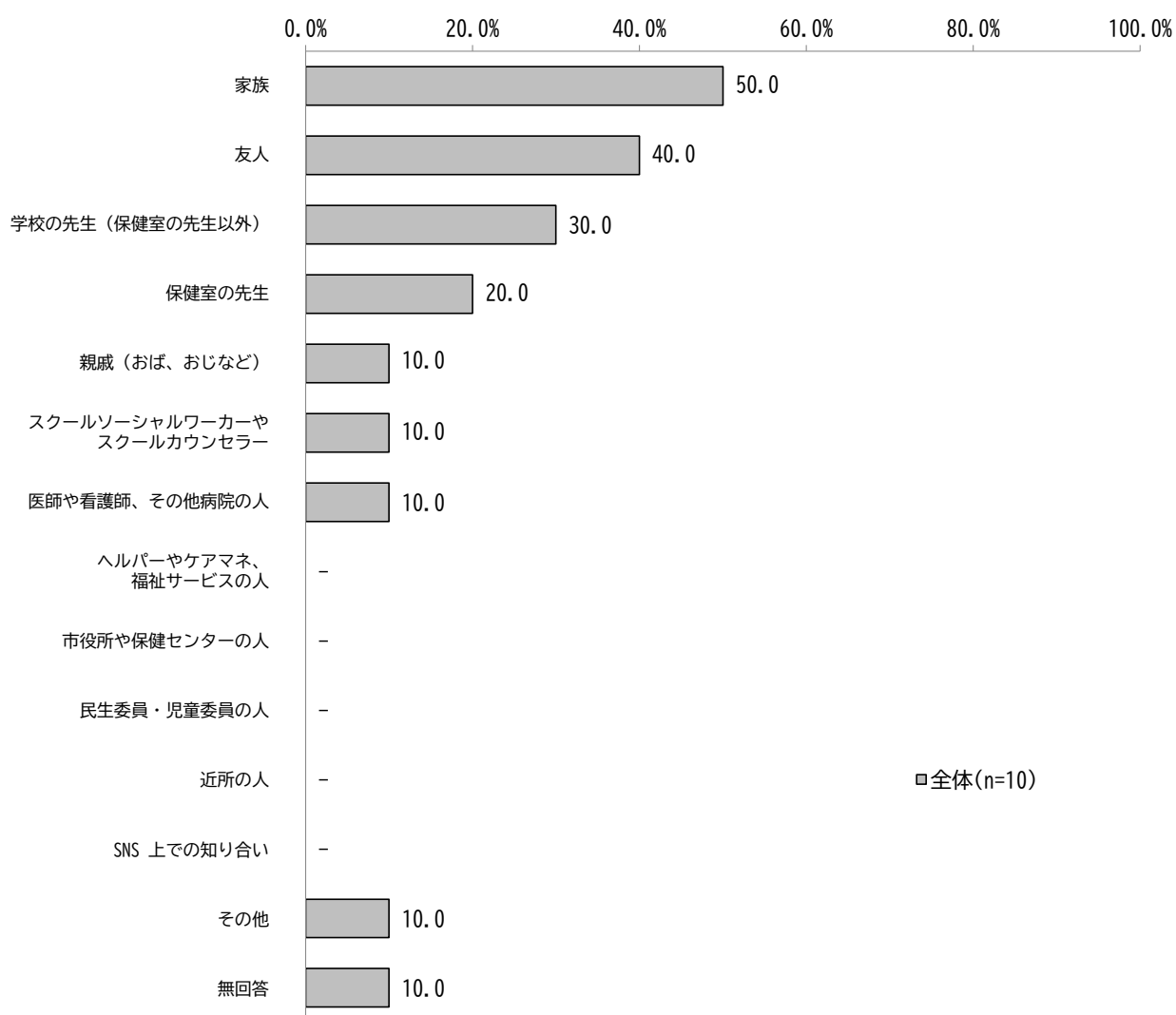
		調査数	ある	ない	無回答
全 体		47	21.3	46.8	31.9
学 年	中学2年	33	15.2	54.5	30.3
	高校2年	14	35.7	28.6	35.7
	無回答	-	-	-	-
性 別	男性	14	28.6	28.6	42.9
	女性	32	15.6	56.3	28.1
	その他	-	-	-	-
	答えない	1	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	12	16.7	41.7	41.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	13.6	50.0	36.4
	三世帯以上の世帯	11	45.5	36.4	18.2
	その他	2	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-

23. 世話についての相談相手

問19 問18で「1.ある」と回答した人にお聞きします。悩みを相談した相手は誰ですか。

世話について相談した経験があると回答した人に、世話についての相談相手について聞いたところ、「家族」（50.0%）、「友人」（40.0%）、「学校の先生（保健室の先生以外）」（30.0%）の順となっている。

図表－101 世話についての相談相手



第3章 調査結果（中学生）

図表－102 学年、性別、家族構成別 世話についての相談相手

単位：%

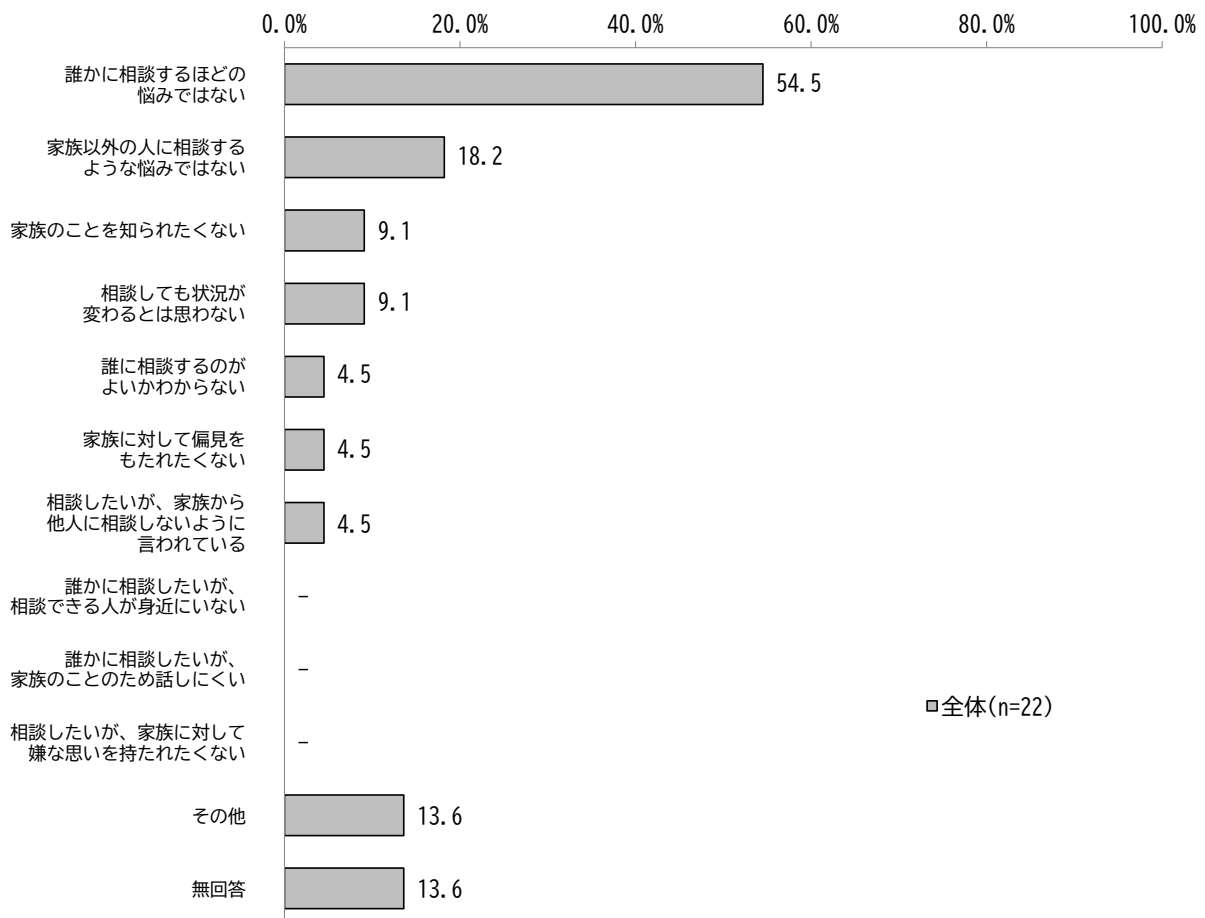
	調査数	家族	親戚（おば、おじなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師、その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	市役所や保健センターの人	民生委員・児童委員の人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
全 体	10	50.0	10.0	40.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	-	-	10.0	10.0
学 年	中学2年	5	60.0	20.0	60.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
	高校2年	5	40.0	-	20.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性 別	男性	4	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0
	女性	5	60.0	-	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	2	-	-	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	3	66.7	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三世帯以上の世帯	5	60.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

24. 世話について相談していない理由

問20 問18で「2.ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

世話について相談した経験がないと回答した人に、世話について相談していない理由について聞いたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」（54.5％）の割合が最も高く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではない」（18.2％）、「家族のことを知られたくない」と「相談しても状況が変わるとは思わない」（ともに9.1％）となっている。

図表-103 世話について相談していない理由



第3章 調査結果（中学生）

図表-104 学年、性別、家族構成別 世話について相談していない理由

単位：%

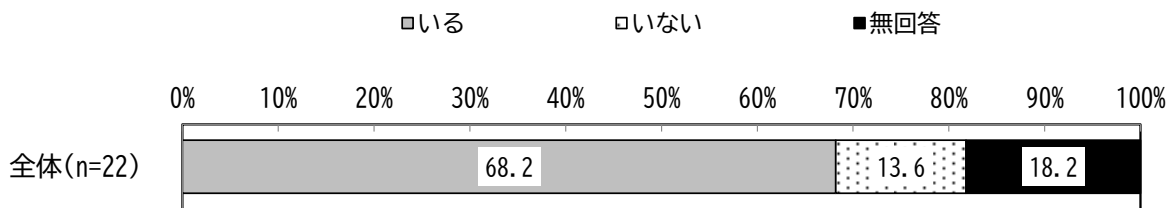
		調査数	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するよ うな悩みではない	誰かに相談するのがよいか わからない	誰かに相談したいが、相談 できる人が身近にいない	誰かに相談したいが、家族 のこのため話しにくい	家族のことを知られたくな い	家族に対して偏見をもたれ たくない	人に相談したいが、家族から他 人に相談しないように言わ れている	相談したいが、家族に対 して嫌な思いを持たれたく ない	相談しても状況が変わると は思わない	その他	無回答
全	体	22	54.5	18.2	4.5	-	-	9.1	4.5	4.5	-	9.1	13.6	13.6
学 年	中学2年	18	55.6	11.1	5.6	-	-	5.6	-	5.6	-	5.6	11.1	16.7
	高校2年	4	50.0	50.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性 別	男性	4	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	25.0
	女性	18	66.7	16.7	5.6	-	-	11.1	5.6	5.6	-	11.1	5.6	11.1
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	5	40.0	20.0	-	-	-	20.0	-	20.0	-	20.0	20.0	20.0
	二世代世帯（ふたり親家庭）	11	63.6	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	-	18.2
	三世代以上の世帯	4	75.0	50.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

25. 世話について話を聞いてくれる人の有無

問21 問28で「2.ない」と回答した人にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

世話について相談した経験がないと回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「いる」が68.2%、「いない」が13.6%となっている。

図表－105 世話について話を聞いてくれる人の有無



図表－106 学年、性別、家族構成別 世話について話を聞いてくれる人の有無

単位：%

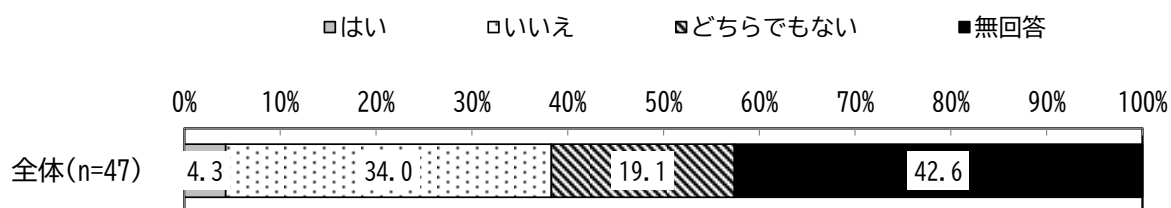
		調査数	いる	いない	無回答
全 体		22	68.2	13.6	18.2
学 年	中学2年	18	72.2	11.1	16.7
	高校2年	4	50.0	25.0	25.0
	無回答	-	-	-	-
性 別	男性	4	50.0	25.0	25.0
	女性	18	72.2	11.1	16.7
	その他	-	-	-	-
	答えない	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-
家 族 構 成	ひとり親家庭	5	20.0	40.0	40.0
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	11	81.8	9.1	9.1
	三世帯以上の世帯	4	75.0	-	25.0
	その他	2	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-

26. 家族の世話をしている人同士で話をしたいか

問22 あなたは家族のお世話をしている者同士で話してみたいですか。
（オンラインサロンなど）

家族の世話をしていると回答した人に、家族の世話をしている人同士で話をしたいかについて聞いたところ、「はい」が4.3%、「いいえ」が34.0%、「どちらでもない」が19.1%となっている。

図表-107 家族の世話をしている人同士で話をしたいか



図表-108 学年、性別、家族構成別 家族の世話をしている人同士で話をしたいか

単位：%

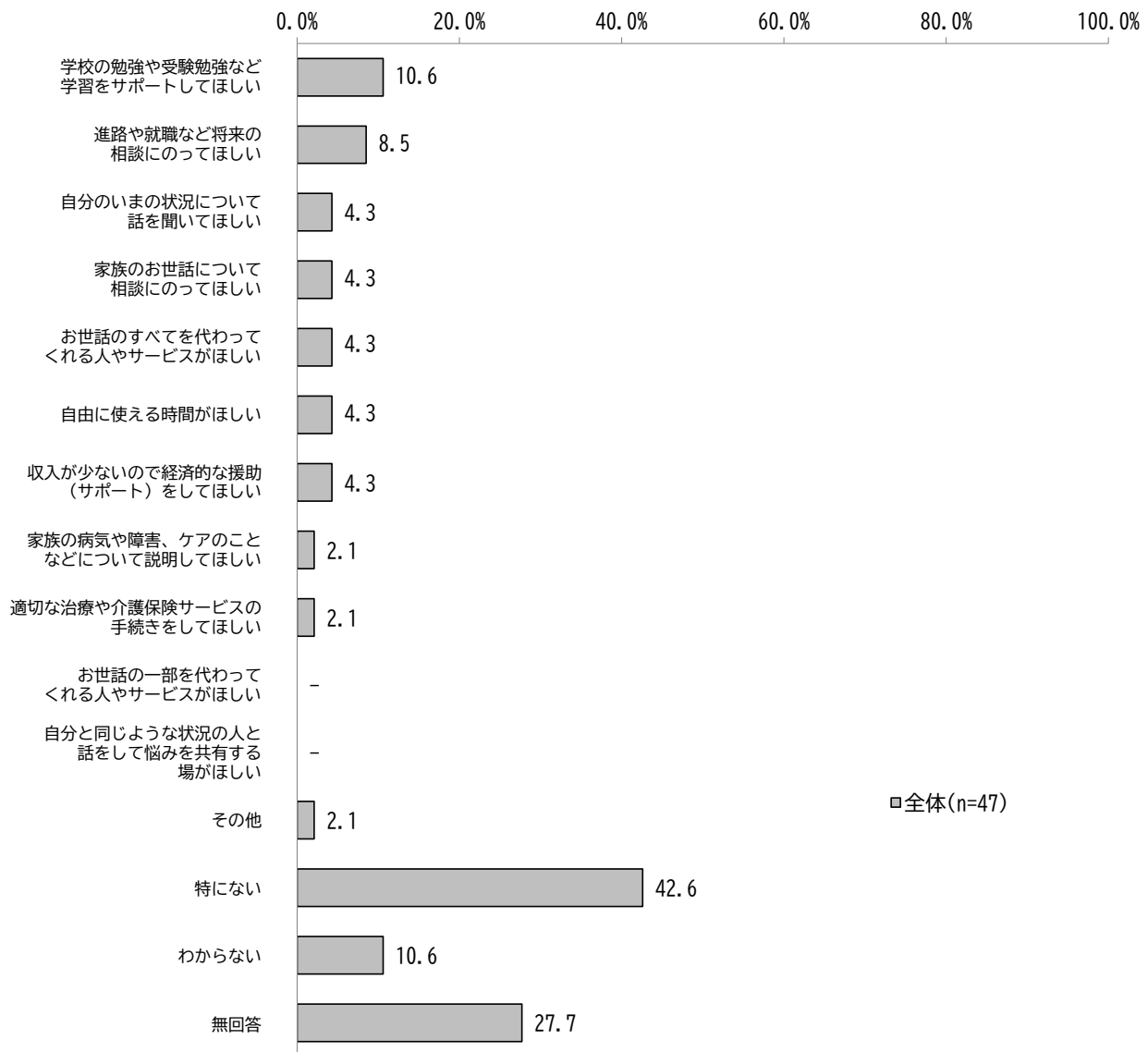
		調査数	はい	いいえ	どちらでもない	無回答
全体		47	4.3	34.0	19.1	42.6
学年	中学2年	33	3.0	30.3	21.2	45.5
	高校2年	14	7.1	42.9	14.3	35.7
	無回答	-	-	-	-	-
性別	男性	14	7.1	14.3	21.4	57.1
	女性	32	3.1	43.8	15.6	37.5
	その他	-	-	-	-	-
	答えない	1	-	-	100.0	-
	無回答	-	-	-	-	-
家族構成	ひとり親家庭	12	8.3	25.0	16.7	50.0
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	-	27.3	22.7	50.0
	三世帯以上の世帯	11	9.1	54.5	9.1	27.3
	その他	2	-	50.0	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-

27. 学校や大人にしてもらいたいこと

問23 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

家族の世話をしていると回答した人に、学校や大人にしてもらいたいことについて聞いたところ、「特にない」（42.6％）の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい」（10.6％）、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」（8.5％）の順となっている。

図表-109 学校や大人にしてもらいたいこと



第3章 調査結果（中学生）

図表-110 学年、性別、家族構成別 学校や大人にしてもらいたいこと

単位：%

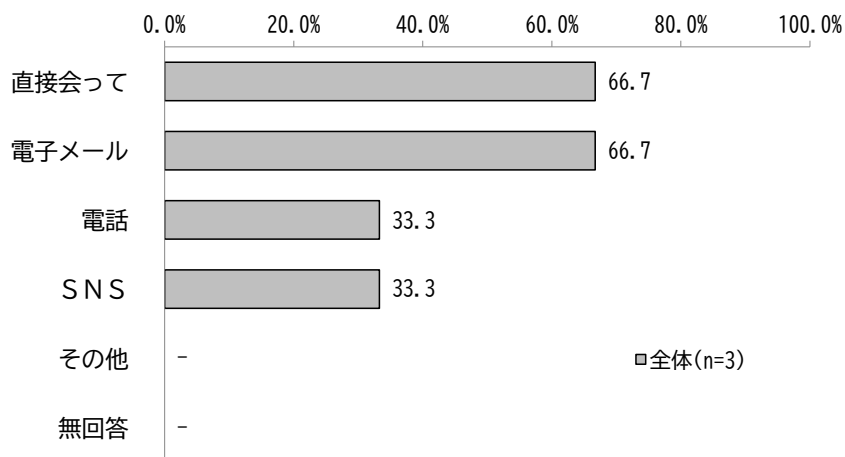
		調査数	話を聞いてほしい	家族のお世話について相談	お世話のすべてを代わってほしい	お世話の一部を代わってほしい	お世話のすべてを代わってほしい	家族の病気や障害、ケアのことなどについて説明してほしい	適切な治療や介護保険サービスの手続きをしてほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談	自分と同じような状況の人場がほしい	学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい	収入が少ないので経済的な援助（サポート）をしてほしい	その他	特になし	わからない	無回答
全体		47	4.3	4.3	4.3	-	2.1	2.1	4.3	8.5	-	10.6	4.3	2.1	42.6	10.6	27.7	
学年	中学2年	33	3.0	3.0	3.0	-	-	-	-	6.1	-	12.1	-	3.0	42.4	9.1	33.3	
	高校2年	14	7.1	7.1	7.1	-	7.1	7.1	14.3	14.3	-	7.1	14.3	-	42.9	14.3	14.3	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	男性	14	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	7.1	-	7.1	14.3	21.4	50.0	
	女性	32	3.1	6.3	6.3	-	3.1	3.1	6.3	9.4	-	12.5	6.3	-	53.1	6.3	18.8	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
家族構成	ひとり親家庭	12	8.3	16.7	16.7	-	8.3	8.3	16.7	16.7	-	8.3	16.7	-	25.0	16.7	25.0	
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	22	-	-	-	-	-	-	-	4.5	-	13.6	-	4.5	45.5	4.5	31.8	
	三世帯以上の世帯	11	9.1	-	-	-	-	-	-	9.1	-	9.1	-	-	54.5	9.1	27.3	
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

28. 希望する相談方法

問24 問23で「1.自分のいまの状況について話を聞いてほしい」または「2.家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。

前問で「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人に、希望する相談方法について聞いたところ、「直接会って」と「電子メール」（ともに66.7%）の割合が最も高くなっている。

図表－111 希望する相談方法



図表－112 学年、性別 希望する相談方法

単位：%

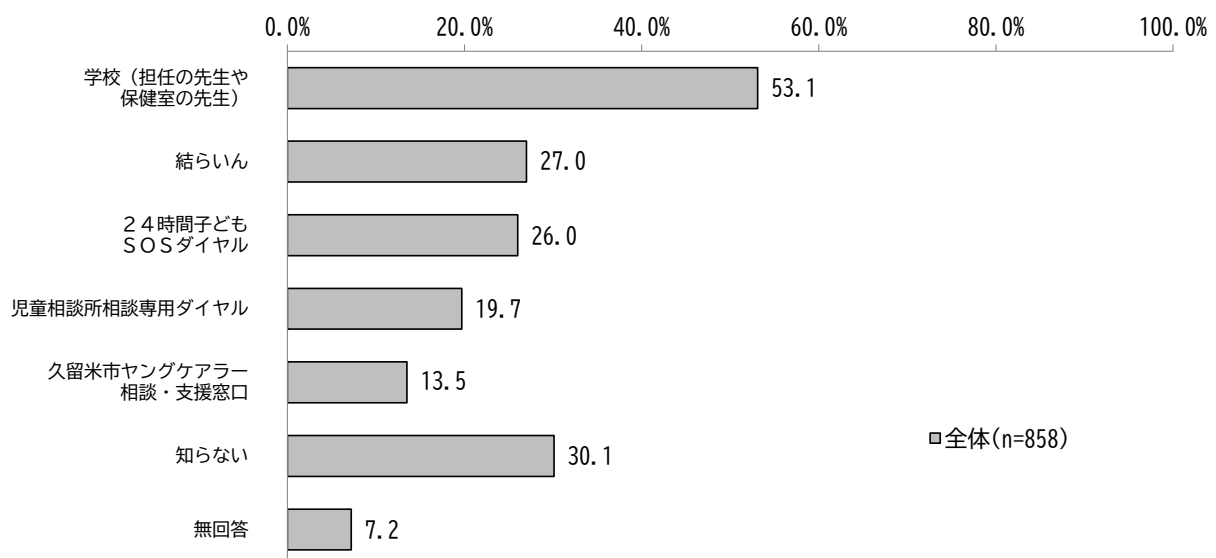
		調査数	直接会って	電話	SNS	電子メール	その他	無回答
全体		3	66.7	33.3	33.3	66.7	-	-
学年	中学2年	2	50.0	-	50.0	50.0	-	-
	高校2年	1	100.0	100.0	-	100.0	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別	男性	1	100.0	-	100.0	-	-	-
	女性	2	50.0	50.0	-	100.0	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-
	答えない	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

29. 知っている相談窓口

問25 あなたは、家族のお世話をしている子どもが悩みを相談できる以下の相談窓口を知っていますか。

知っている相談窓口について聞いたところ、「学校（担任の先生や保健室の先生）」（53.1%）、「知らない」（30.1%）、「結らいいん」（27.0%）の順となっている。

図表－113 知っている相談窓口



知っている相談窓口について学年別にみると、「知らない」の割合は高校2年生（34.2%）の方が高くなっている。一方で、高校2年生では「児童相談所相談専用ダイヤル」（25.2%）の割合も高くなっている。

性別にみると、男性の方が「知らない」（35.5%）の割合が高くなっている。一方で女性では「知らない」を除くすべての項目において男性よりも割合が高くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭では「知らない」（35.7%）の割合が高くなっている。また、三世代以上の世帯では「学校（担任の先生や保健室の先生）」（61.6%）の割合が高くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしていない人の方が「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を除くすべての項目において家族の世話をしている人よりも割合が高くなっている。

図表－114 学年、性別、家族構成、家族の世話別 知っている相談窓口

単位：%

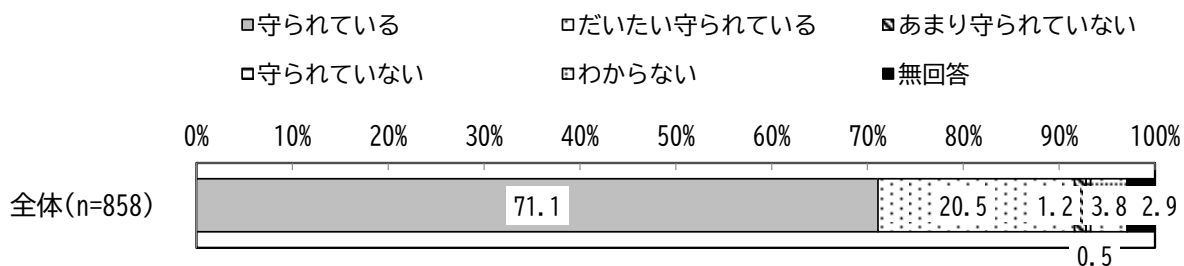
		調査数	の学校（担任の先生や保健室の先生）	談久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口	結らいん	ヤル24時間子どもSOSダイヤル	ル児童相談所相談専用ダイヤル	知らない	無回答
全 体		858	53.1	13.5	27.0	26.0	19.7	30.1	7.2
学 年	中学2年	524	53.8	13.9	27.5	26.7	16.2	27.5	9.4
	高校2年	333	52.0	12.9	26.4	24.9	25.2	34.2	3.9
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-
性 別	男性	341	45.7	11.7	19.9	22.9	16.7	35.5	8.2
	女性	493	58.4	14.6	31.2	27.6	21.9	26.6	6.3
	その他	4	50.0	-	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0
	答えない	16	50.0	18.8	56.3	43.8	18.8	25.0	6.3
	無回答	4	50.0	25.0	-	-	-	25.0	25.0
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	51.9	14.7	25.6	23.3	23.3	35.7	4.7
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	51.4	12.6	28.0	26.9	18.9	30.6	7.1
	三世帯以上の世帯	172	61.6	16.3	26.7	25.6	18.6	22.7	8.7
	その他	12	33.3	8.3	8.3	25.0	25.0	58.3	8.3
	無回答	6	33.3	-	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3
家 族 の 世 話 の	している	47	42.6	17.0	17.0	14.9	14.9	17.0	34.0
	していない	798	54.1	13.4	27.9	26.7	20.1	31.1	5.0
	無回答	13	30.8	7.7	7.7	23.1	15.4	15.4	46.2

30. 自身の権利が守られていると思うか

問26 子どもの権利についての文章を読んでお答えください。あなたは、自分の権利が守られていると思いますか。

自身の権利が守られていると思うかについて聞いたところ、「守られている」（71.1%）の割合が最も高く、次いで「だいたい守られている」（20.5%）となっている。

図表-115 自身の権利が守られていると思うか



自身の権利が守られていると思うかについて学年別にみると、「守られている」の割合は中学2年生（73.9%）の方が高く、高校2年生は「だいたい守られている」（24.3%）の割合が高くなっている。

性別にみると、「守られている」の割合は女性（72.6%）の方が高く、男性は「だいたい守られている」（22.0%）の割合が高くなっている。

居住地別にみると、「守られている」の割合は中央（77.1%）、西部（74.0%）、北部（72.9%）で高くなっている。一方で、東部、南部では「守られている」の割合が低くなっている。

家族構成別にみると、ひとり親家庭において「守られている」（65.9%）の割合が低くなっている。

家族の世話別にみると、家族の世話をしている人の方が「守られている」（61.7%）の割合が低くなっている。

図表一 116 学年、性別、居住地、家族構成、家族の世話別
自身の権利が守られていると思うか

単位：%

		調査数	守られている	だいたい守られている	あまり守られていない	守られていない	わからない	無回答
全 体		858	71.1	20.5	1.2	0.5	3.8	2.9
学 年	中学2年	524	73.9	18.1	0.6	-	3.8	3.6
	高校2年	333	66.7	24.3	2.1	1.2	3.9	1.8
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-
性 別	男性	341	68.9	22.0	1.2	-	4.7	3.2
	女性	493	72.6	19.9	1.2	0.8	3.0	2.4
	その他	4	75.0	-	-	-	25.0	-
	答えない	16	68.8	12.5	-	-	6.3	12.5
	無回答	4	75.0	25.0	-	-	-	-
居 住 地	東部	111	64.9	25.2	1.8	0.9	6.3	0.9
	西部	127	74.0	19.7	-	0.8	3.1	2.4
	南部	165	66.7	22.4	1.8	-	6.1	3.0
	北部	129	72.9	17.8	1.6	-	3.1	4.7
	中央	192	77.1	16.1	0.5	0.5	2.6	3.1
	その他（久留米市外など）	116	70.7	24.1	1.7	0.9	1.7	0.9
	無回答	18	55.6	22.2	-	-	5.6	16.7
家 族 構 成	ひとり親家庭	129	65.9	20.9	1.6	0.8	5.4	5.4
	二世帯世帯（ふたり親家庭）	539	72.5	19.9	1.1	0.4	3.7	2.4
	三世帯以上の世帯	172	70.3	23.3	0.6	0.6	2.9	2.3
	その他	12	75.0	8.3	8.3	-	8.3	-
	無回答	6	66.7	16.7	-	-	-	16.7
家 族 の 世 話 の	している	47	61.7	19.1	-	-	2.1	17.0
	していない	798	71.8	20.7	1.3	0.5	4.0	1.8
	無回答	13	61.5	15.4	-	-	-	23.1

3.1. 自由意見

問27 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、こうしてほしいと思うこと、他にも困っていることがあれば自由に書いてください。

家族の世話をしている子どものために必要だと思うことや学校や周りの大人にしてもらいたいことについての自由記述は以下のとおり。

図表-117 自由意見

※全回答ではなく、一部回答を抜粋して掲載
 ※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

家族の世話をしている子どものために必要だと思うこと	学年	性別	家族の世話
自分の為の時間を作ること。適度な距離をとること。	高校2年	女性	している
力になる人がいることをもっと知らせてあげてほしい テレビを見れない、スマホをもっていない子は情報はどこから取るのだろうか？と思います たとえば障がい手帳など登ろくのある家にどんな家族がいて、そしてもしもそこに子どもがいる場合、行政から面会等してみても良いのではないのでしょうか？していたらすいません。	中学2年	女性	していない
家族のお世話にとらわれず、自分らしく自由に育つことが大切だと思う。そのために、お金をはらわず、無償でサポートをしてくれる方々がいてくれるとよいと思う。	中学2年	女性	していない
家族のお世話をしている全員がだれかに相談していくことが大事だと思います。誰かに話すことで自分へのストレスが軽減されることもあるだろうし、新しい、第三者としての見方が分かり、悩むことも少なくなると思うからです。もしできるのであれば家族のお世話をしている人達全員に支援がいきわたったらいいなと思います。	中学2年	女性	していない
家族のお世話をして、自分の時間がとれない子どももいると思うので、安くかじなどを手伝ってくれる団たいをつくってほしいです。	中学2年	女性	していない
足りないものがあつたらしっかり補えるように対応してほしいです。子どもだけでは出来ないことが世の中にはたくさんあるから。各市町村での情報、状況確認をしてほしいです。	中学2年	女性	していない
色々事情はあるかもだけど一理にお金に困って家族のお世話をしている人もいると思うからそういう人に給付金をあげてほしい。こういうアンケートを定期的にとって生徒の家族との関係を知っておいてほしい。	中学2年	女性	していない
24時間受付可能なLINE相談窓口	中学2年	女性	していない
将来生きていくのにはある程度の学力や知識が必要だと思うので、もし自分の家族のお世話で勉強をする時間がなかつたりするのなら悩んでいる子供を1人で抱え込ませない、居場所を作る事が必要だと思う。	中学2年	女性	していない

家族の世話をしている子どものために必要だと思うこと	学年	性別	家族の世話
お世話する人(家政婦、介護士)の無料(有料でもいいかも)派遣。介護センターに入ったりする時やその後の費用を、無償にする。と言って介護センターなどに、入ることを推薦するチラシみたいなものを家のポスターに入れておく。	中学2年	男性	していない
子どもたちに、補助システムをつける。お金を支給する。お金を払わなくてもいい、ヘルパーさんを家に呼べる環境にしてほしい。絶対学校でいわないでほしい。	中学2年	男性	していない
相談しやすい環境をつくって、どこに相談すればいいかなどを教える。	中学2年	男性	していない
ヤングケアラーとまでは言えないが、ひとり親家庭で経済的に厳しく、家事の手伝いをする時間がある（一般の家庭より、手伝いの負担が大きいなど）家庭についてもヤングケアラーと似た状況が起こっている。発達障害のため人との関わりに困難を抱えているため、家では落ち着いて過ごしたいため、家庭内への人的支援よりも家事を効率的にできるよう経済的な支援が必要。例：食器洗浄器、ドラム式洗濯乾燥機購入費（それに必要な工事費修理費等含む）	中学2年	男性	していない
ヤングケアラーのストレス軽減と生活支援を市または県、国が推進する必要があると強く感じる。	中学2年	男性	していない
家庭の状況を調査する団体が必要だと思う。	高校2年	女性	していない
家事や家族の世話をしてくれるヘルパーさんの派遣が必要だと思います。特に、本で、現在のヘルパーさんの中には、介護を受けている人の分の洗濯物しかしない、食事しか作らない人がいる、というのを見たので、その子のお世話や他の家族(兄弟姉妹)の世話などもしてくれるヘルパーさんが必要だと思います。その子が金銭的な問題からヘルパーさんが利用できない、ということにならないようにできるだけ低価格、もしくは無償で利用できるようにすると、もっと助かるのかな、と思いました。	高校2年	女性	していない
デイサービスや訪問介護の時間が働いている家族の実態とあっていない。9時半以降から利用が出来ないところばかりで仕事をしている人が8時に出たとしたら利用までの間の時間を働いてない子供が見るしかない。	高校2年	女性	していない
実際に現場で手伝ってくれる制度があることを知れるような環境を作ること	高校2年	女性	していない
施設などだけでなく身近にいる人たちともっと交流ができ助け合うことが出来る環境にするべき	高校2年	女性	していない
そう言った子供たちが家以外で過ごせる場所を増やすべき	高校2年	男性	していない
家族の世話をしているということはお金が少ないと考えられるので、一般的な生活用品が良いと思う。また、学校に行くこともあまりできてない場合は教材が必要だと思う。 解説動画とかが付いたらなお良い。 (自分達で作った解説動画でもよいかも)	高校2年	男性	していない

第3章 調査結果（中学生）

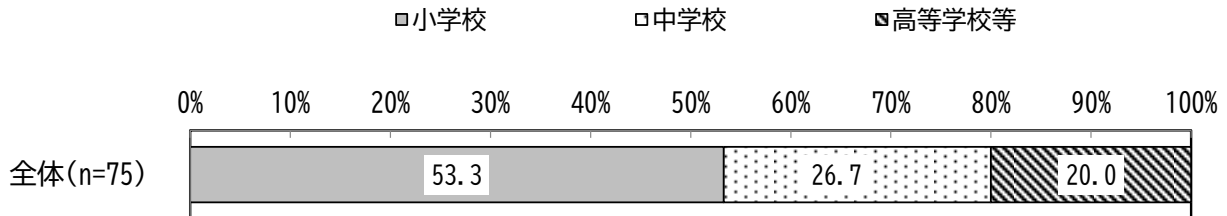
学校や周りの大人にしてもらいたいこと	学年	性別	家族の世話
「まわりの友達はいいなあー」と思っていると思うので、もしかしたら死にたいと思っている子もいるかもしれません。学校の先生がその子にたくさん声をかけてほしいです。家庭訪問をしたりして、その子を「1人じゃないから何でも言ってね」とたくさん声を掛けてほしいです。本当はやりたいことをやれずにガマンしているかもしれません。心を開く手伝いをしてあげてほしいです。	中学2年	女性	していない
定期的な学校の先生や、悩みを聞いてくれる方と会話することが必要だと思う。	中学2年	女性	していない
学校に家族のお世話をして来ることができていない子、遅刻、早退してしまう子を把握することが必要。そのために、先生が家に訪問したり、遅刻、早退の理由を聞くことが大切だと思う。そしてヤングケアラーの子がいたら、先生から市に相談したり報告したりして、対しよしていくことが大切だと思う。きっと、悩みが大きければ大きいほど相談できなかつたり、相談窓口の番号を受話器に入れることはできないと思う。だから、自分達で知り、行動することが必要だと思う。	中学2年	女性	していない
その子が学校を休むなら、学校の先生が家などを訪ねて、気づいてあげるべきだと思う。「こうしてほしい」の所は、その子の信頼できる先生であってほしいです。最近の悩みは、友達が全然学校に来なくなって、LINEとかもしてるけど、きどく無視で、先生には、送ってあげてと言われるけど、正直どうしたらいいのか分かりません。	中学2年	女性	していない
相談窓口があることを分かるようにするために、今以上に手紙などで知らせる。学校で、それらについての授業・講義などを行う。	中学2年	男性	していない
子どもに負担がかかって、睡眠不足等にならないためにも親戚の人などが一緒に助け合うことが必要だと思います。	高校2年	女性	していない
学校側の配慮が必要だと思う	高校2年	女性	していない
地域包括支援センターにもっと実態を知って欲しい。	高校2年	男性	していない
自身の気持ちや困っている状況について	学年	性別	家族の世話
家族の世話をすることは将来の自分の生活に役に立つと思うのでいいと思う 自分の家族がみんな生きていくための家事や、その他諸々だと思うのでいいと思う ”家族のお世話”という言葉が少し引っかかった 別に私は家事をしているだけで世話をしているわけではないので微妙だった この世には、私より”家族のお世話”で時間を取られていたり、精神的に苦しんでいたりしている方々がたくさんいらっしゃるの、私ごときで文句を言ったり被害者面したりしてはいけないんだと思っていて、今回のアンケートでなおさらそのことを強く思った 文句を言うのは家族やこの世にいるヤングケアラーに失礼だろうと思うので、気を引き締めて取り組んでいきたい 確かに、自分の家庭についての悩みや苦しみを人に話したいと思うことは多いが、真面目に聞いてくれる人は少ないのが現状だ ただ、そういう話を人に話したいと言うのは最早自分がこれだけ頑張っている、苦しんでいる、ということを示して自己満足したいだけ、のような気がして申し訳なく思う	高校2年	女性	している
その他意見	学年	性別	家族の世話
自分の周りにはそういう人はいないので、深く考えた事は、ありませんでした。新聞で「ヤングケアラー」という言葉を知って世の中には、大変な人がいるのだと知りました。	中学2年	女性	していない
このような調査票は家で書けない子もいるだろうから学校で書くようにする。	中学2年	女性	していない

第4章 調査結果（学校）

1. 回答者の属性

(1) 学校種別

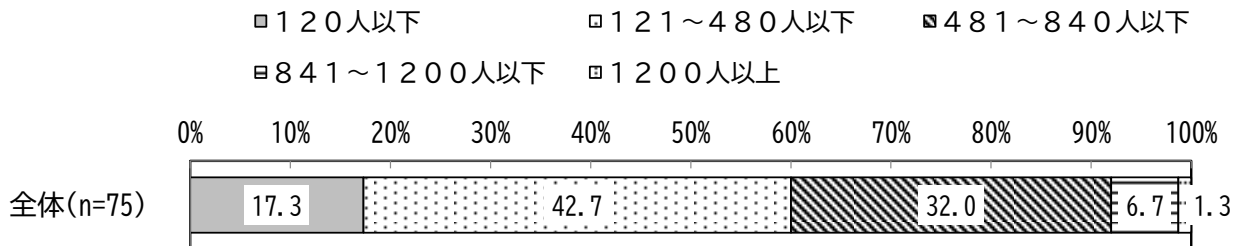
図表－118 学校種別



※高等専門学校は「高等学校等」に含む

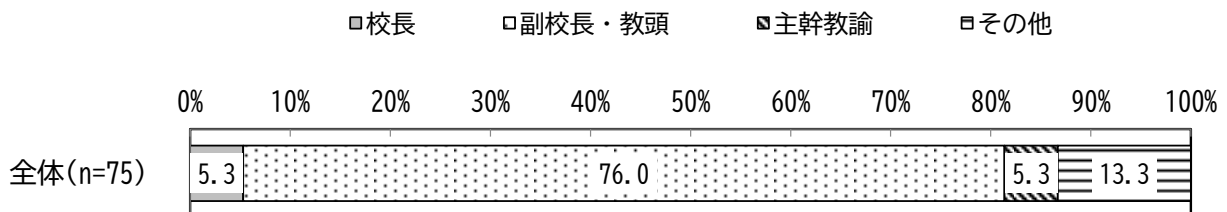
(2) 学校規模（児童・生徒数）

図表－119 学校規模（児童・生徒数）



(3) 回答者の役職

図表－120 回答者の役職

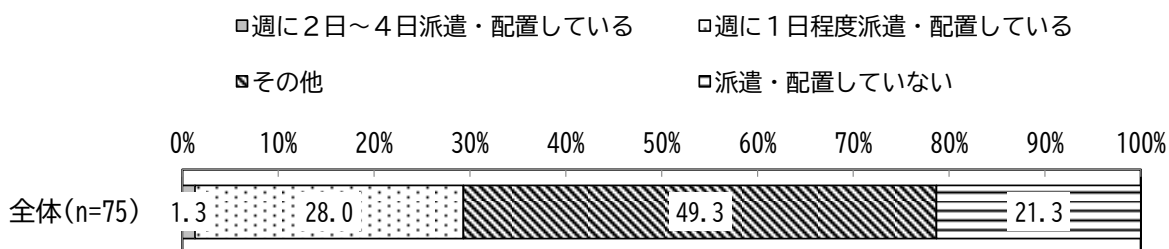


2. SSWの派遣・配置状況

問5（1） SSWの派遣・配置状況（令和5年9月末時点）をお伺いします。

SSWの派遣・配置状況について聞いたところ、小学校、高等学校等ともに「その他」の割合が最も高く、その内容は「月に1～2回程度派遣・配置している」や「必要に応じて派遣・配置している」という内容の回答が多くを占めているが、中学校では「週に1日程度派遣・配置している」（55.0%）が最も高くなっている。

図表－121 SSWの派遣・配置状況



図表－122 学校種別 SSWの派遣・配置状況

単位：%

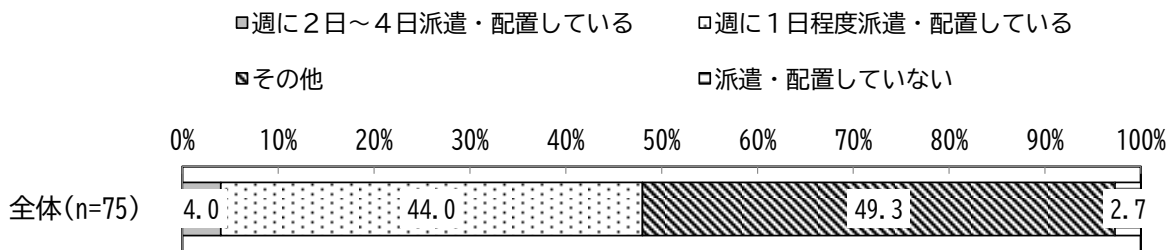
学校種別	調査数	週に2日～4日派遣・配置	週に1日程度派遣・配置	その他	派遣・配置していない
全体	75	1.3	28.0	49.3	21.3
小学校	40	2.5	17.5	60.0	20.0
中学校	20	-	55.0	25.0	20.0
高等学校等	15	-	20.0	53.3	26.7

3. SCの派遣・配置状況

問5（2） SCの派遣・配置状況（令和5年9月末時点）をお伺いします。

SCの派遣・配置状況について聞いたところ、小学校、高等学校等ともに「その他」の割合が最も高く、その内容は「月に1～2回程度派遣・配置している」や「必要に応じて派遣・配置している」という内容の回答が多くを占めている。中学校では「週に1日程度派遣・配置している」(85.0%)が最も高くなっている。

図表－123 SCの派遣・配置状況



図表－124 学校種別 SCの派遣・配置状況

単位：%

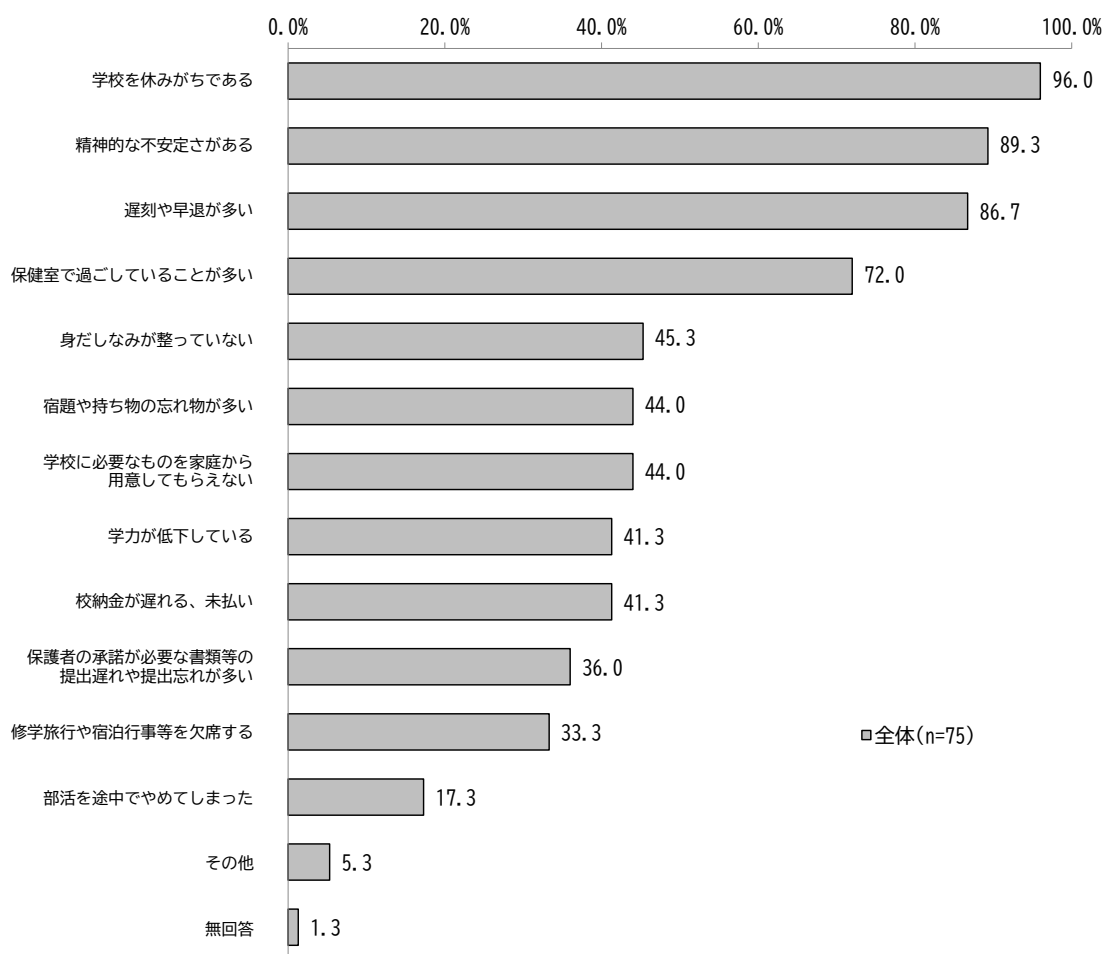
学校種別	調査数	週に2日～4日派遣・配置	週に1日程度派遣・配置	その他	派遣・配置していない
全体	75	4.0	44.0	49.3	2.7
小学校	40	-	27.5	67.5	5.0
中学校	20	5.0	85.0	10.0	-
高等学校等	15	13.3	33.3	53.3	-

4. 校内で共有している子どものケース

問6 下記の児童・生徒について校内で共有しているケースはありますか。

校内で共有している子どものケースについて聞いたところ、「学校を休みがちである」（96.0％）の割合が最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」（89.3％）、「遅刻や早退が多い」（86.7％）となっている。

図表－125 校内で共有している子どものケース



図表－126 学校種別 校内で共有している子どものケース

単位：%

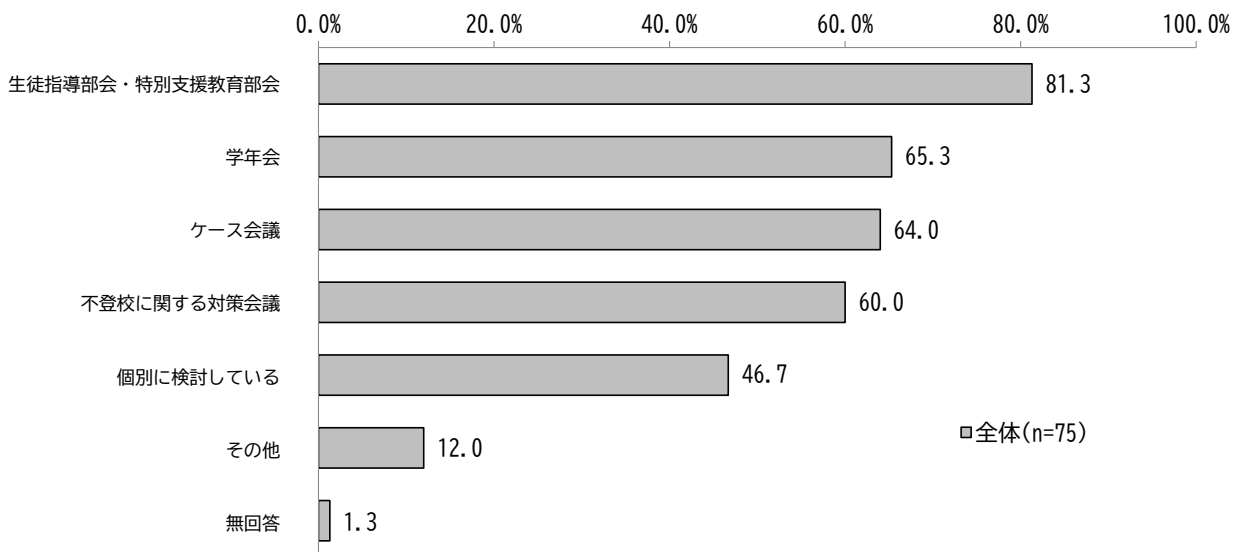
学校種別	調査数	ケース													無回答
		学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	保健室で過ごしていることが多い	精神的な不安定さがある	身だしなみが整っていない	学力が低下している	宿題や持ち物の忘れ物が多い	多等保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	学校に必要なものを家庭から用意してもらえない	部活を途中でやめてしまった	修学旅行や宿泊行事等を欠席する	校納金が遅れる、未払い	その他	
全体	75	96.0	86.7	72.0	89.3	45.3	41.3	44.0	36.0	44.0	17.3	33.3	41.3	5.3	1.3
小学校	40	95.0	90.0	57.5	85.0	47.5	42.5	50.0	40.0	52.5	-	22.5	40.0	5.0	2.5
中学校	20	100.0	85.0	95.0	95.0	45.0	40.0	35.0	40.0	45.0	40.0	65.0	40.0	5.0	-
高等学校等	15	93.3	80.0	80.0	93.3	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	33.3	20.0	46.7	6.7	-

5. 情報共有・対応の検討体制

問7 校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。

情報共有・対応の検討体制について聞いたところ、小学校では「生徒指導部会・特別支援教育部会」（80.5%）、中学校では「生徒指導部会・特別支援教育部会」と「学年会」（95.0%）が同率で、高等学校等では「学年会」（73.3%）の割合が最も高くなっている。

図表－127 情報共有・対応の検討体制



図表－128 学校種別 情報共有・対応の検討体制

単位：%

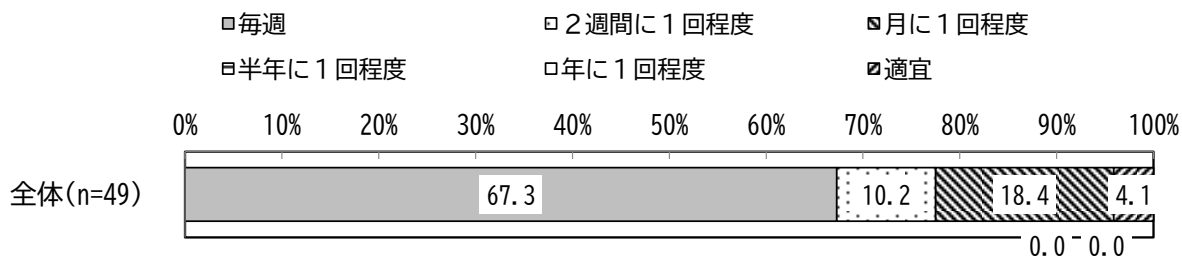
		調査数	学年会	生徒指導部会・特別支援教育部会	ケース会議	不登校に関する対策会議	個別に検討している	その他	無回答
全体		75	65.3	81.3	64.0	60.0	46.7	12.0	1.3
学校種別	小学校	40	47.5	85.0	75.0	82.5	42.5	7.5	2.5
	中学校	20	95.0	95.0	60.0	50.0	60.0	5.0	-
	高等学校等	15	73.3	53.3	40.0	13.3	40.0	33.3	-

6. 学年会の頻度

問8 学年会の頻度はどれくらいですか。

学年会で情報共有・対応の検討を行っているとは回答した学校に、学年会の頻度について聞いた結果は以下のとおりである。

図表－129 学年会の頻度



図表－130 学校種別 学年会の頻度

単位：%

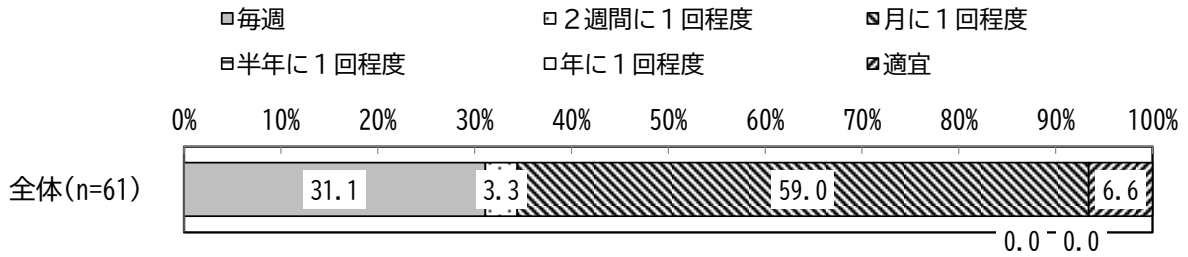
学校種別	調査数	毎週	2週間に1回程度	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	適宜	無回答
全体	49	67.3	10.2	18.4	-	-	4.1	-
小学校	19	94.7	-	-	-	-	5.3	-
中学校	19	31.6	26.3	36.8	-	-	5.3	-
高等学校等	11	81.8	-	18.2	-	-	-	-

7. 生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度

問8 生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度はどれくらいですか。

生徒指導部会・特別支援教育部会で情報共有・対応の検討を行っているとは回答した学校に、生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度について聞いた結果は以下のとおりである。

図表一131 生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度



図表一132 学校種別 生徒指導部会・特別支援教育部会の頻度

単位：%

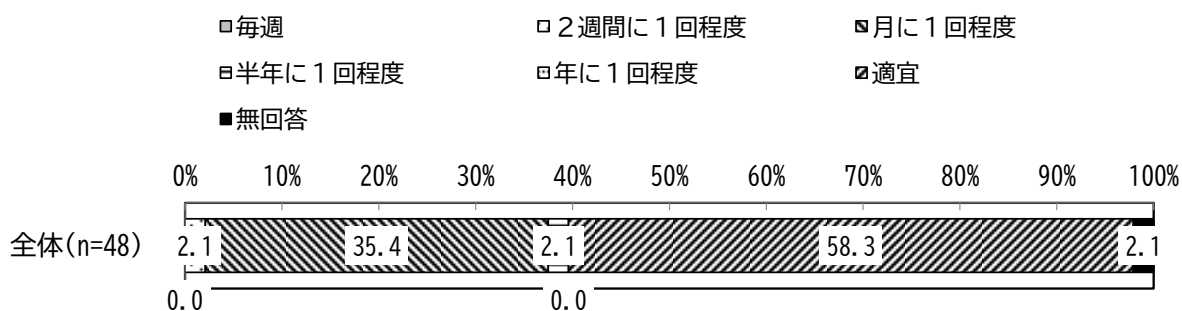
		調査数	毎週	2週間に1回程度	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	適宜	無回答
全 体		61	31.1	3.3	59.0	-	-	6.6	-
学校種別	小学校	34	-	2.9	91.2	-	-	5.9	-
	中学校	19	89.5	5.3	5.3	-	-	-	-
	高等学校等	8	25.0	-	50.0	-	-	25.0	-

8. ケース会議の頻度

問8 ケース会議の頻度はどれくらいですか。

ケース会議で情報共有・対応の検討を行っていると回答した学校に、ケース会議の頻度について聞いたところ、中学校と高等学校等では「適宜」の割合が最も高く、小学校では「月に1回程度」（53.3%）の割合が最も高くなっている。

図表－133 ケース会議の頻度



図表－134 学校種別 ケース会議の頻度

単位：%

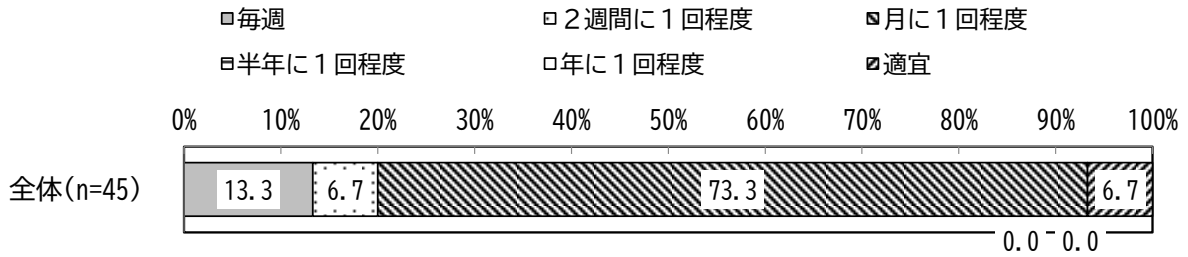
		調査数	毎週	2週間に1回程度	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	適宜	無回答
全 体		48	-	2.1	35.4	2.1	-	58.3	2.1
学校種別	小学校	30	-	-	53.3	3.3	-	43.3	-
	中学校	12	-	8.3	8.3	-	-	83.3	-
	高等学校等	6	-	-	-	-	-	83.3	16.7

9. 不登校に関する対策会議の頻度

問8 不登校に関する対策会議の頻度はどれくらいですか。

不登校に関する対策会議で情報共有・対応の検討を行っていると回答した学校に、不登校に関する対策会議の頻度について聞いた結果は以下のとおりである。

図表－135 不登校に関する対策会議の頻度



図表－136 学校種別 不登校に関する対策会議の頻度

単位：%

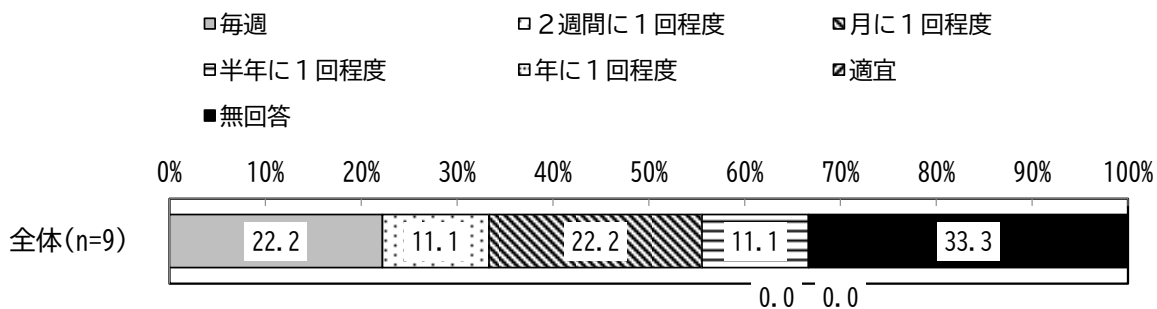
		調査数	毎週	2週間に1回程度	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	適宜	無回答
全 体		45	13.3	6.7	73.3	-	-	6.7	-
学校種別	小学校	33	-	3.0	93.9	-	-	3.0	-
	中学校	10	60.0	20.0	10.0	-	-	10.0	-
	高等学校等	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-

10. その他の会議の頻度

問8 その他の会議の頻度はどれくらいですか。

その他の会議で情報共有・対応の検討を行っていると回答した学校に、その他の会議の頻度について聞いた結果は以下のとおりである。

図表－137 その他の会議の頻度



図表－138 学校種別 その他の会議の頻度

単位：%

		調査数	毎週	2週間に1回程度	月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	適宜	無回答
全 体		9	22.2	11.1	22.2	11.1	-	-	33.3
学校種別	小学校	3	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3
	中学校	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	高等学校等	5	20.0	20.0	20.0	-	-	-	40.0

1 1. 情報共有・対応の検討の体制・方法（自由記述）

問9 問6のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法について、具体的にお教えてください。

情報共有・対応の検討の体制・方法についての自由記述は以下のとおり。

図表—139 情報共有・対応の検討の体制・方法（自由記述）

※全回答ではなく、一部回答を抜粋して掲載
※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

内容	学校種別
月1回の定例会、週一回の終礼、学期に1回の生徒指導情報交換会を定例としている。 随時、共有している欠席連絡表と児童の様子を保健部と生徒指導部、管理職が確認を行ない、発信している。	小学校
体制：各学年1名、特別支援学級代表1名、いじめ・不登校担当主任、主幹教諭、養護教諭、管理職 情報共有の方法：月1回の生活アンケートの児童回答の内容、今月の出席状況、保護者や関係機関から得た情報等を共有し、各児童の対応方針や必要な支援について協議している。	小学校
学年会…該当学年の各担任。子どもの情報交換と今後の支援の確認。 生徒指導部会…管理職と養護教諭、各学年部会員。アンケートと教育相談の結果から気になる子についての情報交換と今後の支援の確認。 かてこ相談会…管理職、養護教諭、生徒指導サポーター、地域主任児童委員、地域教育相談員、家庭子ども相談課職員、SSW。特に支援を要する子どもについての情報交換と今後の支援の確認。 いじめ不登校対策委員会…管理職と養護教諭、各学年部会員。統計と教育相談の結果から気になる子についての情報交換と今後の支援の確認。 校内研修…全職員。事前に各職員が気になる子の情報をまとめ、会では一人ずつ報告を行い、共通理解と今後の支援を確認。	小学校
月に1度のいじめ・不登校対策委員会、人権・同和教育研修会で気になる児童について、実態を共有し、具体的な対策について検討している。校長、教頭、委員を中心に委員会を行い、検討した内容については、終礼、人権・同和教育研修会、職員会議等で共通理解している。	小学校
支援が必要な児童について、担任や特別支援教育コーディネーターや児童支援担当等から管理職へ相談があった内容については、定例の特別支援委員会やいじめ・不登校対策委員会で検討している。緊急を要すると判断したことについては、臨時で委員会を開き、対応を検討している。また、話し合った内容や対応については、毎週1回実施の連絡会、または月1回実施の職員会議で情報共有して、組織的に共通理解のもとで対応するようにしている。	小学校
気になる生徒については随時、学年内で情報共有するとともに、月1回の学年会議で情報共有、対応を協議している。学年の生徒指導担当が各学年の情報を週1回の生徒指導部会に報告し、情報を共有するとともに、必要な対応を協議している。その中で、緊急性、重要性が高い事案については、適宜、校長、教頭、生徒指導筋、養護教諭、学年主任、担任、関係職員で会議を開き、情報共有、対応の協議を行っている。	中学校
担任及び特別支援コーディネーターを中心に生徒の状態を把握し、週1回行われている学年会及び生徒支援委員会で情報を共有しており、家庭訪問等も実施している。また必要に応じ、外部の行政機関（子育て支援課、子どもサポートセンター、児童相談所等）、中学校とも連携し、情報収集に努めている。	高等学校

第4章 調査結果（学校）

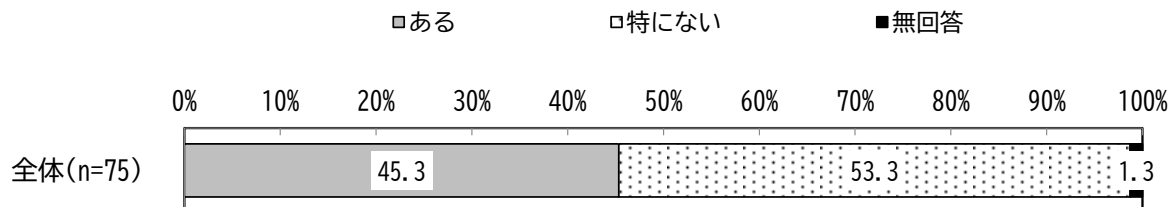
内容	学校種別
<p>各学年1クラス10名前後の少人数なので、生徒の情報等については、職員室内で常に情報を交換するとともに、毎週月曜日に定例の「生徒情報交換会」を開き、生徒に関する様々な情報や気づいた点等を養護教諭を交えて全職員で共有している。</p>	<p>高等学校</p>
<p>●回数：月に1回開催 ●会議名：修学支援委員会 兼 特別支援教育推進委員会 ●係わる教員・参加者：スクールソーシャルワーカー、 教頭、生徒指導主事、1学年主任、2学年主任、3学年主任、養護教諭、修学支援担当教員、特別支援教育コーディネーター ●情報共有・検討方法：「生徒学校生活アンケート」等から担任・学年主任が共有すべき事象を精査し、重要な事項を「学年団生徒支援シート」に記載して検討課題として会議で協議します。生徒への支援状況、生徒・保護者のサポート希望を共有し、今後の対応の方向性を出し合い、実際に対応に持っていきます。</p>	<p>高等学校</p>

12. 学校以外の関係機関との連携体制（要保護児童対策地域協議会の登録ケース）

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。要保護児童対策地域協議会の登録ケースについてお答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

要保護児童対策地域協議会の登録ケースにおける学校以外の関係機関との連携体制の有無について聞いたところ、小学校では「ある」（52.5％）の割合が最も高いが、中学校、高等学校等では「特にない」の割合の方が高くなっている。

図表－140 学校以外の関係機関との連携体制の有無
（要保護児童対策地域協議会の登録ケース）



図表－141 学校種別 学校以外の関係機関との連携体制の有無
（要保護児童対策地域協議会の登録ケース）

単位：％

		調査数	ある	特にない	無回答
全 体		75	45.3	53.3	1.3
学校種別	小学校	40	52.5	45.0	2.5
	中学校	20	45.0	55.0	-
	高等学校等	15	26.7	73.3	-

第4章 調査結果（学校）

要保護児童対策地域協議会の登録ケースにおける連携体制のある学校以外の関係機関について聞いたところ、小学校と中学校では「市子ども未来部」、「児童相談所」などの割合が高くなっているが、高等学校等では「市子ども未来部」、「医療機関」などの割合が高くなっている。

図表一 1 4 2 学校種別 連携体制のある学校以外の関係機関
（要保護児童対策地域協議会の登録ケース）

単位：%

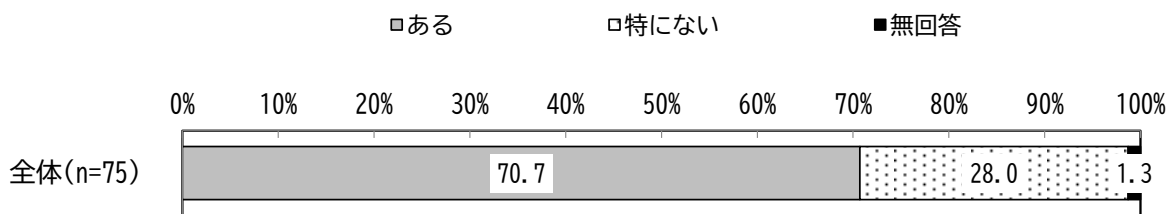
		調査数	児童相談所	市子ども未来部	市（上記以外）	警察や刑事司法関係機関 （少年院、保護観察所など）	医療機関	訪問看護事業所	関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会	保育園・幼稚園など	校外教育支援教室「らるごと」	フリースクール	障害者基幹相談支援センター	障害者相談支援事業所
全 体		34	67.6	82.4	17.6	8.8	35.3	5.9	50.0	11.8	5.9	2.9	5.9	8.8
学校種別	小学校	21	71.4	85.7	19.0	9.5	33.3	4.8	42.9	14.3	4.8	-	9.5	9.5
	中学校	9	77.8	77.8	22.2	11.1	33.3	11.1	77.8	11.1	11.1	11.1	-	11.1
	高等学校等	4	25.0	75.0	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-
		おそら 発達障害者支援センターあ	障害者福祉サービス事業所 （ホームヘルプ）	居宅介護支援事業所（ケア プラン・ケアマネジャー）	地域包括支援センター	福岡人権擁護委員協議会	弁護士会	成年後見推進センター	社会福祉協議会	民生委員・主任児童委員	子ども食堂などの民間団体・施設	福岡県外国人相談センター	その他	無回答
全 体		-	2.9	-	-	2.9	-	-	2.9	52.9	5.9	2.9	5.9	2.9
学校種別	小学校	-	-	-	-	4.8	-	-	4.8	52.4	4.8	-	9.5	-
	中学校	-	11.1	-	-	-	-	-	-	77.8	11.1	11.1	-	11.1
	高等学校等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1.3. 学校以外の関係機関との連携体制（不登校のケース）

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。不登校のケースについてお答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

不登校のケースにおける学校以外の関係機関との連携体制の有無について聞いたところ、小学校と中学校では「ある」の割合が高いが、高等学校等では「特にない」の割合の方が高くなっている。

図表一143 学校以外の関係機関との連携体制の有無
（不登校のケース）



図表一144 学校種別 学校以外の関係機関との連携体制の有無
（不登校のケース）

単位：%

		調査数	ある	特にない	無回答
全 体		75	70.7	28.0	1.3
学 校 種 別	小学校	40	75.0	25.0	-
	中学校	20	80.0	15.0	5.0
	高等学校等	15	46.7	53.3	-

第4章 調査結果（学校）

不登校のケースにおける連携体制のある学校以外の関係機関について聞いたところ、小学校と中学校では「市子ども未来部」、「関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会」などの割合が高くなっているが、高等学校等では「市子ども未来部」、「医療機関」などの割合が高くなっている。

図表一 145 学校種別 連携体制のある学校以外の関係機関
(不登校のケース)

単位：%

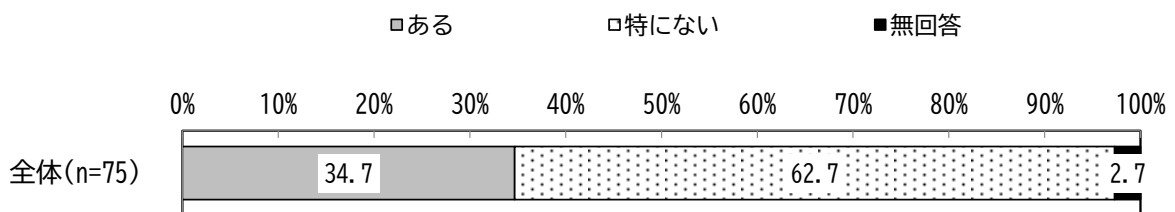
学校種別	調査数	児童相談所	市子ども未来部	市（上記以外）	警察や刑事司法関係機関（少年院、保護観察所など）	医療機関	訪問看護事業所	関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会	保育園・幼稚園など	校外教育支援教室「らるごと」	フリースクール	障害者基幹相談支援センター	障害者相談支援事業所	連携体制のある学校以外の関係機関												
														発達障害者支援センターあおぞら	障害者福祉サービス事業所（ホームヘルプ）	居宅介護支援事業所（ケアプラン・ケアマネジャー）	地域包括支援センター	福岡人権擁護委員協議会	弁護士会	成年後見推進センター	社会福祉協議会	民生委員・主任児童委員	子ども食堂などの民間団体・施設	福岡県外国人相談センター	その他	無回答
全 体	53	39.6	66.0	22.6	1.9	34.0	5.7	58.5	7.5	35.8	15.1	1.9	-	3.8	-	-	-	-	-	1.9	45.3	11.3	1.9	13.2	1.9	
学 校 種 別																										
小学校	30	33.3	70.0	26.7	3.3	30.0	10.0	60.0	13.3	23.3	13.3	3.3	-	6.7	-	-	-	-	-	3.3	60.0	13.3	-	16.7	-	
中学校	16	50.0	68.8	18.8	-	37.5	-	68.8	-	75.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.5	12.5	6.3	6.3	6.3
高等学校等	7	42.9	42.9	14.3	-	42.9	-	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	

14. 学校以外の関係機関との連携体制（それ以外のケース）

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。それ以外のケースについてお答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

それ以外のケースにおける学校以外の関係機関との連携体制の有無について聞いたところ、いずれの学校も「特にない」の割合が高くなっている。

図表一146 学校以外の関係機関との連携体制の有無（それ以外のケース）



図表一147 学校種別 学校以外の関係機関との連携体制の有無（それ以外のケース）

単位：%

		調査数	ある	特にない	無回答
全 体		75	34.7	62.7	2.7
学校種別	小学校	40	30.0	67.5	2.5
	中学校	20	40.0	55.0	5.0
	高等学校等	15	40.0	60.0	-

第4章 調査結果（学校）

それ以外のケースにおける連携体制のある学校以外の関係機関について聞いたところ、小学校では「市子ども未来部」(83.3%)、「児童相談所」(58.3%)、「民生委員・主任児童委員」(50.0%)が上位を占め、中学校では「市子ども未来部」と「児童相談所」が同率(62.5%)、「医療機関」「関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会」が同率(50.0%)で上位を占めている。高等学校等では「市子ども未来部」(66.7%)、「児童相談所」と「関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会」が同率(50.0%)で上位を占めている。

図表－148 学校種別 連携体制のある学校以外の関係機関
(それ以外のケース)

単位：%

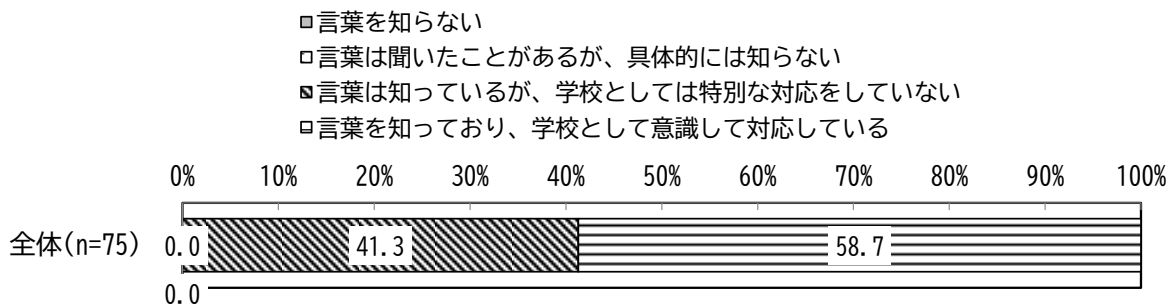
学校種別	調査数	児童相談所	市子ども未来部	市（上記以外）	警察や刑事司法関係機関（少年院、保護観察所など）	医療機関	訪問看護事業所	関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会	保育園・幼稚園など	校外教育支援教室「らるご」	フリースクール	障害者基幹相談支援センター	障害者相談支援事業所	
													無回答	
全体	26	57.7	73.1	30.8	11.5	34.6	-	46.2	7.7	7.7	-	3.8	3.8	
小学校	12	58.3	83.3	33.3	8.3	33.3	-	41.7	8.3	-	-	8.3	8.3	
中学校	8	62.5	62.5	25.0	12.5	50.0	-	50.0	12.5	25.0	-	-	-	
高等学校等	6	50.0	66.7	33.3	16.7	16.7	-	50.0	-	-	-	-	-	
		発達障害者支援センターあり	障害者福祉サービス事業所（ホームヘルプ）	居宅介護支援事業所（ケアプラン・ケアマネジャー）	地域包括支援センター	福岡人権擁護委員協議会	弁護士会	成年後見推進センター	社会福祉協議会	民生委員・主任児童委員	子ども食堂などの民間団体・施設	福岡県外国人相談センター	その他	無回答
全体	11.5	-	-	-	-	-	-	-	3.8	26.9	3.8	3.8	-	3.8
小学校	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
中学校	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	12.5	12.5	-	12.5
高等学校等	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-

15. ヤングケアラーという概念の認識

問11 貴校ではヤングケアラーという概念を認識していますか。

ヤングケアラーという概念の認識について聞いたところ、小学校と中学校では「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」割合よりも「言葉を知っており、学校として意識して対応している」割合が高くなっているが、高等学校等では逆の結果になっている。

図表-149 ヤングケアラーという概念の認識



図表-150 学校種別 ヤングケアラーという概念の認識

単位：%

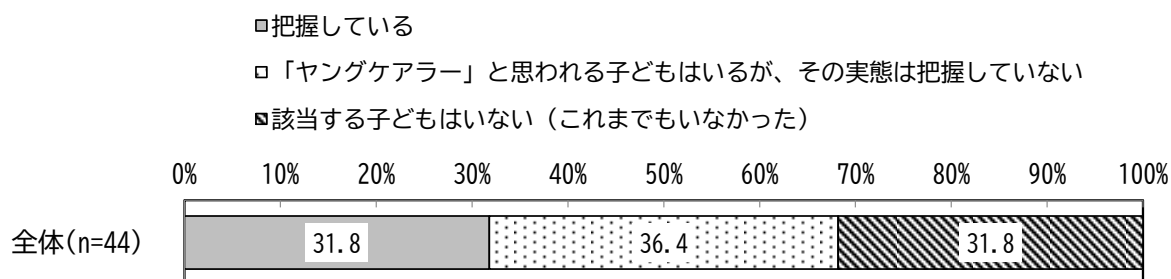
学校種別	調査数	認識の程度			
		言葉を知らない	言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	言葉を知っており、学校として意識して対応している
全体	75	-	-	41.3	58.7
小学校	40	-	-	37.5	62.5
中学校	20	-	-	35.0	65.0
高等学校等	15	-	-	60.0	40.0

16. ヤングケアラーの実態把握状況

問12 問11で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる児童・生徒の実態を把握していますか。

ヤングケアラーについて「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した学校に、ヤングケアラーの実態把握状況について聞いたところ、いずれの学校も「把握している」割合が30%を超えていた。しかし、中学校では60%以上の学校が「『ヤングケアラー』と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」と回答し、小学校と高等学校等では「該当する子どもはいる（これまでもいなかった）」割合が共に40%を超えていた。

図表ー151 ヤングケアラーの実態把握状況



図表ー152 学校種別 ヤングケアラーの実態把握状況

単位：%

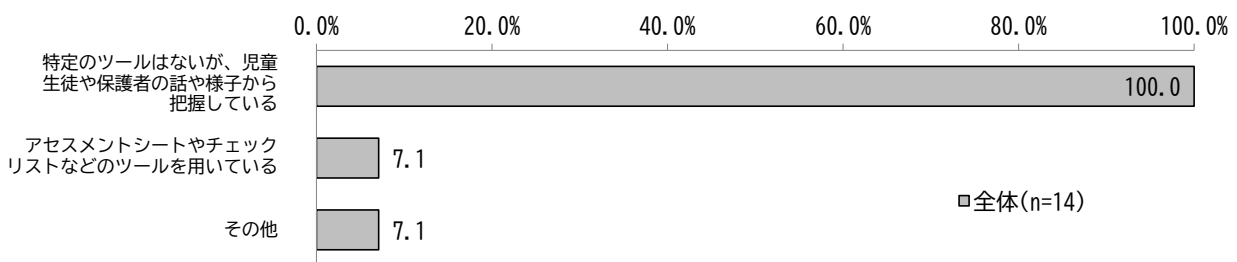
学校種別	調査数	把握している	「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	該当する子どもはいる（これまでもいなかった）
全体	44	31.8	36.4	31.8
小学校	25	32.0	28.0	40.0
中学校	13	30.8	61.5	7.7
高等学校等	6	33.3	16.7	50.0

17. ヤングケアラーの把握方法

問13 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる児童・生徒をどのように把握していますか。

ヤングケアラーについて「把握している」と回答した学校に、ヤングケアラーの把握方法について聞いたところ、「特定のツールはないが、児童生徒や保護者の話や様子から把握している」（100.0%）の割合が最も高く、次いで「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」と「その他」（ともに7.1%）となっている。

図表-153 ヤングケアラーの把握方法



図表-154 学校種別 ヤングケアラーの把握方法

単位：%

学校種別	調査数	把握方法		
		アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	特定のツールはないが、児童生徒や保護者の話や様子から把握している	その他
全体	14	7.1	100.0	7.1
小学校	8	12.5	100.0	-
中学校	4	-	100.0	-
高等学校等	2	-	100.0	50.0

第4章 調査結果（学校）

18. ヤングケアラーの実態把握において工夫・苦慮していること（自由記述）

問14 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーの実態把握に取り組む際に工夫していること・難しいことについて具体的にお教えてください。

ヤングケアラーの実態把握において工夫・苦慮していることについての自由記述は以下のとおり。

図表ー155 ヤングケアラーの実態把握において工夫・苦慮していること（自由記述）

※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

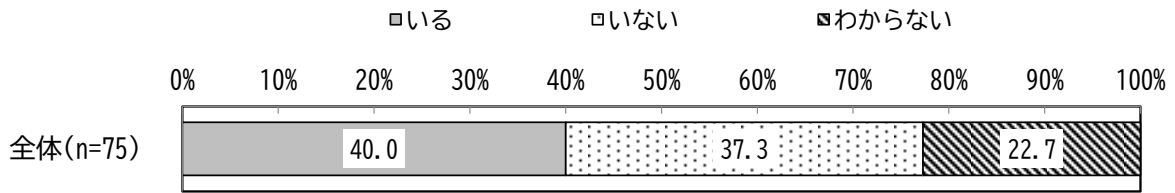
内容	学校種別
児童も本当のことを言わない部分もあるので、兄弟関係からの聞き取りをしている。	小学校
毎朝、登校状態（服装、髪、歯）を担当や校長、生徒指導サポーターが確認をしている。特に、持ち物に関しては、予備を準備し、いつでも対応できるようにしている。	小学校
工夫していることは、対象児童の置かれた現状を否定せず、気持ちを大切にしながら話を聞くこと。保護者への支援の場の紹介。難しいことは、家庭への連絡がつながりにくく、継続的な遅刻・欠席の減少につながりにくいこと。	小学校
子どもとの信頼関係を作り、話をしっかり聞くようにしている。	小学校
担任との自然なやり取りの中から実態を把握するようにしている。 児童が母親から口止めをされているのかあまり話そうとしないため、情報を得ることが難しい。	小学校
本人（子ども）の話と実態とがどのくらい合っているのかの把握が難しい。	小学校
朝の登校の様子、アンケート、教育相談	小学校
支援が必要な児童対応と同じように、生徒指導サポーター、児童支援担当教員、養護教諭が担任と連携し、対応している。月1回程度、ケース会議や生徒指導部会を行い、共通理解を図ることや対応策の協議を行っている。担任は、電話連絡や家庭訪問等を行い、家庭と連絡を取り合っている。特に、日頃の子どもの様子を担任、担任外が連携し、確認している。	小学校
毎月一度の学校生活アンケートの項目に「親や家族の言葉や態度で傷ついたり、いやな思いをしたりしていませんか」を入れ、チェックがあれば個人面談を行っている。また、保健室で子どもたちが何気ない会話の中で家庭の不満や心の不安を発した際に、積極的にSCにつなぐようにしている。	中学校
〈工夫していること〉 発見や実態把握のために、生徒からの話を継続的によく聞くようにすること。 〈難しいこと〉 保護者に問題意識が薄いこと。	中学校
学校だけで判断・対応せず、SSWや行政と会議をし対応していった。	中学校
小学校からの情報を基に、中学校においても担任による見守りや声かけを行っている。	中学校
工夫・保護者の様子と子どもの様子の両方を見るようにしている。保護者に関しては、行政と連携ができていない場合は、そちらの方から主に支援してもらっている。子どもに関しては、ケースごとに必要な支援を考え、特別支援コーディネーターを中心に対応している。 難しい点・保護者も子どももヤングケアラーという認識がない場合がある。家庭にあまり要求できないので、見守るしかない場合があるなど、もどかしい時がある。	高等学校

19. ヤングケアラーと思われる子どもの有無

問15 ヤングケアラーの定義を踏まえてお答えください。現在、貴校にヤングケアラーと思われる（該当する可能性のある）児童・生徒はいますか。

ヤングケアラーと思われる子どもの有無について聞いたところ、小学校では「いない」(45.0%)、中学校では「いる」(45.0%)の割合が最も高いが、高等学校等では「わからない」(40.0%)が最も高い割合となっている。

図表ー156 ヤングケアラーと思われる子どもの有無



図表ー157 学校種別 ヤングケアラーと思われる子どもの有無

単位：%

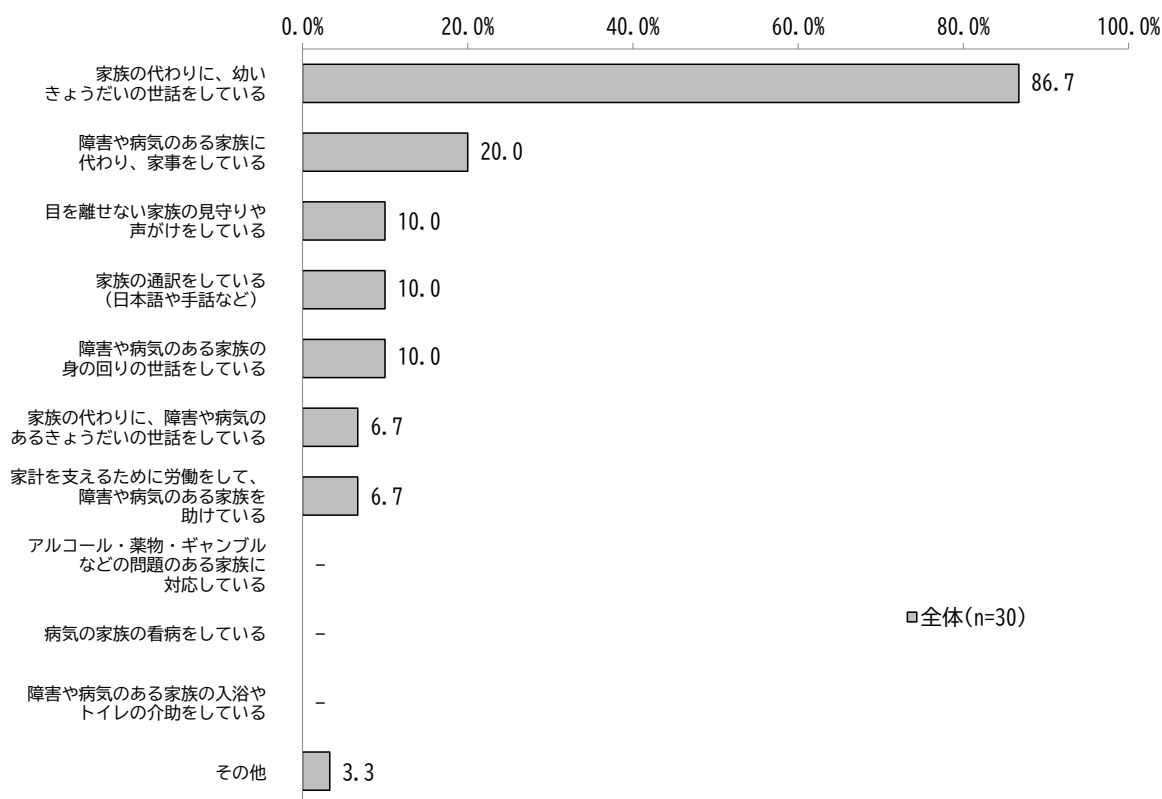
		調査数	いる	いない	わからない
全	体	75	40.0	37.3	22.7
学校種別	小学校	40	40.0	45.0	15.0
	中学校	20	45.0	30.0	25.0
	高等学校等	15	33.3	26.7	40.0

20. ヤングケアラーと思われる子どもの状況

問16 問15で「1. いる」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる児童・生徒の状況は下記のうちどれですか。

ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、いずれの学校も「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」の割合が最も高かった。次いで小学校では「障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている」（18.8%）となっており、中学校では「障害や病気のある家族に代わり、家事をしている」（22.2%）、高等学校等では「障害や病気のある家族に代わり、家事をしている」、「家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている」が同率（40.0%）となっている。

図表ー158 ヤングケアラーと思われる子どもの状況



図表ー159 学校種別 ヤングケアラーと思われる子どもの状況

単位：%

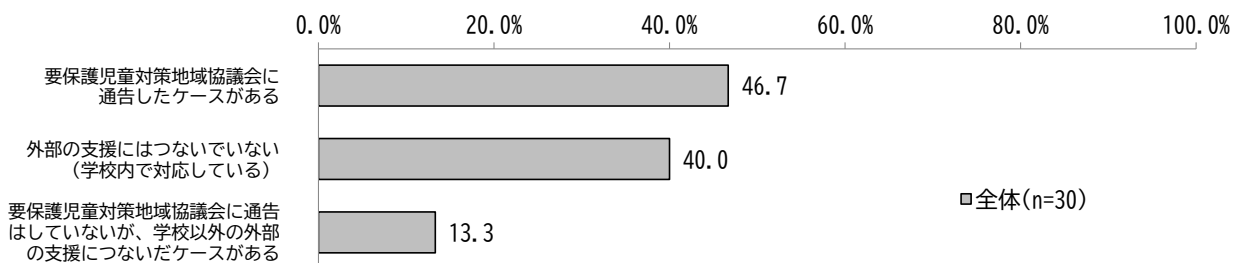
調査数	障害や家事をしている家族に代	家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている	目を離せない家族の見守りや声がけをしている	家族の通訳をしている（日本語や手話など）	障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている	家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている	家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている	アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	病気の家族の看病をしている	障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	浴やトイレの介助をしている	障害や病気の家族の看病をしている	その他
全 体	30	20.0	86.7	6.7	10.0	10.0	6.7	-	-	10.0	-	-	3.3	
学 校 種 別														
小学校	16	12.5	93.8	6.3	12.5	12.5	-	-	-	18.8	-	-	6.3	
中学校	9	22.2	88.9	11.1	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	
高等学校等	5	40.0	60.0	-	20.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-	

2.1. 外部の支援につないだケースの有無

問17 問15で「1. いる」と回答した方にお伺いします。ヤングケアラーと思われる児童・生徒について、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策協議会など）の支援につないだケースはありますか。

ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校に、外部の支援につないだケースの有無について聞いたところ、小学校では「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」（50.0%）の割合が最も高く、中学校と高等学校等では、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」と「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が同率で最も高かった。また、いずれの学校も「要保護児童対策地域協議会に通告はしていないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」の割合は最も低くなっている。

図表-160 外部の支援につないだケースの有無



図表-161 学校種別 外部の支援につないだケースの有無

単位：%

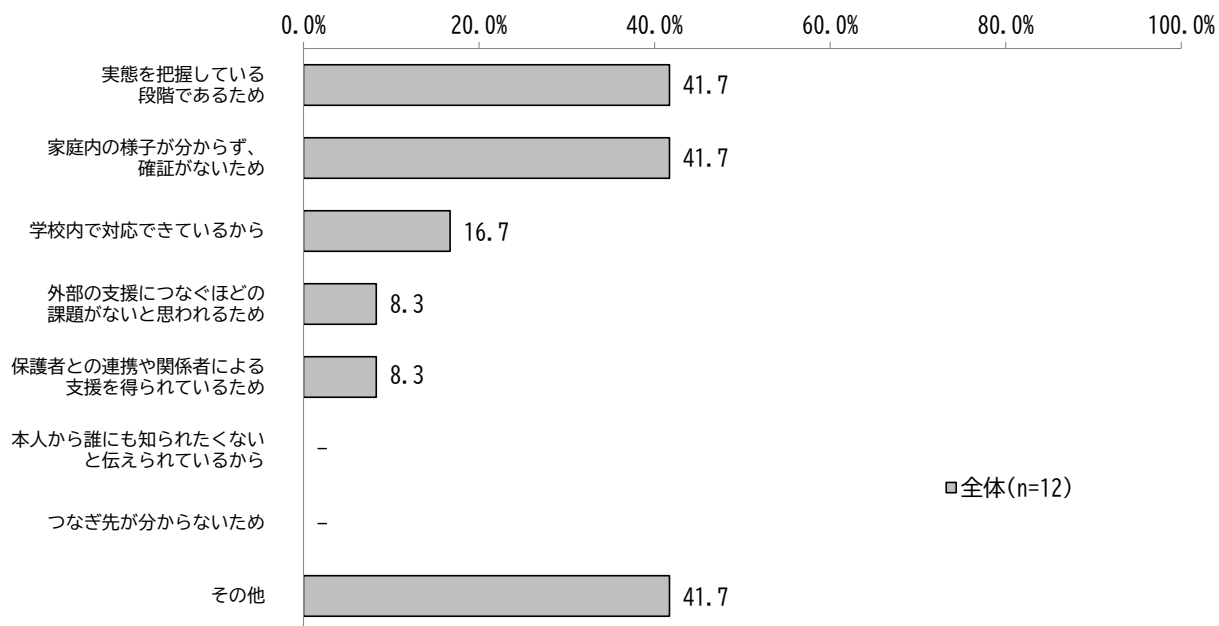
学校種別	調査数	要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある (%)	外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している） (%)	要保護児童対策地域協議会に通告はしていないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある (%)
全体	30	46.7	40.0	13.3
小学校	16	50.0	37.5	12.5
中学校	9	44.4	44.4	11.1
高等学校等	5	40.0	40.0	20.0

2.2. 外部の支援につながらなかった理由

問18 問17で「3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。

外部の支援にはつないでいないと回答した学校に、外部の支援につながらなかった理由について聞いたところ、「実態を把握している段階であるため」と「家庭内の様子が分からず、確証がないため」と「その他」（ともに41.7%）の割合が最も高く、次いで「学校内で対応できているから」（16.7%）となっている。

図表-162 外部の支援につながらなかった理由



図表-163 学校種別 外部の支援につながらなかった理由

単位：%

学校種別	調査数	学校内で対応できているから	外部の支援につなぐほどの課題がないと思われるため	保護者との連携や関係者による支援を得られているため	実態を把握している段階であるため	家庭内の様子が分からず、確証がないため	本人から誰にも知られたいと伝えられているから	つなぎ先が分からないため	その他
		全体	12	16.7	8.3	8.3	41.7	41.7	-
小学校	6	16.7	16.7	-	33.3	50.0	-	-	50.0
中学校	4	25.0	-	25.0	50.0	25.0	-	-	50.0
高等学校等	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-

23. 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

問19① 要保護児童対策地域協議会（市家庭子ども相談課や児童相談所等）に通告したケースについて、お教えてください。

要保護児童対策地域協議会に通告したケースについては以下のとおり。

図表-164 要保護児童対策地域協議会に通告したケース

※個別の回答を抜粋して掲載

項目		回答内容	
学校種別		小学校	
性別		男性	
	●	女性	
		その他	
学年		6年生	
学校の生活状況	●	学校を休みがちである	
	●	遅刻や早退が多い	
		保健室で過ごしていることが多い	
	●	精神的な不安定さがある	
		身だしなみが整っていない	
	●	学力が低下している	
		宿題や持ち物の忘れ物が多い	
	●	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	
	●	学校に必要なものを家庭から用意してもらえない	
		部活を途中でやめてしまった	
		修学旅行や宿泊行事等を欠席する	
		校納金が遅れる、未払い	
	その他		
家族構成	●	母親	
		父親	
		祖母	
		祖父	
	●	きょうだい	
		その他	
ケアの状況把握	●	はい	
		いいえ	
家庭でのケアの状況	ケアを必要としている人	●	母親
			父親
			祖母
			祖父
			きょうだい
			その他
			その他

第4章 調査結果（学校）

家庭でのケアの状況	ケアを必要としている人の状況	高齢（65歳以上）	
		幼い	
		要介護（介護が必要な状態）	
		認知症	
		身体障害	
		知的障害	
		精神疾患（疑い含む）	
		依存症（疑い含む）	
		● 精神疾患・依存症以外の病気	
		日本語を第一言語としない	
		その他	
		わからない	
		ケアの内容	● 家事（食事の準備や掃除・洗濯など）
			きょうだいの世話や保育所等への送迎など
			● 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
外出の付き添い（買い物、散歩など）			
通院の付き添い			
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）			
見守りや看病など			
通訳（日本語や手話など）			
金銭管理			
薬の管理			
その他			
わからない			
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	児童・生徒本人から話を聞いた		
	児童・生徒の学校生活の状況、様子から		
	学校での面談やアンケートから		
	● 養護教諭、SC、SSWからの報告		
	● 保護者・親族からの相談や保護者の状況から		
	家庭訪問		
	出身校園からの引継ぎ		
	その他		
	繋いだ機関	児童相談所・家庭子ども相談課	
	外部機関へのつながり方	● 市・県教育委員会経由	
学校から直接連絡			
SSWからの連絡			
その他			
支援をしていく上での校内体制及び周りの教職員の協力	児童の実態及び今後の支援の方向等の全職員での共通理解。		
学校で行った支援	担任を主として、児童本人との意図的計画的な相談と家庭訪問。 SSWや市の家庭子ども相談課との密な連絡。 兄在籍中学校との情報共有。		
支援した結果、児童・生徒の変化	登校にかかる不安定が減少したので、児童の精神的な面での支えに少しは役立ったと考える。		

24. 学校以外の外部の支援につないだケース

問19② 要保護児童対策地域協議会（市家庭子ども相談課や児童相談所等）に通告はしていないが、学校以外の外部の支援につないだケースについて、お教えてください。

要保護児童対策地域協議会に通告はしていないが、学校以外の外部の支援につないだケースについては以下のとおり。

図表－165 学校以外の外部の支援につないだケース

※個別の回答を抜粋して掲載

項目		回答内容	
学校種別		中学校	
性別		男性	
	●	女性	
		その他	
学年		3年生	
学校の生活状況	●	学校を休みがちである	
	●	遅刻や早退が多い	
		保健室で過ごしていることが多い	
		精神的な不安定さがある	
		身だしなみが整っていない	
		学力が低下している	
		宿題や持ち物の忘れ物が多い	
		保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	
		学校に必要なものを家庭から用意してもらえない	
		部活を途中でやめてしまった	
		修学旅行や宿泊行事等を欠席する	
	●	校納金が遅れる、未払い	
		その他	
家族構成	●	母親	
		父親	
		祖母	
		祖父	
	●	きょうだい	
	●	その他（内縁の夫）	
ケアの状況把握		● はい	
		いいえ	
家庭での状況 ケアの	ケアを必要としている人	母親	
		父親	
		祖母	
		祖父	
		●	きょうだい
			その他

第4章 調査結果（学校）

家庭でのケアの状況	ケアを必要としている人の状況	高齢（65歳以上）	
		● 幼い	
		要介護（介護が必要な状態）	
		認知症	
		身体障害	
		知的障害	
		精神疾患（疑い含む）	
		依存症（疑い含む）	
		精神疾患・依存症以外の病気	
		日本語を第一言語としない	
		その他	
		わからない	
		ケアの内容	● 家事（食事の準備や掃除・洗濯など）
			● きょうだいの世話や保育所等への送迎など
			身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
外出の付き添い（買い物、散歩など）			
通院の付き添い			
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）			
見守りや看病など			
通訳（日本語や手話など）			
金銭管理			
薬の管理			
その他			
わからない			
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	● 児童・生徒本人から話を聞いた		
	● 児童・生徒の学校生活の状況、様子から		
	学校での面談やアンケートから		
	● 養護教諭、SC、SSWからの報告		
	保護者・親族からの相談や保護者の状況から		
	● 家庭訪問		
	● 出身校園からの引継ぎ		
	その他		
繋いだ機関	SSW、こども未来課		
外部機関へのつながり方	市・県教育委員会経由		
	学校から直接連絡		
	● SSWからの連絡		
	その他		
支援をしていく上での校内体制及び周りの教職員の協力	情報共有		
学校で行った支援	本人の気持ちや母の困り感を受容し、SSWへつないだ。		
支援した結果、児童・生徒の変化	幼い弟たちが入園した。その結果、不登校が解消された。		

25. 学校内でできうる支援を行ったケース

問19③ 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）が、ヤングケアラーの概念に該当すると思われる児童・生徒に対し、学校内でできうる支援を行ったケースについて、お教えてください。

外部の支援にはつないでいないが、学校内でできうる支援を行ったケースについては以下のとおり。

図表-166 学校内でできうる支援を行ったケース

※個別の回答を抜粋して掲載

項目		回答内容
学校種別		小学校
性別		男性
	●	女性
		その他
学年		6年生
学校の生活状況		学校を休みがちである
	●	遅刻や早退が多い
		保健室で過ごしていることが多い
	●	精神的な不安定さがある
		身だしなみが整っていない
		学力が低下している
		宿題や持ち物の忘れ物が多い
		保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
		学校に必要なものを家庭から用意してもらえない
		部活を途中でやめてしまった
		修学旅行や宿泊行事等を欠席する
		校納金が遅れる、未払い
		その他
家族構成	●	母親
		父親
		祖母
		祖父
	●	きょうだい
		その他
ケアの状況把握		● はい
		いいえ
家庭でのケアの状況	ケアを必要としている人	母親
		父親
		祖母
		祖父
		● きょうだい
		その他

第4章 調査結果（学校）

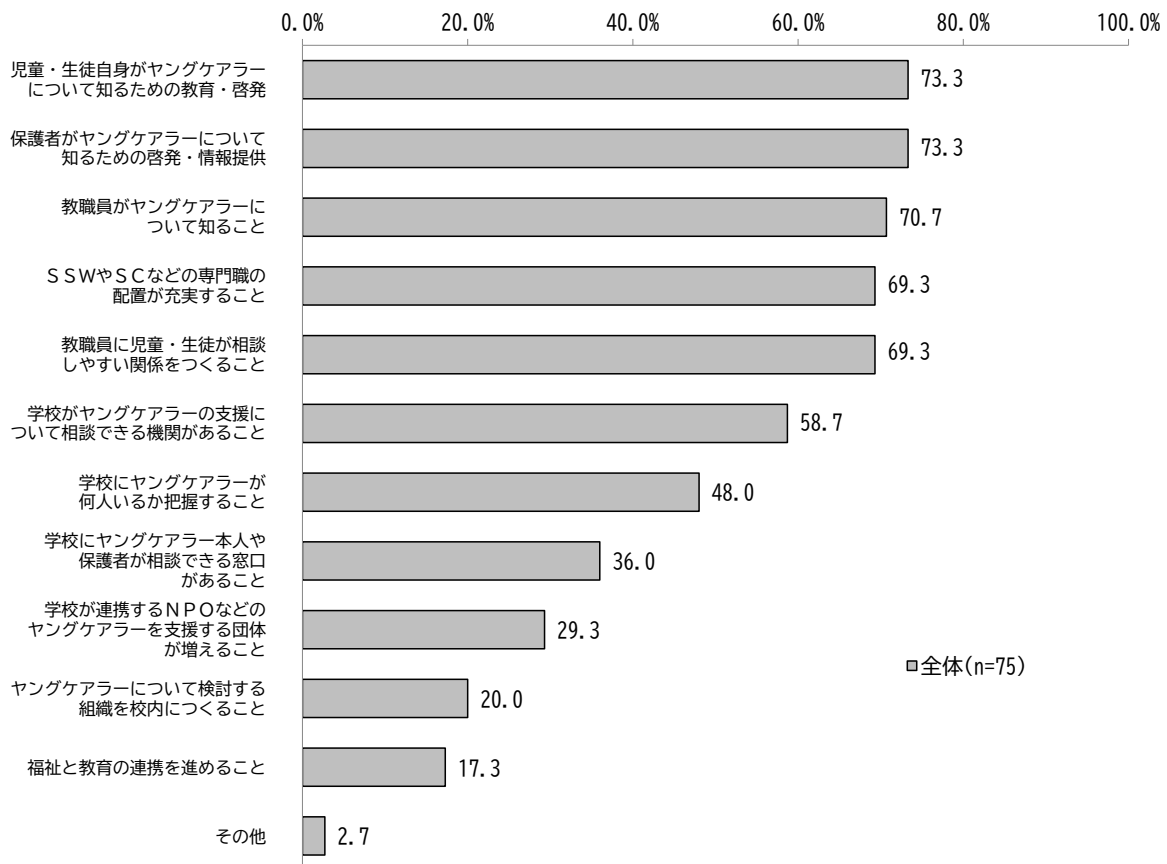
家庭でのケアの状況	ケアを必要としている人の状況	高齢（65歳以上）	
		● 若い	
		要介護（介護が必要な状態）	
		認知症	
		身体障害	
		知的障害	
		精神疾患（疑い含む）	
		依存症（疑い含む）	
		精神疾患・依存症以外の病気	
		日本語を第一言語としない	
		その他	
		わからない	
		ケアの内容	家事（食事の準備や掃除・洗濯など）
			● きょうだいの世話や保育所等への送迎など
			身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）
外出の付き添い（買い物、散歩など）			
通院の付き添い			
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）			
見守りや看病など			
通訳（日本語や手話など）			
金銭管理			
薬の管理			
その他			
わからない			
ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ	● 児童・生徒本人から話を聞いた		
	児童・生徒の学校生活の状況、様子から		
	● 学校での面談やアンケートから		
	養護教諭、SC、SSWからの報告		
	保護者・親族からの相談や保護者の状況から		
	家庭訪問		
	出身校園からの引継ぎ		
	その他		
検討したがつなげなかった機関	無回答		
つなげなかった理由	無回答		
支援をしていく上での校内体制及び周りの教職員の協力	スクールカウンセラーとカウンセリング体験を行ったときに、きょうだいをお風呂に入れたり、寝かしつけたりしているときいている。そのため、児童の様子を見守りを行っている。		
学校で行った支援	生活保護を受けており、すでにSSWの支援を受けている。必要に応じて学校での様子をSSWに連絡し、情報共有した。		
支援した結果、児童・生徒の変化	SSWの担当の方に早速行動していただいた。		

26. ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

問20 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことについて聞いたところ、「児童・生徒自身がヤングケアラーについて知るための教育・啓発」と「保護者がヤングケアラーについて知るための啓発・情報提供」（ともに73.3%）の割合が最も高く、次いで「教職員がヤングケアラーについて知ること」（70.7%）となっている。

図表-167 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと



図表-168 学校種別 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

調査数	必要だと思うこと												
	児童・生徒自身がヤングケアラーについて知るための教育・啓発	保護者がヤングケアラーについて知るための啓発・情報提供	教職員がヤングケアラーについて知ること	学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	教職員に児童・生徒が相談しやすい関係をつくること	学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	学校が連携するNPOなどのヤングケアラーを支援する団体が増えること	ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	福祉と教育の連携を進めること	その他	
全体	75	73.3	73.3	70.7	48.0	69.3	69.3	20.0	36.0	58.7	29.3	17.3	2.7
小学校	40	70.0	82.5	67.5	52.5	72.5	67.5	25.0	37.5	52.5	27.5	12.5	5.0
中学校	20	75.0	65.0	70.0	35.0	80.0	65.0	15.0	35.0	70.0	35.0	30.0	-
高等学校等	15	80.0	60.0	80.0	53.3	46.7	80.0	13.3	33.3	60.0	26.7	13.3	-

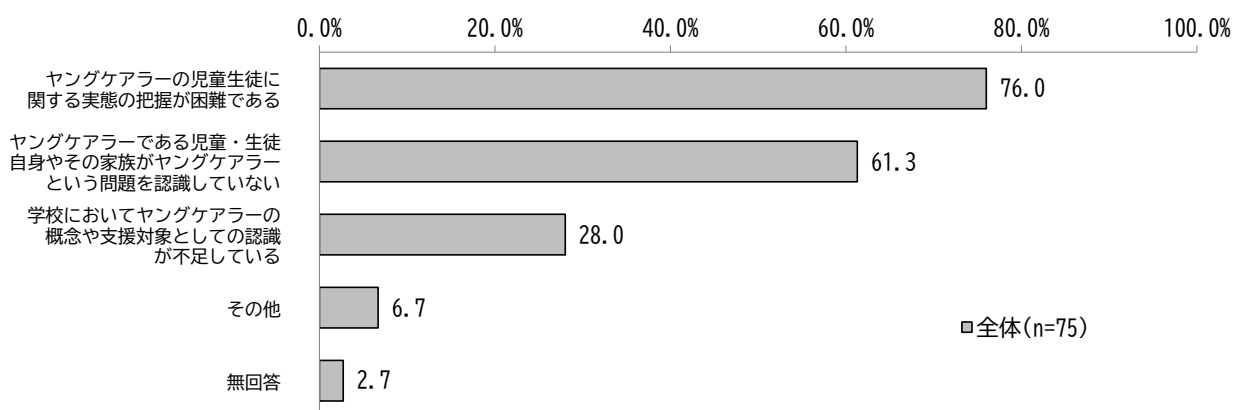
単位：%

27. ヤングケアラーの対応をする上で課題だと思うこと

問21 学校でヤングケアラーの対応をする上で、課題だと思うことはどのようなことですか。

ヤングケアラーの対応をする上で課題だと思うことについて聞いたところ、「ヤングケアラーの児童生徒に関する実態の把握が困難である」（76.0%）の割合が最も高く、次いで「ヤングケアラーである児童・生徒自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識していない」（61.3%）、「学校においてヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している」（28.0%）となっている。

図表-169 ヤングケアラーの対応をする上で課題だと思うこと



図表-170 学校種別 ヤングケアラーの対応をする上で課題だと思うこと

単位：%

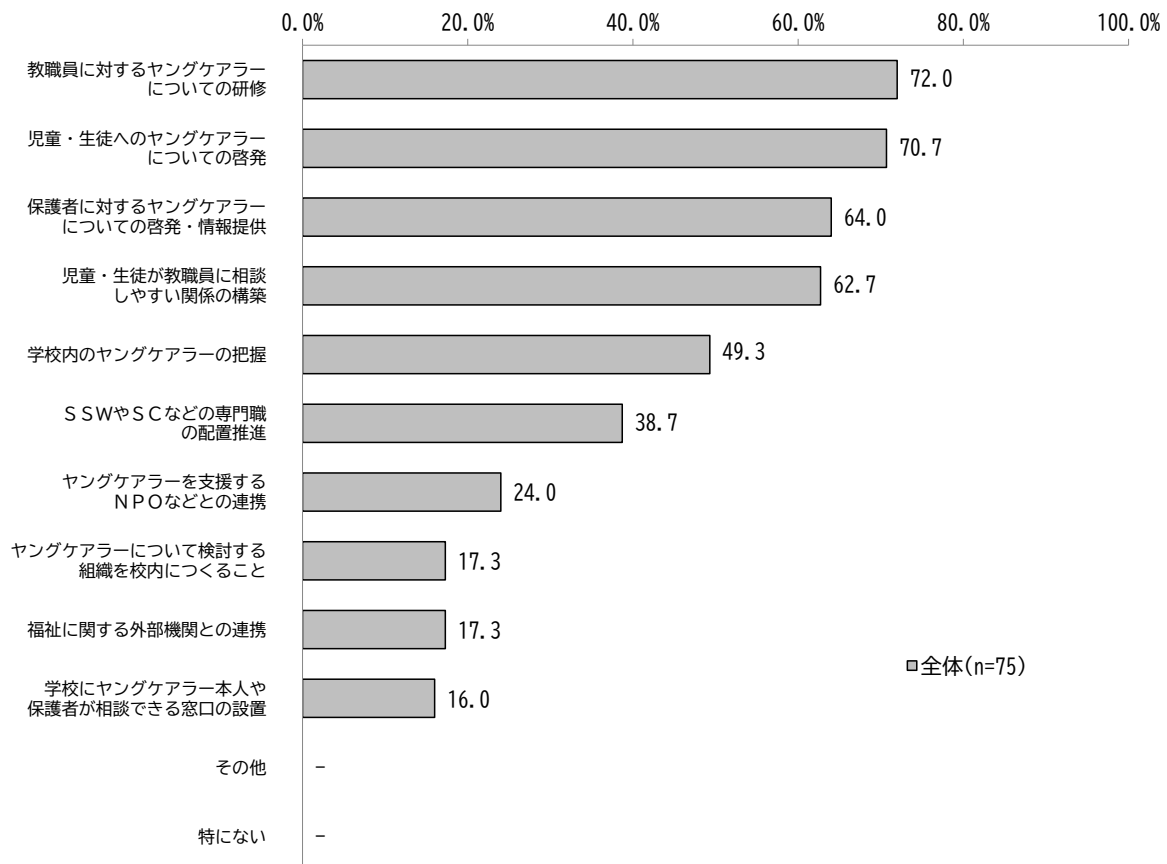
学校種別	調査数	学校における認識が不足している	ヤングケアラーの実態の把握が困難である	ヤングケアラー自身やその家族が問題を認識していない	その他	無回答
全体	75	28.0	76.0	61.3	6.7	2.7
小学校	40	25.0	80.0	65.0	7.5	5.0
中学校	20	30.0	70.0	75.0	5.0	-
高等学校等	15	33.3	73.3	33.3	6.7	-

28. 学校で今後取り組み可能なこと

問22 ヤングケアラーを支援するにあたって、学校で、今後取り組み可能なことはどのようなことですか。

学校で今後取り組み可能なことについて聞いたところ、「教職員に対するヤングケアラーについての研修」(72.0%)の割合が最も高く、次いで「児童・生徒へのヤングケアラーについての啓発」(70.7%)、「保護者に対するヤングケアラーについての啓発・情報提供」(64.0%)となっている。

図表-171 学校で今後取り組み可能なこと



図表-172 学校種別 学校で今後取り組み可能なこと

学校種別	調査数	学校で今後取り組み可能なこと (単位: %)											
		児童・生徒へのヤングケアラーについての啓発	保護者に対するヤングケアラーについての啓発・情報提供	教職員に対するヤングケアラーについての研修	学校内のヤングケアラーの把握	SSWやSCなどの専門職の配置推進	児童・生徒が教職員に相談しやすい関係の構築	ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口の設置	ヤングケアラーを支援するNPOなどとの連携	福祉に関する外部機関との連携	その他	特になし
全体	75	70.7	64.0	72.0	49.3	38.7	62.7	17.3	16.0	24.0	17.3	-	-
小学校	40	67.5	82.5	67.5	45.0	37.5	60.0	25.0	17.5	22.5	12.5	-	-
中学校	20	75.0	50.0	75.0	50.0	50.0	65.0	10.0	20.0	35.0	35.0	-	-
高等学校等	15	73.3	33.3	80.0	60.0	26.7	66.7	6.7	6.7	13.3	6.7	-	-

第4章 調査結果（学校）

問22（1） 問22について現場として優先して取り組みたいと思っている項目を優先順位が高い方から3つお教えてください。

学校で今後取り組み可能なことの中から優先して取り組みたいことについて聞いたところ、優先順位1位では「児童・生徒が教職員に相談しやすい関係の構築」（21.3%）の割合が最も高く、次いで「教職員に対するヤングケアラーについての研修」（20.0%）、「学校内のヤングケアラーの把握」（17.3%）となっている。

図表－173 優先して取り組みたいこと

単位：%

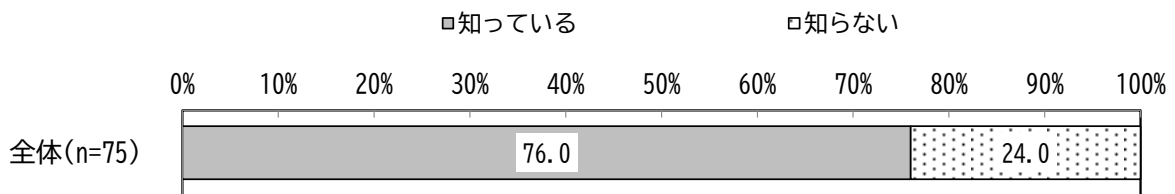
	調査数	児童・生徒へのヤングケアラーについての啓発	保護者に対するヤングケアラー提供	教職員に対するヤングケアラー研修	学校内のヤングケアラーの把握	SSWやSCなどの専門職の配置推進	児童・生徒が教職員に相談しやすい関係の構築	ヤングケアラーに関する組織を校内につくることが	学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口の設置	ヤングケアラーを支援するNPOなどとの連携	福祉に関する外部機関との連携	その他	無回答
優先順位1位	75	12.0	9.3	20.0	17.3	5.3	21.3	2.7	2.7	2.7	5.3	-	1.3
優先順位2位	75	25.3	18.7	9.3	14.7	6.7	13.3	-	1.3	4.0	1.3	-	5.3
優先順位3位	75	14.7	17.3	18.7	6.7	13.3	8.0	4.0	1.3	5.3	1.3	-	9.3

29. 「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っているか

問23 久留米市役所こども子育てサポートセンター内にある「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っていますか。

「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っているかについて聞いたところ、いずれの学校も「知っている」の割合が70.0%を超え「知らない」の割合の方が低くなっている。

図表－174 「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っているか



図表－175 学校種別 「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っているか

単位：%

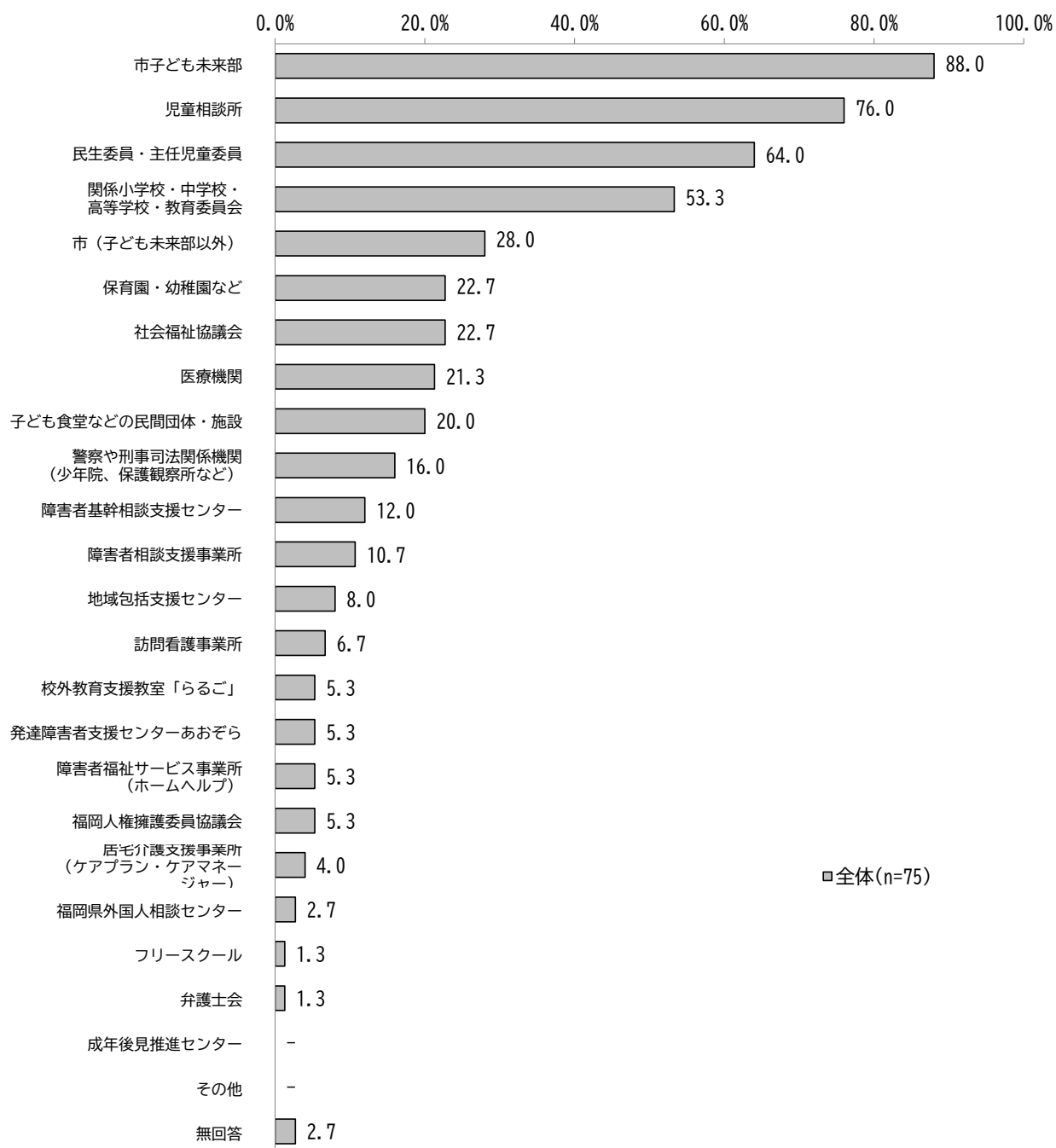
		調査数	知っている	知らない
全 体		75	76.0	24.0
学 校 種 別	小学校	40	75.0	25.0
	中学校	20	80.0	20.0
	高等学校等	15	73.3	26.7

30. 学校が連携を強化していく必要がある機関

問24 ヤングケアラーを支援するために、学校が今後、連携を強化していく必要があると思う機関について教えてください。

学校が連携を強化していく必要がある機関について聞いたところ、「市子ども未来部」（88.0％）の割合が最も高く、次いで「児童相談所」（76.0％）、「民生委員・主任児童委員」（64.0％）となっている。

図表ー176 学校が連携を強化していく必要がある機関



図表－177 学校種別 学校が連携を強化していく必要がある機関

単位：％

		調査数	児童相談所	市子ども未来部	市（上記以外）	警察や刑事司法関係機関（少年院、保護観察所など）	医療機関	訪問看護事業所	関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会	保育園・幼稚園など	校外教育支援教室「らるご」	フリースクール	障害者基幹相談支援センター	障害者相談支援事業所
全	体	75	76.0	88.0	28.0	16.0	21.3	6.7	53.3	22.7	5.3	1.3	12.0	10.7
学校種別	小学校	40	77.5	87.5	32.5	15.0	10.0	7.5	47.5	32.5	-	-	5.0	2.5
	中学校	20	75.0	90.0	25.0	15.0	20.0	10.0	65.0	15.0	20.0	5.0	30.0	25.0
	高等学校等	15	73.3	86.7	20.0	20.0	53.3	-	53.3	6.7	-	-	6.7	13.3

		おそら 発達障害者支援センターあ	障害者福祉サービス事業所（ホームヘルプ）	居宅介護支援事業所（ケアプラン・ケアマネジャー）	地域包括支援センター	福岡人権擁護委員協議会	弁護士会	成年後見推進センター	社会福祉協議会	民生委員・主任児童委員	子ども食堂などの民間団体・施設	福岡県外国人相談センター	その他	無回答
全	体	5.3	5.3	4.0	8.0	5.3	1.3	-	22.7	64.0	20.0	2.7	-	2.7
学校種別	小学校	-	2.5	-	2.5	7.5	2.5	-	27.5	80.0	25.0	-	-	-
	中学校	15.0	10.0	5.0	20.0	-	-	-	10.0	55.0	15.0	5.0	-	5.0
	高等学校等	6.7	6.7	13.3	6.7	6.7	-	-	26.7	33.3	13.3	6.7	-	6.7

第4章 調査結果（学校）

問24（1） 問24について現場として優先して連携強化していきたいと思っている機関を優先順位が高い方から3つ教えてください。

学校が連携を強化していく必要がある機関の中から優先して連携強化したい機関について聞いたところ、優先順位1位では「市子ども未来部」(53.3%)の割合が最も高く、次いで「児童相談所」(16.0%)、「関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会」と「民生委員・主任児童委員」(ともに10.7%)となっている。

図表-178 優先して連携強化したい機関

単位：%

	調査数	児童相談所	市子ども未来部	市（子ども未来部以外）	警察や刑事司法関係機関（少年院、保護観察所など）	医療機関	訪問看護事業所	関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会	保育園・幼稚園など	校外教育支援教室「らるご」	フリースクール	障害者基幹相談支援センター	障害者相談支援事業所
優先順位1位	75	16.0	53.3	4.0	1.3	1.3	-	10.7	-	-	-	-	-
優先順位2位	75	24.0	22.7	5.3	1.3	4.0	-	13.3	4.0	-	-	-	-
優先順位3位	75	17.3	9.3	12.0	1.3	2.7	-	14.7	5.3	4.0	1.3	-	-

	おぞら 発達障害者支援センターあ	障害者福祉サービス事業所（ホームヘルプ）	居宅介護支援事業所（ケアプラン・ケアマネージャー）	地域包括支援センター	福岡人権擁護委員協議会	弁護士会	成年後見推進センター	社会福祉協議会	民生委員・主任児童委員	子ども食堂などの民間団体・施設	福岡県外国人相談センター	その他	無回答
優先順位1位	-	-	-	-	-	-	-	-	10.7	-	-	-	2.7
優先順位2位	-	-	-	1.3	-	-	-	2.7	14.7	1.3	-	-	5.3
優先順位3位	-	1.3	-	1.3	-	-	-	2.7	13.3	4.0	-	-	9.3

31. 自由意見

問25 ヤングケアラーに関して、ご意見・ご提案・ご要望等あればご自由にお答えください。

ヤングケアラーに関する意見・提案・要望についての自由記述は以下のとおり。

図表-179 自由意見

※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

内容	学校種別
具体的な支援が届くまでの時間は最短がよいので、「すぐに動き、的確な支援を行う部署」を設置していただきたいと願います。	小学校
学校では把握が難しいこと、対応等にも限界があること、やはり専門的な対応・相談場所が必要だと思う。	小学校
久留米市の実態を教職員にも伝え、子どもの安心安全を守る取り組みを強化していきたいと考えます。	小学校
ヤングケアラーの対応を、学校するのは困難である。地域の主任児童委員等で実態把握をして、行政の機関と共に対応してほしい。	小学校
ヤングケアラーについては、学校で、各家庭の何を基準にして、どのように支援していくのか、見えにくいことだけに、研修が必要だと思う。ヤングケアラーと思われる児童は「いる」にはしましたが、はっきりと学校として共有したわけではなく、かと言って、「いない」と言い切れるのか・・・との思いです。各担任によって認識も違うと思います。	小学校
保護者が、子どもが妹を世話をすることを当たり前とし、完全にあてにしている。それを当然と思っている子どもたちをみると、本当に悲しくなる。 保護者に「助けて欲しい」と回りに機関や学校に声をあげないと私たちが入れないところがある。大変難しく、デリケートなことなので他の生徒指導とは訳が違うと思っている。 子どもたちの将来のことを考えると本当に頭が痛い。	小学校
地域に住んでいる方からの情報により、ヤングケアラーの発見につながるシステムがあるとよいと思います。	小学校
子育てへの支援の充実と、家庭がそれを利用するためのきっかけをつくることなどで、子ども達が安心して登校できる環境をつくるのが大切だと感じます。保護者への支援を行う機関との連携は欠かせないと思います。	小学校
教員の勤務時間は8:30~17:00までだが、朝7時すぎから家庭訪問したり、夕方19:00ごろまで連絡を取り続けたりしている。それでも、状況は改善しない。 〈夜遅くまで妹(0歳)の世話をしているため、翌朝起きられずに登校しない。遅刻する。母親も寝ているため連絡が取れない。〉 民生児童委員さんなどに、この役を担ってもらえないだろうか。また、夜間、妹の世話を任せて母が仕事に出る時があるようだが、夜間のことなので学校には確かめようがなく心配している。 該当児童の家庭に入れる人、教師の勤務時間外に該当児童に関わる人が必要である。	小学校
まずは、教職員への研修を行う必要があると思います。	小学校
ヤングケアラーの実態を把握することはとても大切ですが、その難しさを感じています。	小学校
ヤングケアラーに対応するための人員配置が必要。現在の体制では、十分な対応が困難な面が多い。	小学校
ヤングケアラーについての教職員研修ができる方を紹介してほしいです。	小学校

第4章 調査結果（学校）

内容	学校種別
実態の把握や支援は学校だけではできない。また、調査をかけるのも学校と本人・家庭との関係に影響があると考える。そのため、非常に難しい社会問題であると考えています。	中学校
学校がセーフティネットとしてヤングケアラーの子どもの早期発見に重要な役割を持つことには異論はありません。ただ、前提として、学校は教育の場ですので、家庭の実情や親子関係、家庭環境に容易に踏み込める立場にはありません。そのため、学校がヤングケアラーという判断をすることにはたいそうな困り感があり、親子関係、家庭環境に根差すこの問題の対応を学校が担うことには無理があると思います。 家庭内の問題ですので、発見が非常に困難であるため、学校はその役割を果たすべきだと思っておりますが、対応、支援につきましても、社会的な福祉ネットを構築していく必要があると思います。一番近いのは、地域の民生委員さん、児童委員さんだと思いますが、現状は把握、判断、対応を学校が要請されています。ほとんどボランティアで働いていただいておりますので感謝しておりますが、地域の福祉ネットとしての役割が強化されていくことを期待しています。 学校は、子どもや保護者が気軽に相談でき、早期発見、対応につながる関係づくりに努めるとともに、学校生活での支援を継続できたらと考えます。	中学校
学校関係者・市担当者・医療関係者・SCやSSW等がそれぞれに情報を収集し、できる範囲で支援しようと取り組んでいる側面は評価できる場所であるが、機動力に欠けるところが弱点である。子どもの危機的状況を救うには、強い権限の適切な行使も不可欠である、と互いに認識したい。 「十分な情報収集と調査の上で…」と躊躇しているうちに深刻な事態に陥るのは、虐待の問題と同様である。支援不足のまま子どもの進路が絶たれる（受験等に間に合わない、経済的支援がなくなる等）ことのないよう、中核市・久留米ならではの迅速な体制作りが望まれる。	中学校
本校でも、手伝いと線の引きが難しいところがあります。線はないとしても、どこから手を入れていけばいいのか、どのように手を入れていけばいいのかいろいろな資料をもとに学ばせていただいています。	中学校
実態の把握が困難なケースもあると思う。地域と連携して気になる家庭の情報交換を行っていきたい。	中学校
保護者自身が支援を希望しなかったり、本人や保護者が学校に家庭内のことを話さなかったりするなど、介入が難しいと感じる。また、福祉に関する支援に適切につなぐためには、専門職（SSWなど）の配置が必要である。	中学校
実態の把握が難しい点があると思います。家族、本人もヤングケアラーという認識がない場合は見過ごしてしまう可能性もあり、学校が家庭に踏み込んで調査するには限界があると思われます。そのような意味でも学校と警察等が連携をとることが重要だと考えます。 生徒たちの普段の様子や生活の変化等を日々観察することが学校としても1つの大きな役割だと認識しています。	高等学校
まだあまり本校ではケースがないので、よく対応がわかっていないというのが現状です。	高等学校
実態把握に関しては、本人と保護者が認識できていない場合があるので、周りの大人（教員や地域など）がアンテナを張っておく必要があると考える。学校と行政、地域がこの問題について交流する場面があるといいと思います。	高等学校
久留米市こども子育てサポートセンターによる生徒や保護者への支援はもちろん、学校に対しても多方面で支援や協力をいただいている。 定時制にはヤングケアラーが少なくない。引き続き定期的な情報共有と対応に関する支援をお願いしたい。	高等学校
久留米市に住んでいる生徒以外でも、他の市町村と連携して対応していただきたい	高等学校
保護者、兄弟、祖父母のサポートや介護の状況をヤングケアラーの認識に置き換える定義や認識を高めていかなければならないと考えます。生徒自身から発することや家族の認識から発見なのか置き換えるのか非常に難しいと考えます。 他人に知られたり、話したりすることでは無いという認識を持っている生徒が多いのではないかと考えます。プライバシーの秘密の順守も大切なことです。	高等学校

第5章 調査結果（関係機関ヒアリング）

1. ヒアリング調査の実施概要

ヤングケアラー支援に必要な視点、取組状況や課題等を把握し、支援策を検討するため、ヤングケアラーの支援に関わりのある機関及び学校を対象に、ヒアリング調査を実施した。

（1）調査対象

区分	対象	対象数
関係機関	久留米市地域包括支援センター	計 5ヶ所
	久留米市民生委員児童委員協議会	
	久留米市障害者基幹相談支援センター	
	久留米市生活自立支援センター	
	NPO法人(子ども関係)	
学校	アンケート調査を踏まえ、ヤングケアラーの支援策の検討において参考となる取組や事例がある 小学校、中学校、高等学校	計 5ヶ所 小学校 2校 中学校 1校 高等学校 2校

（2）ヒアリング項目

番号	内容
1	ヤングケアラーとの関わり、把握・支援の状況 ・貴校・団体では、ヤングケアラーとどのように関わっていますか。把握や支援の状況をお聞かせください。 ・具体的に関わった主な事例の内容をお聞かせください。（特徴的な事例（一事例）について、把握から支援までの経緯をお聞かせください。）
2	ヤングケアラー支援上の課題 ・貴校・団体がヤングケアラーに関わる際に難しい点や課題だと感じていることはありますか。
3	ヤングケアラー支援として必要なこと ・上記の課題を解決するためにはどのようなことが必要だと思いますか。 ・貴校・団体としての取組だけでなく、行政やその他関係機関、地域等の取組として必要だと思うことについてもお聞かせください。

2. ヤングケアラーとの関わり、把握・支援の状況

（1）久留米市地域包括支援センター

- ・高齢者支援の相談対応において世帯状況や介護力を把握する中で、ヤングケアラーを把握することがある。
- ・高齢者支援を孫がしている場合、経済的支援や介護の負担軽減に向けた高齢者への必要なサービス導入を行うなどの支援をしている。

（2）久留米市民生委員児童委員協議会

- ・ヤングケアラーを把握したことの少ない民生委員、児童委員が大半。
- ・ヤングケアラーだと思われる児童生徒に関する情報が入ることはあるが、積極的な実態把握や支援につなげるなどの動きはできていない状況。
- ・ヤングケアラーだと思われる児童生徒に関する情報は、学校との情報共有の場を経由して知ることが多い。

（3）久留米市障害者基幹相談支援センター

- ・障害者支援の相談対応において世帯状況の把握が進むと、ヤングケアラーだと思われる人が発覚するケースが大半。
- ・子どもが不登校だったり生活リズムが昼夜逆転していたりすると、発覚しやすい。
- ・親に障害があり、世帯支援のための相談を行う最中で把握することもある。
- ・家事サービスや日中の居場所の支援、親の気持ちの支援などを実施。

（4）久留米市生活自立支援センター

- ・生活困窮者支援の中で、世帯状況の把握が進むとヤングケアラーの把握に至るケースがある。
- ・家計相談や食糧支援、家庭子ども相談課担当との連携による自宅訪問、祖父母との面談や関係機関への相談同席などの支援を実施。
- ・子どもが通訳のために母親に付き添っているなどの、外国人家庭のケースもある。

（5）NPO法人（子ども関係）

- ・久留米市からの委託事業のため、家庭環境の把握がしやすいことに加え、子ども達の口から直接話を聞く機会も多い。
- ・来ている子ども達はそれぞれ家庭環境が異なるが、何かしらの課題を抱えているケースが大半であり、子ども達同士の会話でもヤングケアラーだと思われる発言が多く見られる。
- ・家庭や学校でコミュニケーションを取る機会のない子ども達の居場所として機能。
- ・進路相談や奨学金に関連する手続きのサポートなどの支援をしている。

（6）市内小学校

- ・ 普段のコミュニケーションによる児童本人からの聞き取りや他の保護者からの報告で、情報を入手。
- ・ 低学年の場合は、給食時の会話などからも情報が入ることがある。
- ・ いじめ対策として、月次でアンケートを行っており、その中で違和感があった際は本人や保護者に確認する。
- ・ 家庭訪問で状況を把握できるケースもあり。
- ・ 下のきょうだいから情報が入ることが多く、まだ把握に至っていないヤングケアラーがいる可能性もある。
- ・ ヤングケアラーの児童については、きょうだい関係の担任も含めた教員等でケース会議を行い、見守りに関する役割分担を決める。ケース会議は月次で開催。

（6）市内中学校

- ・ 基本的な情報共有は、学級・学年会・生徒指導部会で実施（週次）。
- ・ 定期的に学校を休むことや、作文の内容で家庭環境について触れていることから、ヤングケアラーの可能性が浮かんだケースがある。

（7）市内高等学校

- ・ 三者面談、本人の動向、中学校からの情報引継ぎ、行政からの情報、県が指示する学校生活に関する月次のアンケート、などから把握。
- ・ 1年生は全員 SC との面談を必須としているため、そこから情報が入ることもある。
- ・ 学内では週次の連絡会で情報共有。
- ・ 本人がヤングケアラーか不明なため、クラス面談、学校生活アンケートや学校生活の様子から把握を進めている。
- ・ 通学の状況や身だしなみ等からもヤングケアラーの可能性があると推測。
- ・ SC とのカウンセリングを本人が希望して、発覚したケースもある。
- ・ SSW と連携し、中学生のきょうだい経由で状況把握。

3. ヤングケアラー支援上の課題

（1）久留米市地域包括支援センター

- ・ヤングケアラー本人の思いを引き出すことが課題。家族の世話をすることが当たり前だと思っている当事者も多く、ケアマネジャーが把握しても介入や支援につなげられない。
- ・公的サービス制度では生活が支えきれない中、ヤングケアラーの存在が必要な支援者となり得ている状況があることも事実であり、世帯支援という観点で何がベストなのかを判断することは難しい。
- ・本来介護を担うべき大人に適切な判断能力がないなどの支障がある状況が多く、サービス導入に向けた介入を拒否されることもある。
- ・親と子どもの意向が異なる場合、意見のすり合わせが必要。
- ・支援をする上での旗振り役が世帯やケースによって異なり、誰が旗振り役を担うのかの決定も課題。
- ・学校が違和感を覚えているにもかかわらず、連携体制が整備されていない。

（2）久留米市民生委員児童委員協議会

- ・不登校の児童生徒がいたとしても、学校がなぜ不登校なのかを調べることに限界がある。
- ・ヤングケアラーだと思われる児童生徒のいる家庭は家庭訪問にも対応しないことが多いため、地域で状況を知ることが難しい。
- ・学校生活に問題がないヤングケアラーの場合、発見することがとても難しい。
- ・当事者が自分をヤングケアラーだと認識していないこと、支援を望んでいないことも課題。

（3）久留米市障害者基幹相談支援センター

- ・当事者自身にヤングケアラーだという認識がない。
- ・家庭の中で当然に与えられた役割を全うしており、当事者にとっての存在意義となっているように見受けられるケースもある。
- ・ヤングケアラーという単語がネガティブワードであるため、家族の世話をしている当事者のマインドへの悪影響が懸念される。
- ・障害のある方がいる世帯ほど家族の協力が必要な状況下で、ヤングケアラーだという判断をすることは難しい。
- ・障害に対する受容がなかったり福祉サービスを拒否されたりすると、介入・支援が難しい。
- ・世帯員の病気や障害、困窮に加え、家族間の関係性も影響するなど、複数の課題が複雑に絡み合っている。

（4）久留米市生活自立支援センター

- ・実態把握のための関係性構築や、声掛けが難しい。
- ・周囲の理解や認識の不足、偏見などにより、当事者が身近な人に相談できない状況にある。
- ・アドバイスなどで当事者をさらに追い込んでしまう可能性がある。
- ・早期発見が難しく、課題が表出しないまま 80-50 問題に発展してしまう。
- ・本人も周囲も「家族の世話をしている良い子」と認識しているため、何が課題かつかみにくいケースもある。
- ・不登校となっていない子もいるため、支援が必要なのか、判断する基準が曖昧。

（5）NPO法人（子ども関係）

- ・当事者がヤングケアラーだという意識が全くないことの方が多い。
- ・お手伝いと境界線が曖昧で分かりにくく、保護者はお手伝いをさせているという認識であることも多い。
- ・昔は上のきょうだいが下のきょうだいの面倒を見ることが当たり前であったことや、女の子は家事を学ばなければならないなどジェンダー差別に関わる問題もあり、大人の認識も課題である。
- ・当事者に不満はあっても親に伝えられなかったり、進路について話ができなかったりなど、保護者との関係性が大きな課題であるケースも多い。
- ・当 NPO 法人に行ったことで、当事者が保護者に対して意見をできるようになると、保護者が利用を禁止する可能性もあり、当事者たちの居場所として機能している当 NPO 法人が積極的に家庭環境に介入することは難しい。

（6）市内小学校

- ・教職員がヤングケアラーではないかと気付いても、保護者が認識していない、教職員からのやり取りを断るため、学校としてもできることに限りがある。
- ・PTA などでヤングケアラーに関する啓発を行っても、ヤングケアラーだと思われる児童の保護者が参加する可能性は低い。
- ・保護者が家庭の弱みを表に出せない。
- ・子ども自身が親の心の不調などを話したくないため、SOS を出せない。
- ・ヤングケアラーだと思われる不登校の児童がいても、本人が「家にいたい」と言うためそれ以上のアクションが難しい。
- ・当事者の年齢が上がるにつれて自分の家庭の状況を言い出しにくくなる。

（6）市内中学校

- ・本人から SOS が出ず、保護者も介入や支援を拒むことから難航。
- ・本人が、自分がヤングケアラーだと思われていると知ることによって傷ついてしまう可能性があるため、本人自身がヤングケアラーだと認識しているかを知る方法がない。

（7）市内高等学校

- ・当事者が自覚していない。
- ・当事者の背景問題がケースバイケースかつ複雑で把握が難しい。
- ・行政につながると困るという当事者もいる。
- ・保護者との接点確保や意向の確認が難しい。また、精神疾患のある保護者の場合は、支援に非協力的で壁となることもある。
- ・SSWの派遣頻度が不定期のため、不足することがある。
- ・居留守を使われるなど、保護者との接点確保が難しく、状況把握が困難（他にも同じような状況の生徒がいる可能性もある）。
- ・保護者が拒否すると支援につながらない。
- ・虐待と異なり、強制権がないため、地道に働きかけるしかない。

4. ヤングケアラー支援として必要なこと

（1）久留米市地域包括支援センター

- ・ヤングケアラーや複合的課題を抱えた世帯の早期発見が重要。
- ・当事者に声を上げてもらうために、ヤングケアラーという概念を周知。
- ・高齢者介護からヤングケアラーを発見するために、学校で児童生徒に対して地域包括支援センターを周知。
- ・ヤングケアラーの支援だけでなく、介護を担っている家族との関係性を築き、思いを引き出すようなアプローチをする。
- ・ヤングケアラーの人となりをよく知る人（思いを代弁できる人）との情報共有。
- ・支援を必要とする世帯に関わる関係機関の役割の把握や情報共有、ケース会議を行うことで、介入の仕方を決める。

（2）久留米市民生委員児童委員協議会

- ・保護者の意識確認を始め、学校・地域・専門知識を持った人が連携して対応することが重要。

（3）久留米市障害者基幹相談支援センター

- ・世帯を取り巻く課題を整理し、一つ一つ解決に向けて取り組むこと。
- ・世帯支援と個別支援の両方の視点を持って支援。
- ・関係機関との役割分担と連携。発見・把握した際に相談できる体制、支援のチーム作りができる体制の構築。
- ・SSWの配置を増やす（担当が多忙により、気付けないこともあるため）
- ・当事者や世帯の困り感を聞いて、価値観を広げる啓発。

（4）久留米市生活自立支援センター

- ・本人だけの支援ではなく、世帯に対する支援が必要。
- ・親と子どもそれぞれに支援者がついている場合、情報共有が重要。
- ・関係者たちが認識をすり合わせる機会。
- ・元ヤングケアラーによる相談窓口の設置。
- ・相談する際、支援員は、本人が自分自身の意思で自立に向けて行動する支援を行っていることを理解してもらったり、周囲の偏見をなくす啓発などをしたりすることで、当事者が自分自身の意思を発信できる環境を整える。
- ・相談例と相談機関の周知。

（5）NPO法人（子ども関係）

- ・刷り込まれた考えを一つの団体や個人が書き換えることはとても難しく、実際にできることは子ども達から聞いた話を否定しすぎないように気を付けながら、違う考え方もあることを少しずつ教えていくこと。
- ・学校が取り組んでいるお手伝い週間のようなものを廃止する。お手伝いは強要するものではなく、自発的に行うもの。小学生のうちからお手伝いをするのが当たり前という認識にさせ、それがエスカレートしてヤングケアラーにつながる可能性もある。
- ・行政と連携することで、保護者とのやり取りや働きかけができる体制づくり。
- ・当NPO法人以外にも当事者たちの居場所があると良い。

（6）市内小学校

- ・教職員に対する、ヤングケアラー把握時の対応等の周知徹底。
- ・明確な基準によるヤングケアラーの認定があれば、外部につながりやすい。
- ・当事者から発信してもらえるように周知。
- ・学校が踏み込むことは難しく、地域の方が実態を把握しやすい面もあると思われる。
- ・当事者が自覚して支援を希望したときの対応を知りたい。（今回ヒアリングまで、市にヤングケアラーの窓口があるという認識がなかった）
- ・精神科の病気のある保護者の場合、病院から相談してもらえると実態把握、支援が進めやすい。

（6）市内中学校

- ・当事者がヤングケアラーであることを知られることを嫌がるため、ヤングケアラーが変なことではないと思ってもらえる意識作りが大切。
- ・家庭教育（家で解決すべきこと）と外部の支援を求めるべきことの住み分けをはっきりとさせる。

（7）市内高等学校

- ・好事例の見える化。具体的な相談先や受けられる支援を知りたい。（学校側が具体的にできる方策の引き出しとなることに加え、当事者が声を上げるきっかけとなるツールになるようなチャート式のイメージ図などがあると良い。）
- ・児童相談所以外で数日間逃げることでできるシェルターのような場所。
- ・ヤングケアラーか断言できない生徒を相談できる体制。
- ・市に相談することでカウンセリング以外にどのような支援を受けられるのか、教えてほしい。

第6章 調査結果のまとめ

1. 児童生徒アンケート

(1) 世話をしている家族がいる児童生徒

児童生徒アンケートにおいて、家族の世話をしていると回答した児童生徒の割合は、小学生7.8%、中学生6.3%、高校生4.2%となっている。

調査時期や調査対象の抽出方法及び調査手法等の前提条件の違いのため、厳密な比較は難しいものの、本市の調査結果と全国の調査結果と比較すると、本市は家族の世話をしていると回答した小学生の割合が全国よりやや高いという結果となっている。ただし、これは回答者が「世話」をより幅広く捉え、世話の頻度が不定期なケース等の負担が軽度な層からも一定程度の回答が得られたことによる影響もあると考えられる。

図表－180 家族の世話をしていると回答した児童生徒の割合（全国との比較）

	小学生	中学生	高校生
久留米市(令和5年度)	7.8%	6.3%	4.2%
全国(令和2年度・3年度)	6.5%	5.7%	4.1%(全日制高校)

家族の世話をしていると回答した児童生徒の割合は上記のとおりであるが、一方で、家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがあると回答した児童生徒の割合は、小学生1.2%、中学生0.8%、高校生1.2%となっている。

上記と同じく、厳密な比較は難しいものの、本市における家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがあると回答した児童生徒の割合は、全国調査と比較して小学生、中学生、高校生ともに少ないという結果となっている。

図表－181 家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがあると回答した児童生徒の割合（全国との比較）

	小学生	中学生	高校生
久留米市(令和5年度)	1.2%	0.8%	1.2%
全国(令和2年度・3年度)	1.8%	1.8%	1.3%(全日制高校)

このように、本市の調査結果では、家族の世話をしていると自覚している層は全国調査より多い一方で、家族の世話について強度の負担を感じている層は全国調査より少なく、負担の軽度な層が一定数含まれていることが考えられる。家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがある負担の重い層については、早急な対応が求められる。一方で、負担の軽度な層に関しても、未然防止の観点での支援が必要となる。

第6章 調査結果のまとめ

また、家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがあると回答した児童生徒の割合について、他の中核市の調査結果と比較した結果は以下のとおりである。調査時期や設問の文言、調査対象学年などの前提条件の違いのため、厳密な比較は難しいものの、他の中核市と比較しても大きな差異は見られなかった。

図表－182 家族の世話をしているために、やりたいけれどできないことがあると回答した児童生徒の割合（他の中核市との比較）

	小学生	中学生	高校生
久留米市(令和5年度)	1.2%	0.8%	1.2%
川越市(令和4年度)	2.1%(4,5,6年生)	1.1%(1,2,3年生)	2.6%(1,2,3年生)
船橋市(令和4年度)	1.3%(4,5,6年生)	0.7%(1,2,3年生)	0.7%(高校生世代)
高槻市(令和4年度)	1.8%(5年生)	1.9%(2年生)	実施せず

(出典：各自治体のホームページにて公表されている調査結果報告書より抜粋 2024年3月29日現在)

(2) 家族の世話の実態

小学生では、世話の対象として「きょうだい」の割合が最も高く、世話の内容については「見守り」や「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」の割合が高いため、幼いきょうだいの世話や見守りをしている児童が多いと読み取れる。

中学生では、世話の対象は「母親」や「父親」の割合が増えており、世話の内容は「家事」が高くなっていることから、両親に代わって家事を担うようになった生徒が多いと読み取れる。

高校生では、世話の対象は「母親」がさらに増えたことに加え、「祖母」の割合も増えており、世話の内容も「家事」の他に「病院への付き添い」や「感情面のサポート」の割合が高くなっていることが分かる。

また、平日1日あたりの世話に費やす時間についてみると、小学生では「3時間未満」が最も多いのに対し、学年が上がるにつれて「3時間未満」の割合は減少し、高校生では「3～7時間未満」が最も多くなっており、学年が上がるにつれて世話に費やす時間が長くなっていることが読み取れる。

(3) 家族の世話による影響

家族の世話別に遅刻・早退状況を見ると、家族の世話をしている人の方が遅刻や早退をする傾向にあることが読み取れる。

同様に家族の世話別に学校生活ではまるものをみると、家族の世話をしている人の方が宿題・課題や持ち物、提出物等を忘れてしまう傾向にあることから、自分自身の宿題・課題に取り組んだり学校に必要な物の準備をしたりする余裕がないことが読み取れる。

また、悩んでいることについては、家族の世話をしている人の方が「特にない」の割合が低く、家族の世話をしていない人と比べて何らかの悩みを抱えている傾向にあることが読み取れる。悩んでいる内容としては、友人関係や学業成績、進路等が多くなっている。

(4) 支援ニーズ

家族の世話をしている人が必要とする支援については、小学生、中学生、高校生ともに「特にない」が最も多いものの、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」や「学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい」は一定のニーズがあることが読み取れる。また、中学生、高校生では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」の割合が高い。このことから、家族の世話をしている人にとって、まずは「自分の状況について傾聴してもらおう場」が、その後は「勉強や進路に関するサポート」が必要とされていることが読み取れる。

2. 学校アンケート

(1) ヤングケアラーの認知度

学校アンケートでは、回答したすべての学校がヤングケアラーという概念を知っていると回答しており、教育の現場におけるヤングケアラーの認知度は高いものと考えられる。一方で、ヤングケアラーの支援に必要なと思うこととして「教職員がヤングケアラーについて知ること」の割合が高かったことや、学校で優先して取り組みたいことでは「教職員に対するヤングケアラーについての研修」の割合が高かったことを踏まえると、学校単位ではヤングケアラーという概念の認識は進んでいるが、教職員単位ではヤングケアラーに対する理解をより深めていく必要があるということが読み取れる。

また、ヤングケアラーの支援に必要なと思うこととして「児童・生徒へのヤングケアラーについての啓発」や「保護者に対するヤングケアラーについての啓発・情報提供」の割合も高かったことを踏まえると、教職員のみならず、社会全体でのヤングケアラーについての認知度の向上が必要とされていることが読み取れる。

(2) ヤングケアラーの把握・支援の状況

回答した75校のうち、18.7%にあたる14校がヤングケアラーと思われる児童・生徒を把握していると回答した。そのうちアセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いていると回答した学校は1校にとどまっており、大半の学校は児童生徒や保護者の話や様子からヤングケアラーを把握していると回答している。

また、75校中40.0%にあたる30校が、ヤングケアラーと思われる児童生徒がいると回答しており、そのうちの12校が外部の支援につながずに学内で対応したケースがあると回答している。その理由としては、「実態を把握している段階であるため」や「家庭内の様子が分からず、確証がないため」の割合が高く、ヤングケアラーと思われる児童生徒がいても、実態把握に難航していることがうかがえる。

(3) ヤングケアラーの支援上の課題・今後の取組

ヤングケアラーの対応における課題としては、「ヤングケアラーの児童生徒に関する実態の把握が困難である」の割合が最も高くなっている。また、学校で優先して取り組みたいことでは「児童・生徒が教職員に相談しやすい関係の構築」の割合が最も高かったことを踏まえると、学校が一方的に実態把握に努めるだけではなく、児童生徒本人や家庭から相談してもらえ環境づくりが重要だと考えられる。

連携強化すべき機関では「市子ども未来部」の割合が最も高く、回答した学校の76.0%がヤングケアラーの相談窓口として市子ども未来部にある「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」の存在を認識していたことから、学校がヤングケアラーについて相談する先として「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」が機能していることが読み取れる。一方で、残りの24.0%の学校は認識していなかったため、ヤングケアラー相談窓口をすべての学校に周知するための取り組みが必要と考えられる。

3. 関係機関ヒアリング

(1) ヤングケアラーとの関わり、把握・支援の状況

地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センター、生活自立支援センターでは、高齢者や障害者、生活困窮者に対する支援の中で世帯状況の把握が進むにつれてヤングケアラーの把握につながるケースが多い。民生委員児童委員協議会では学校との情報共有の場を経由して知ることが多い。NPO 法人では、児童生徒本人たちの会話からヤングケアラーではないかという話を聞くことが多い。学校でも、児童生徒本人から話を聞くことはあるが、本人が一定の年齢になると、家庭の話をしたがらなくなることもあり、年下のきょうだいの話や本人の欠席状況や身だしなみ等から推測・把握にいたるケースもある。

支援の状況としては、それぞれの機関がつなぐサービスによって世帯単位のサポートをするほか、市子ども未来部と連携しているケースもある。NPO 法人では、進路相談や奨学金等の手続きのサポートのほか、家庭や学校でコミュニケーションを取る機会の少ない子どもの居場所としても機能している。

(2) ヤングケアラーの支援上の課題・支援として必要なこと

関係機関や学校側がヤングケアラーではないかと思っても、積極的な実態把握に進むための関係性構築に難航するケースが多い。家庭や本人が介入を拒んでしまうと、それ以上介入が出来なくなってしまう、手の打ちようがなくなることも課題である。また、家族の世話がその過程における本人に与えられた役割、存在意義となっているように見受けられるケースや、障害者のいる家庭等では家族の協力が必要であり、お手伝いと線引きが難しいという意見もある。このように、本人だけではなく世帯の問題が複合的に絡み合っている状況がある。加えて、支援をする上での旗振り役が世帯やケースによって異なり、誰が旗振り役を担うのかの決定も課題となっている。

関係機関や学校がヤングケアラーではないかと思った際に相談できる窓口を知りたいという意見があり、「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」の認知度向上が必要だと考えられる。また、関係機関や学校の実態把握には限度があるため、当事者に声を上げてもらうことが重要であり、そのためには、ヤングケアラーの概念やその相談窓口、相談したらどのようなサポートをしてもらえるのか、ということに関する情報発信が必要という意見が出た。さらに、当事者がヤングケアラーであることを知られることを嫌がるため、ヤングケアラーに関するマイナスイメージの払拭、意識づくりが必要という意見も出た。他には、本人だけではなく世帯の問題であることを踏まえると、世帯単位でのサポートを進めていくための、関係機関同士の役割分担と連携が必要と考えられる。

4. 総括

(1) 家族の世話の実態と学校生活等への影響

今回の児童生徒アンケートで家族の世話をしていると回答した人の割合は、1割未満ではあるが、全国調査よりも高い比率となった。ただ、この結果には世話の負担が軽度な層も一定数含まれていることが考えられる。世話によってやりたいけれどできないことがあると回答した人は回答者全体の1%程度を占めており、特に支援を必要とする層であると推測される。

家族の世話は児童生徒の生活にも大きく影響しており、家族の世話をしている人の方が、世話をしていない人と比べて、遅刻・早退が多く提出物の提出が遅れる等の学校生活における課題や友人関係の悩みを抱える割合が高くなっている。また、学業成績や中高生では進路希望に関しても影響している状況が把握された。

(2) 把握・支援の状況

学校や関係機関では、世帯への介入や学校での本人の様子等からヤングケアラーではないかと気付くことがある一方で、より踏み込んだ実態把握には難航している状況がある。また、本人がヤングケアラーであることを周囲に知られたくないと考えたり自らがヤングケアラーであることに気付いていなかったりする等の課題もある。このような実態把握の難しさから、学校や関係機関が適切な他の関係機関と連携するに至らないケースがあると考えられる。

(3) 今後の課題

家族の世話をしている人が希望する支援としては、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」や「学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい」や「進路や就職など将来の相談にのってほしい」等が挙げられており、本人の気持ちに寄り添った傾聴や、勉強や進路等の将来につながるサポートが求められていることが分かる。

また、本人がヤングケアラーであることに気付いていないケースやヤングケアラーであることを知られたくないと考えているケースもあるため、本人から声をあげられるようにヤングケアラーに関する啓発やサポート体制の周知が必要と考えられる。その他に、ヤングケアラーへの支援を充実させ、支援を受けるとどういった改善があるのか具体的に「見える化」し周知していくことも、当事者自らが相談する環境を推進していくうえで重要である。

一方で、本人が状況の改善を望んでいても、保護者が家庭への介入を拒否するケースもあり、世帯単位での関係性構築に向けた関係機関同士の役割分担と連携が必要である。

参考資料 調査票

(1) 小学生

児童生徒の生活に関するアンケート調査(小学生)

I. あなたについて

問1 あなたの通っている学校の学校種別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|-----------|-------------|
| 1. 市立 | 2. 国立 | 3. 特別支援学校 | 4. 聴覚特別支援学校 |
|-------|-------|-----------|-------------|

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------|-------|--------|---------|
| 1. 男子 | 2. 女子 | 3. その他 | 4. 答えない |
|-------|-------|--------|---------|

問3 あなたが住んでいる(普段生活している)校区を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|------------------|---------|---------|------------------|---------|
| 1. 西国分 | 2. 荘島 | 3. 日吉 | 4. 篠山 | 5. 京町 |
| 6. 南薫 | 7. 烏飼 | 8. 長門石 | 9. 小森野 | 10. 金丸 |
| 11. 東国分 | 12. 御井 | 13. 南 | 14. 合川 | 15. 山川 |
| 16. 上津 | 17. 高良内 | 18. 宮ノ陣 | 19. 山本 | 20. 草野 |
| 21. 安武 | 22. 荒木 | 23. 大善寺 | 24. 善導寺 | 25. 大橋 |
| 26. 青峰 | 27. 津福 | 28. 船越 | 29. 水縄 | 30. 田主丸 |
| 31. 水分け | 32. 竹野 | 33. 川会 | 34. 柴刈 | 35. 弓削 |
| 36. 北野 | 37. 大城 | 38. 金島 | 39. 城島(下田・浮島を含む) | |
| 40. 江上 | 41. 青木 | 42. 西牟田 | 43. 犬塚 | 44. 三猪 |
| 45. その他(久留米市外など) | | | | |

問4 あなたが現在一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | |
|-------------|-------------|-----------|----------|
| 1. お母さん | 2. お父さん | 3. おばあさん | 4. おじいさん |
| 5. 兄・姉⇒()人 | 6. 弟・妹⇒()人 | 7. その他() | |

問5 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|-------|---------|--------|------------|---------|
| 1. よい | 2. まあよい | 3. ふつう | 4. あまりよくない | 5. よくない |
|-------|---------|--------|------------|---------|

Ⅱ. ふだんの生活について

問6 あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。(病気の場合を除く)

(1)欠席について(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|--------------|------------|-----------|
| 1. ほとんど欠席しない | 2. たまに欠席する | 3. よく欠席する |
|--------------|------------|-----------|

(2)遅刻や早退について(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|----------|---------|
| 1. ほとんどしない | 2. たまにする | 3. よくする |
|------------|----------|---------|

問7 放課後、習い事をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問8 ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 授業中に寝てしまうことが多い | 2. 宿題ができていないことが多い |
| 3. 持ち物の忘れ物が多い | 4. 習い事を休むことが多い |
| 5. 提出物を出すのが遅れることが多い | 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する |
| 7. 保健室で過ごすことが多い | 8. 学校では一人で過ごすことが多い |
| 9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない | 10. 家のことが気になって落ち着けないことが多い |
| 11. 特になし | |

問9 あなたが悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 友達のこと | 2. 学校の成績のこと |
| 3. 習い事のこと | 4. 家族のこと |
| 5. 生活や勉強に必要なお金のこと | 6. 自分のために使える時間が少ないこと |
| 7. その他() | 8. 特になし ⇒問11へ |

問10 問9 で 1.~7. のいずれかに○をつけた人にお聞きします。○をつけた悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------|--------|-----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 話したくない |
|-------|--------|-----------|

② おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。おばあさん、おじいさんはどのような状態ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 高齢(65歳以上) | 2. 介護(食事や身の回りの世話)が必要 |
| 3. 認知症 | 4. 身体障害 |
| 5. 知的障害 | 6. こころの病気(うつ病など) |
| 7. お酒やギャンブルで困っている | 8. 6、7以外の病気 |
| 9. 日本語が苦手 | 10. その他() |
| 11. わからない | |

③ きょうだいをお世話している人にお聞きします。きょう代いはどのような状態ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1. 若い | 2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要 |
| 3. 身体障害 | 4. 知的障害 |
| 5. 病気 | 6. 日本語が苦手 |
| 7. その他() | 8. わからない |

④ 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。「その他」の人はどのような状態ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 高齢(65歳以上) | 2. 若い |
| 3. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要 | 4. 認知症 |
| 5. 身体障害 | 6. 知的障害 |
| 7. こころの病気(うつ病など) | 8. お酒やギャンブルで困っている |
| 9. 7、8以外の病気 | 10. 日本語が苦手 |
| 11. その他() | 12. わからない |

(3)あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人いる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) | 2. きょうだいのお世話や送り迎え |
| 3. 入浴やトイレのお世話 | 4. 買い物や散歩と一緒にいく |
| 5. 病院へ一緒に行く | 6. 話を聞く |
| 7. 見守り | 8. 通訳(日本語や手話など) |
| 9. お金の管理 | 10. 薬の管理 |
| 11. その他() | |

(4)あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。何人かお世話をしている人がいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

- | | | | |
|----------------------|------------|----------|----------|
| 1. お母さん | 2. お父さん | 3. おばあさん | 4. おじいさん |
| 5. きょうだい | 6. しんせきのひと | 7. 自分のみ | |
| 8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用 | 9. その他() | | |

(5)あなたは何才からお世話をしていますか。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません)

()才から

(6)あなたはどのくらいお世話をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～5日 | 3. 週に1～2日 |
| 4. 1か月に数日 | 5. その他() | |

(7)あなたは学校のある日に何時間くらいお世話をしていますか。日によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください。(数字を記入)

1日()時間くらい

問13 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 学校に行きたくても行けない | 2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう |
| 3. 宿題など勉強する時間がない | 4. 学校の行事や活動に参加できない |
| 5. 眠る時間が足りない | 6. 友だちと遊ぶことができない |
| 7. 習い事ができない | 8. 自分の時間が取れない |
| 9. その他() | 10. 特にない |

問14 お世話をすることに大変さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|-----------------|
| 1. 体力の面で大変 | 2. 気持ちの面で大変 | 3. 時間の余裕がない | 4. 特に大変さは感じていない |
|------------|-------------|-------------|-----------------|

問15 あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. ある ⇒問16へ | 2. ない ⇒問17へ |
|-------------|-------------|

問16 問15で「1. ある」と答えた人にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. 家族(お母さん、お父さん、おばあさん、おじいさん、きょうだい) | 2. しんせき(おじさん、おばさんなど) |
| 3. 友だち | 4. 学校の先生(保健室の先生以外) |
| 5. 保健室の先生 | 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
(学校で先生以外に相談を聞いてくれる大人) |
| 7. 病院・医療・福祉サービスの人 | 8. 近所の人 |
| 9. SNS(LINEなど)上での知り合い | 10. 市役所の人 |
| 11. 民生委員・児童委員の人 | 12. その他() |

⇒問16を回答したら問19へ進んでください

問17 問15で「2. ない」と答えた人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 相談するほどの悩みではないから | 2. 誰に相談するのがよいかわからないから |
| 3. 相談できる人がいないから | 4. 家族のことを話したくないから |
| 5. 家族から他人に相談しないように言われているから | 6. 家族に対して嫌な思いを持たれたくないから |
| 7. 相談しても何も変わらないから | 8. その他() |

問18 問15 で「2. ない」と答えた人にお聞きします。あなたがお世話している家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. いる 2. いない

問19 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 自分のことについて話を聞いてほしい
 - 2. 家族のお世話について相談にのってほしい
 - 3. 自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい(ヘルパーなど)
 - 4. 自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい(ヘルパーなど)
→具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか()
 - 5. 家族の病気や障害、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい
 - 6. 自由に使える時間がほしい
 - 7. 勉強を教えてほしい
 - 8. お金の面で支援してほしい
 - 9. その他()
 - 10. 特にない
 - 11. わからない
- 問20 へ
- 問21 へ

問20 問19 で「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」または「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と答えた人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったりしてほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 直接会って 2. 電話 3. SNS (LINEなど)
4. 電子メール 5. その他()

問21 子どもの権利について下の文章を読んでお答えください。

「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」では、以下のような権利を子どもに保障しており、子どもにとって一番いいことは何かということを中心にしなければならぬと述べています。

【生きる権利】

栄養のある食事をとったり、病気やけがをしたら治療を受けられること。など

【育つ権利】

教育を受け、休んだり遊んだりできること。

考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができること。など

【守られる権利】

あらゆる種類の差別やまわりからの暴力から守られること。など

【参加する権利】

自由に意見を言ったり、いろいろな活動に参加したりできること。など

あなたは、自分の権利が守られていると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|---------------|---------------|
| 1. 守られている | 2. だいたい守られている | 3. あまり守られていない |
| 4. 守られていない | 5. わからない | |

問22 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、こうしてほしいと思うこと、他にも困っていることがあれば自由に書いてください。

問23 最後に、家族のお世話について悩んでいて、今すぐ「相談したい」、「何かしてほしい」と思っている人のみ、こちらに学校名とお名前を書いてください。

※こちらにお名前を書いた場合、久留米市がお名前やアンケートの内容を確認し、お話を聞かせてもらうために、学校経由で連絡をする可能性があります。個人情報は守られますので、安心してください。

学校名:

お名前:

家族のお世話をするのは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友だちなどで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生などへ相談してください。

－アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。－

相談したいけど問23に書きたくない人は、直接「結らいいん」(電話:0120-870-552)に電話することもできます。久留米市役所 子育てサポートセンターにつながります。子どもの相談を受ける専門の相談員が対応するので安心してください。そうじや料理、家のことのお手伝いもできます。

(2) 中学生

児童生徒の生活に関するアンケート調査(中学生)

I. あなたについて

問1 あなたの学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学2年 2. 高校2年

問2 あなたの通っている学校の学校種別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 公立 2. 国立 3. 私立 4. 特別支援学校
5. 聴覚特別支援学校

問3 高校生(問1 で「2」と回答した方)にお聞きします。あなたの通っている課程を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 全日制 2. 定時制 3. 通信制 4. その他()

問4 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他 4. 答えない

問5 あなたが住んでいる(普段生活している)地区を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 西国分 2. 荘島 3. 白吉 4. 篠山 5. 京町
6. 南薫 7. 鳥飼 8. 長門石 9. 小森野 10. 金丸
11. 東国分 12. 御井 13. 南 14. 合川 15. 山川
16. 上津 17. 高良内 18. 宮ノ陣 19. 山本 20. 草野
21. 安武 22. 荒木 23. 大善寺 24. 善導寺 25. 大橋
26. 青峰 27. 津福 28. 船越 29. 水縄 30. 田主丸
31. 水分 32. 竹野 33. 川会 34. 柴刈 35. 弓削
36. 北野 37. 大城 38. 金島 39. 城島(下田・浮島を含む)
40. 江上 41. 青木 42. 西牟田 43. 犬塚 44. 三瀨
45. その他(久留米市外など)

問6 あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父
5. 兄・姉⇒()人 6. 弟・妹⇒()人 7. その他()

問7 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

II. 普段の生活について

問8 学校への通学状況(病気の場合を除く)について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

(1) 欠席の状況

1. ほとんど欠席しない 2. たまに欠席する 3. よく欠席する

(2) 遅刻や早退の状況

1. ほとんどしない 2. たまにする 3. よくする

問9 部活動(学校外での活動を含む)や習い事をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. はい 2. いいえ

問10 普段の学校生活であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業中に居眠りすることが多い 2. 宿題や課題ができていないことが多い
 3. 持ち物の忘れ物が多い 4. 部活動や習い事を休むことが多い
 5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い
 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する 7. 保健室で過ごすことが多い
 8. 学校では1人で過ごすことが多い 9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
 10. 家のことが気になって落ち着けないことが多い 11. 特にない

問11 現在、悩んだり困ったりしていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと 2. 学業成績のこと
 3. 進路のこと 4. 部活動のこと
 5. 学費など学校生活に必要なお金のこと 6. 塾(通信含む)や習い事のこと(行きたくても行けないなど)
 7. 家庭の経済的状況のこと 8. 自分と家族との関係のこと
 9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど) 10. 病気や障害のある家族のこと
 11. 自分のために使える時間が少ないこと 12. その他()
 13. 特にない ⇒ 問13 へ

問12 問11で1.~12.のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談のついでに、話を聞いてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる 2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話をしたくない

問13 進路希望についておたずねします。あなたは将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学校まで 2. 高校まで 3. 短期大学・専門学校まで 4. 大学・大学院まで
5. その他() 6. わからない

III. 家庭や家族のことについて

問14 家族の中にあなたがお世話をしている方はいますか。(ここで「お世話」とは本来、大人がすると考えられる食事のしたく、洗たくなどの家事や家族のお世話などを日常的にすることです。)(あてはまる番号1つに○)

1. いる 2. いない ⇒問25へ

問15 問14で「1. いる」と回答した方にお聞きします。お世話の状況について教えてください。

(1)お世話をしている方(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親	2. 父親	→	(2)①の質問へ進んでください
3. 祖母	4. 祖父	→	(2)②の質問へ進んでください
5. きょうだい		→	(2)③の質問へ進んでください
6. その他()		→	(2)④の質問へ進んでください

※次のページへ

お世話をしている人が何人いる場合には、それぞれについてお答えください。

(2)お世話をしている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。

① 母親、父親をお世話している方にお聞きします。それはどのような理由ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢(65歳以上)	2. 介護(食事や身の回りの世話)が必要
3. 認知症	4. 身体障害
5. 知的障害	6. 精神科の病気
7. お酒やギャンブルの問題がある	8. 6、7以外の病気
9. 日本語が苦手	10. 仕事が忙しく、つかれている
11. 母親が妊娠中・乳幼児がいる	12. その他()
13. わからない	

② 祖父、祖母をお世話している方にお聞きします。それはどのような理由ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢(65歳以上)	2. 介護(食事や身の回りの世話)が必要
3. 認知症	4. 身体障害
5. 知的障害	6. 精神科の病気
7. お酒やギャンブルの問題がある	8. 6、7以外の病気
9. 日本語が苦手	10. その他()
11. わからない	

③ きょうだいをお世話している方にお聞きします。それはどのような理由ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 若い	2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要
3. 身体障害	4. 知的障害
5. 病気	6. 日本語が苦手
7. その他()	8. わからない

④「その他」の人をお世話している方にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 高齢(65歳以上) | 2. 若い |
| 3. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要 | 4. 認知症 |
| 5. 身体障害 | 6. 知的障害 |
| 7. 精神科の病気 | 8. お酒やギャンブルの問題がある |
| 9. 7、8以外の病気 | 10. 日本語が苦手 |
| 11. その他() | 12. わからない |

(3)あなたがしているお世話の内容を教えてください。何人かいる場合はあてはまる番号を選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|-------------------------|------------------------------|----------|
| 1. 家事(食事の準備や掃除、洗たくなど) | 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など | |
| 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) | 4. 外出の付き添い(買い物、散歩など) | |
| 5. 病院への付き添い | 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) | |
| 7. 見守り | 8. 通訳(日本語や手話など) | 9. お金の管理 |
| 10. 薬の管理 | 11. その他() | |

(4)お世話は誰と行っていますか。何人かいる場合はあてはまる番号を選んでください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | | |
|-----------|---------|---------|----------------------|
| 1. 母親 | 2. 父親 | 3. 祖母 | 4. 祖父 |
| 5. きょうだい | 6. 親戚の人 | 7. 自分のみ | 8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用 |
| 9. その他() | | | |

(5)お世話を始めたあなたの年齢をお答えください。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

()歳から

(6)どれくらいお世話をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～5日 | 3. 週に1～2日 |
| 4. 1か月に数日 | 5. その他() | |

(7) 平日に何時間程度お世話を 行っていますか。日によって異なる場合は、この 1ヶ月で最も長かった日の時間をお答えください。(数字を記入)

1日()時間程度

問16 お世話をしているために、やりたいけど、できていないことはありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校に行きたくても行けない	2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない	4. 学校の行事や活動に参加できない
5. 睡眠が十分に取れない	6. 友人と遊ぶことができない
7. 部活動や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	8. 進学先や就職などの進路の変更を考えたいといけな、または進路を変更した
9. 自分の時間が取れない	10. その他()
11. 特にな	

問17 お世話をするなかで何につらさ・ストレスを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 体力面 2. 精神面 3. 時間的に余裕がない 4. 特につらさは感じていない

問18 お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。
(あてはまる番号1つに○)

1. ある ⇒問19へ 2. ない ⇒問20へ

問19 問18で「1. ある」と回答した方にお聞きします。悩みを相談した相手は誰ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. 家族(母親、父親、祖母、祖父、きょうだい) | 2. 親戚(おば、おじなど) |
| 3. 友人 | 4. 学校の先生(保健室の先生以外) |
| 5. 保健室の先生 | 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー |
| 7. 医師や看護師、その他病院の人 | 8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人 |
| 9. 市役所や保健センターの人 | 10. 民生委員・児童委員の人 |
| 11. 近所の人 | 12. SNS上での知り合い |
| 13. その他() | ⇒問19を回答したら問22へ進んでください |

問20 問18で「2. ない」と回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。
(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 誰かに相談するほどの悩みではない |
| 2. 家族以外の人に相談するような悩みではない |
| 3. 誰に相談するのがよいかわからない |
| 4. 誰かに相談したいが、相談できる人が身近にいない |
| 5. 誰かに相談したいが、家族のこのため話にくい |
| 6. 家族のことを知られたくない |
| 7. 家族に対して偏見をもたれたくない |
| 8. 誰かに相談したいが、家族から他人に相談しないように言われている |
| 9. 誰かに相談したいが、家族に対して嫌な思いを持たれたくない |
| 10. 相談しても状況が変わると思わない |
| 11. その他() |

問21 問18で「2. ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お話を聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問24 問23 で「1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した方にお聞きします。どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|----------|-----------|--------|
| 1. 直接会って | 2. 電話 | 3. SNS |
| 4. 電子メール | 5. その他() | |

問25 あなたは、家族のお世話をしている子どもが悩みを相談できる以下の相談窓口を知っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校(担任の先生や保健室の先生)
2. 久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口(TEL:0942-30-9302)
(久留米市の相談窓口です)
3. 結らいん(TEL:0120-870-552)
(18歳までの子どもが利用できる久留米市の電話相談窓口です)
4. 24時間子ども SOS ダイヤル(TEL:0120-0-78310)
(心の教育センターの24時間対応の電話相談窓口です)
5. 児童相談所相談専用ダイヤル(TEL:0120-189-783)
(児童相談所の24時間対応の電話相談窓口です)
6. 知らない

問26 子どもの権利について下の文章を読んでお答えください。

「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」では、以下のような権利を子どもに保障しており、子どもにとって一番いいことは何かということを大事にしなければならないとうたっています。

【生きる権利】

栄養のある食事をとったり、病気やけがをしたら治療を受けられること。など

【育つ権利】

教育を受け、休んだり遊んだりできること。

考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができること。など

【守られる権利】

あらゆる種類の差別やまわりからの暴力から守られること。など

【参加する権利】

自由に意見を言ったり、いろいろな活動に参加したりできること。など

あなたは、自分の権利が守られていると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------|---------------|---------------|
| 1. 守られている | 2. だいたい守られている | 3. あまり守られていない |
| 4. 守られていない | 5. わからない | |

問27 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、こうしてほしいと思うこと、他にも困っていることがあれば自由に書いてください。

問28 最後に、家族のお世話について悩んでいて、今すぐ「相談したい」、「何かしてほしい」と思っている人のみ、こちらに学校名とお名前を書いてください。

※こちらにお名前を書いた場合、久留米市がお名前やアンケートの内容を確認し、お話を聞かせてもらうために、学校経由で連絡をする可能性があります。個人情報は守られますので、安心してください。

学校名:

お名前:

家族のお世話をするとは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友だちなどで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生などへ相談してください。

—アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。—

相談したいけど問28に書きたくない人は、直接「結らいいん」(電話:0120-870-552)に電話することもできます。久留米市役所 子育てサポートセンターにつながります。子どもの相談を受ける専門の相談員が対応するので安心してください。そうじや料理、家のことのお手伝いもできます。

(3) 学校

学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

I. 基本情報

問1 学校種別をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-----------|-----------|----------------|--------------|
| 1. 市立小学校 | 2. 市立中学校 | 3. 市立高等学校 | 4. 私立中学校 |
| 5. 私立高等学校 | 6. 県立高等学校 | 7. 県立高等学校(定時制) | |
| 8. 国立小学校 | 9. 国立中学校 | 10. 組合立高等学校 | 11. 国立高等専門学校 |

問2 学校名をお教えてください。

学校名:

問3 学校規模(児童・生徒数)をお教えてください。

児童・生徒数:()人

問4 ご回答される方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 1. 校長 | 2. 副校長・教頭 | 3. 主幹教諭 | 4. その他() |
|-------|-----------|---------|-----------|

II. 支援が必要だと思われる児童・生徒への対応についてお伺いします。

問5 SSW、SC の派遣・配置状況(令和5年9月末時点)をお伺いします。

(1)SSW の派遣・配置状況(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 週に2日～4日派遣・配置している | 2. 週に1日程度派遣・配置している |
| 3. その他() | 4. 派遣・配置していない |

(2)SC の派遣・配置状況(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 週に2日～4日派遣・配置している | 2. 週に1日程度派遣・配置している |
| 3. その他() | 4. 派遣・配置していない |

問6 下記の児童・生徒について校内で共有しているケースはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 学校を休みがちである | 2. 遅刻や早退が多い |
| 3. 保健室で過ごしていることが多い | 4. 精神的な不安定さがある |
| 5. 身だしなみが整っていない | 6. 学力が低下している |
| 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い | 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い |
| 9. 学校に必要なものを家庭から用意してもらえない | 10. 部活を途中でやめてしまった |
| 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する | 12. 校納金が遅れる、未払い |
| 13. その他() | |

問7 校内ではどのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 学年会 | 2. 生徒指導部会・特別支援教育部会 |
| 3. ケース会議 | 4. 不登校に関する対策会議 |
| 5. 個別に検討している →問9へ | 6. その他 |

問8 問7について、会議の頻度はどれくらいですか。(あてはまる欄に番号を記入)

	頻度
1. 学年会	
2. 生徒指導部会・特別支援教育部会	
3. ケース会議	
4. 不登校に関する対策会議	
5. その他()	

<頻度の選択肢>

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 毎週 | 2. 2週間に1回程度 | 3. 月に1回程度 |
| 4. 半年に1回程度 | 5. 年に1回程度 | 6. 適宜 |

問9 問6のケースについて、貴校ではどのような体制・方法で情報共有・対応の検討を行っていますか。関わる教職員、情報共有や検討の方法について、具体的にお教えてください。

問10 問6のケースについて、学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。下記1～3のそれぞれについてお答えください。また、連携体制がある場合は、連携する関係機関を選択肢からお選びください。

ケース	体制(1つに○)	関係機関(あてはまる数字を記入)
1. 要保護児童対策地域協議会の登録ケース	1. ある _____ 2. 特にない	→
2. 不登校のケース	1. ある _____ 2. 特にない	→
3. それ以外	1. ある _____ 2. 特にない	→

<関係機関の選択肢>

<p>【行政】</p> <p>1. 児童相談所</p> <p>2. 市子ども未来部</p> <p>3. 市(上記以外)</p> <p>4. 警察や刑事司法関係機関(少年院、保護観察所など)</p> <p>【医療】</p> <p>5. 医療機関</p> <p>6. 訪問看護事業所</p> <p>【保育・教育】</p> <p>7. 関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会</p> <p>8. 保育園・幼稚園など</p> <p>9. 校外教育支援教室「らるご」</p> <p>10. フリースクール</p> <p>【障害者支援】</p> <p>11. 障害者基幹相談支援センター</p> <p>12. 障害者相談支援事業所</p> <p>13. 発達障害者支援センターあおぞら</p> <p>14. 障害者福祉サービス事業所(ホームヘルプ)</p>	<p>【高齢者支援】</p> <p>15. 居宅介護支援事業所 (ケアプラン・ケアマネージャー)</p> <p>16. 地域包括支援センター</p> <p>【権利擁護】</p> <p>17. 福岡人権擁護委員協議会</p> <p>18. 弁護士会</p> <p>19. 成年後見推進センター</p> <p>【地域における子ども等支援】</p> <p>20. 社会福祉協議会</p> <p>21. 民生委員・主任児童委員</p> <p>22. 子ども食堂などの民間団体・施設</p> <p>【外国人支援】</p> <p>23. 福岡県外国人相談センター</p> <p>24. その他()</p>
---	---

Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている児童・生徒のことです。

責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

問11 貴校ではヤングケアラーという概念を認識していますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------------------------|--------|
| 1. 言葉を知らない | } 問15へ |
| 2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない | |
| 3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない | |
| 4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している | →問12へ |

問12 問11で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方にお伺いします。
ヤングケアラーと思われる児童・生徒の実態を把握していますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| 1. 把握している | →問13へ |
| 2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない | } 問15へ |
| 3. 該当する子どもはいない(これまでもいなかった) | |

問13 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。

ヤングケアラーと思われる児童・生徒をどのように把握していますか。(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている |
| 2. 特定のツールはないが、児童生徒や保護者の話や様子から把握している。 |
| 3. その他() |

問14 問12で「1. 把握している」と回答した方にお伺いします。

ヤングケアラーの実態把握に取り組む際に工夫していること・難しいことについて、
具体的にお教えてください。

--

問15 下のヤングケアラーの定義を踏まえてお答えください。

<ヤングケアラーのイメージ例>



障害や病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障害や病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている



障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

こども家庭庁 (<https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer/>、参照 2023-08-04) を加工して作成

現在、貴校にヤングケアラーと思われる(該当する可能性のある)児童・生徒はいますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. いる	→問16へ
2. いない	---問20へ
3. わからない	---

問16 問15で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

ヤングケアラーと思われる児童・生徒の状況は下記のうちどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 障害や病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障害や病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声かけをしている
5. 家族の通訳をしている(日本語や手話など)
6. 家計を支えるために労働をして、障害や病気のある家族を助けている
7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている
9. 障害や病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障害や病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11. その他()

問17 問15で「1. いる」と回答した方にお伺いします。

ヤングケアラーと思われる児童・生徒について、具体的に学校以外の外部(教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など)の支援につないだケースはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 要保護児童対策地域協議会(市家庭子ども相談課や児童相談所等)に通告したケースがある →問19①ハ
2. 要保護児童対策地域協議会(市家庭子ども相談課や児童相談所等)に通告はしていないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある →問19②ハ
3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している) →問18及び問19③ハ

問18 問17で「3. 外部の支援にはつないでいない(学校内で対応している)」と回答した方にお伺いします。

その理由をお教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校内で対応できているから
2. 外部の支援につなぐほどの課題がないと思われるため
3. 保護者との連携や関係者による支援を得られているため
4. 実態を把握している段階であるため
5. 家庭内の様子が分からず、確認がないため
6. 本人から誰にも知られたくないと伝えられているから
7. つなぎ先が分からないため
8. その他()

つないだ機関	
外部機関への つなぎ方	1. 市・県教育委員会経由 2. 学校から直接連絡 3. SSW からの連絡 4. その他()
支援をしていく上 での校内体制及び 周りの教職員の協力	
学校で行った支援 (つなぎ先との 連携も含めて)	
支援した結果、 児童・生徒の変化	

	6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守りや看病など 8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他() 12. わからない
	d)ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ 1. 児童・生徒本人から話を聞いた 2. 児童・生徒の学校生活の状況、様子から 3. 学校での面談やアンケートから 4. 養護教諭、SC、SSW からの報告 5. 保護者・親族からの相談や保護者の状況から 6. 家庭訪問 7. 出身校園からの引継ぎ 8. その他()
検討したがつなげ なかった機関	
つなげなかった理 由	
支援をしていく上 での校内体制及び 周りの教職員の協力	
学校で行った支援	
支援した結果、 児童・生徒の変化	

問 20 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 児童・生徒自身がヤングケアラーについて知るための教育・啓発
2. 保護者がヤングケアラーについて知るための啓発・情報提供
3. 教職員がヤングケアラーについて知ること
4. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
5. SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
6. 教職員に児童・生徒が相談しやすい関係をつくること
7. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
8. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
9. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
10. 学校が連携する NPO などのヤングケアラーを支援する団体が増えること
11. 福祉と教育の連携を進めること(具体的に)
12. その他()

問 21 学校でヤングケアラーの対応をする上で、課題だと思うことはどのようなことですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校においてヤングケアラーの概念や支援対象としての認識が不足している
2. ヤングケアラーの児童生徒に関する実態の把握が困難である
3. ヤングケアラーである児童・生徒自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識していない
4. その他()

問 22 ヤングケアラーを支援するにあたって、学校で、今後取り組み可能なことはどのようなことですか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 児童・生徒へのヤングケアラーについての啓発
2. 保護者に対するヤングケアラーについての啓発・情報提供
3. 教職員に対するヤングケアラーについての研修
4. 学校内のヤングケアラーの把握
5. SSW や SC などの専門職の配置推進
6. 児童・生徒が教職員に相談しやすい関係の構築
7. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
8. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口の設置
9. ヤングケアラーを支援する NPO などとの連携
10. 福祉に関する外部機関との連携(具体的に)
11. その他()
12. 特にない

(1) 問 22 について現場として優先して取り組みたいと思っている項目を優先順位が高い方から 3つお教えてください。

優先順位1位:() 優先順位2位:() 優先順位3位:()

問 23 久留米市役所こども子育てサポートセンター内にある
「久留米市ヤングケアラー相談・支援窓口」を知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問24 ヤングケアラーを支援するために、学校が今後、連携を強化していく必要があると思う機関について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

<p>【行政】</p> <p>1. 児童相談所</p> <p>2. 市子ども未来部</p> <p>3. 市(上記以外)</p> <p>4. 警察や刑事司法関係機関(少年院、保護観察所など)</p> <p>【医療】</p> <p>5. 医療機関</p> <p>6. 訪問看護事業所</p> <p>【保育・教育】</p> <p>7. 関係小学校・中学校・高等学校・教育委員会</p> <p>8. 保育園・幼稚園など</p> <p>9. 校外教育支援教室「らるご」</p> <p>10. フリースクール</p> <p>【障害者支援】</p> <p>11. 障害者基幹相談支援センター</p> <p>12. 障害者相談支援事業所</p> <p>13. 発達障害者支援センターあおぞら</p> <p>14. 障害者福祉サービス事業所(ホームヘルプ)</p>	<p>【高齢者支援】</p> <p>15. 居宅介護支援事業所 (ケアプラン・ケアマネージャー)</p> <p>16. 地域包括支援センター</p> <p>【権利擁護】</p> <p>17. 福岡人權擁護委員協議会</p> <p>18. 弁護士会</p> <p>19. 成年後見推進センター</p> <p>【地域における子ども等支援】</p> <p>20. 社会福祉協議会</p> <p>21. 民生委員・主任児童委員</p> <p>22. 子ども食堂などの民間団体・施設</p> <p>【外国人支援】</p> <p>23. 福岡県外国人相談センター</p> <p>24. その他()</p>
---	---

(1) 問24について現場として優先して連携強化していきたいと思っている機関の優先順位が高い方から3つお教えてください。

優先順位1位:() 優先順位2位:() 優先順位3位:()

問25 ヤングケアラーに関して、ご意見・ご提案・ご要望等あればご自由にお答えください。

久留米市
ヤングケアラー支援のための子どもの生活実態調査 報告書
令和6年3月発行

発行 久留米市 子ども未来部 こども子育てサポートセンター
〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3
TEL 0942-30-9302
FAX 0942-30-9718